ユーザーズマニュアル

PCリモーターを快適にご利用いただけるよう、このマニュアルがご案内いたします。
説明の流れは次のようになっています。
このマニュアルを参考に、あなたのPCリモーターを操作していってください。

＊　＊　＊

PCリモーターは、自宅のパソコンを離れたところから操作するモバイル端末です。自宅内の別の部屋や外出先からもインターネットを経由して自宅のパソコンのデータやソフトを利用できます。
PCリモーターにはデータを保存しないので、持ち運びは安心です。

メモリーカードを取り付ければ、自宅のパソコンの中にあるファイルをメモリーカードへコピーしたり、メモリーカードからデータを自宅のパソコンに送ったりすることもできます（ホームメニューの「ファイル転送」で操作できます）。

PART1　ご使用前の準備

「ご使用前に確認すること」「PCリモーターサーバの準備」をご覧になり、本機を利用するために必要なサーバとネットワーク機器類を用意してください。
電源を入れたら次へ！

PART2　初期設定

初期設定は、自宅でおこなう設定です。PCリモーター→PCリモーターサーバ※→PCリモーター→お客様登録の順におこなっていきます。

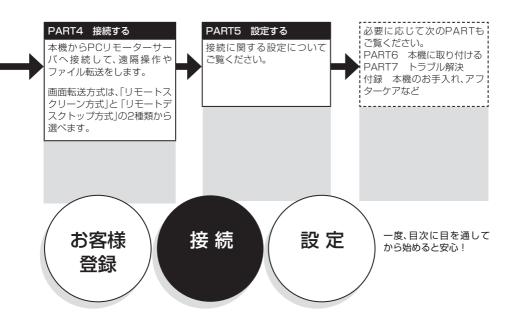
※：PCリモーターサーバとは、次のいずれかを指します。
・ホームサーバPC（Lui SX）
・VALUESTAR R Luiモデル
・PCリモーターサーバボードが搭載されたパソコン

PART3　基本的な使い方

基本的な操作方法をご確認ください。

準 備

電 源
ON

初期設定

基本操作

システムスイッチの操作も忘れずに！

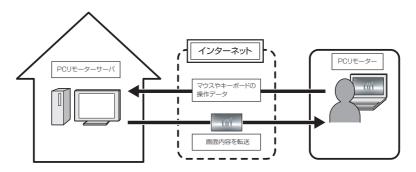
接続回線は、お使いのシーンに合わせて有線LAN、無線LAN、HSDPA通信カード※のうちから選べます。

※ 利用可能なHSDPA通信カードは、イー･モバイル社のD01NX、D01NX Ⅱで、事前にイー･モバイル社へ申し込みが必要です。

接続時に必要なルータなどの機材や、利用できるサーバの条件などについてPART1でご確認の上お使いください。

853-811001-001-A　2009年1月 初版

PCリモーターの遠隔操作方式

PCリモーターは、「リモートスクリーン」および「リモートデスクトップ」という2つの遠隔操作の方式を搭載しています。

●リモートスクリーン

「リモートスクリーン」とは、PCリモーター(本機)からPCリモーターサーバ(自宅のホームサーバPC(Lui SX)、VALUESTAR R Luiモデル、PCリモーターサーバボードを搭載したパソコン)へ接続をおこない、遠隔操作する機能です。

「リモートスクリーン」接続をすると、本機から自宅のパソコンに接続して動画再生を含むパソコン操作が可能です※1。

「リモートスクリーン」接続すると、自宅のパソコンへメールが送信され、自宅のパソコンが起動します。リモートスクリーン接続によって自宅のパソコンの画面と音声が本機に転送され※2、本機で操作できるようになります※3。

※1: ただし、DVD再生や地デジ視聴、解像度切り換えを伴うソフト、一部のオンラインゲームなど使用できないものがあります。
※2: NEC独自のデータ圧縮LSI(リモートスクリーン・エンジン)によって、圧縮率や送信フレーム数を変化させ送信します。
※3: リモートスクリーン接続で同時に接続できるPCリモーターは1台です。

PCリモーターのマウスやキーボードで操作をおこなうと、その情報がPCリモーターサーバに送られ、それを反映した画面が届くという仕組み

● リモートデスクトップ

「リモートデスクトップ」とは、PCリモーター(本機)から、OSがWindows Vista Ultimate SP1/Vista Business SP1/XP Professional SP3のPCリモーターサーバへ接続をおこない、遠隔操作する機能です。

本機では、公衆無線LAN、またはCFカードタイプのHSDPA通信カード(イー・モバイル社D01NX、D01NX Ⅱ)でご利用いただけます(事前にイー・モバイル社へサービスの利用申し込みが必要です)。

「リモートデスクトップ」で自宅のパソコンに接続して、メールやワープロ、ホームページの閲覧などがご利用できます。
無線LANの電波状況が悪く回線速度が遅い場合、HSDPAで接続して、メールやワープロ、ホームページの閲覧などをするときにおすすめです。

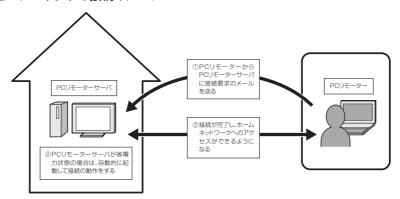
※ 自宅のパソコンに接続して動画再生を含むパソコン操作(ただし、DVD再生や地デジ視聴、解像度切り換えを伴うソフト、一部のオンラインゲームなどを除く)をしたい場合は、HSDPA以外の通信回線(宅内やホテルなどの有線LAN、宅内無線LAN、公衆無線LAN)で「リモートスクリーン」接続をしてご利用ください。

●ハイブリッドリモートスクリーンについて

「ハイブリッドリモートスクリーン」とは、「リモートスクリーン」または「リモートデスクトップ」のどちらかを選んでご利用になれる機能です。PCリモーターサーバのOSの種類により、ご利用可能な方式およびご利用方法が異なります。詳しくは、PART4の「リモートスクリーン方式とリモートデスクトップ方式」(p.106)をご覧ください。

● リモートパワーオンについて

本機からリモートスクリーン接続およびリモートデスクトップ接続するとき、PCリモーターサーバがスリープまたは休止状態の場合、PCリモーターサーバは自動的に起動します。
ホームサーバPC(Lui SX)をお使いの場合は、シャットダウン状態からも起動できます。

セーフコネクトとは

セーフコネクトは、宅外からリモートスクリーン接続やリモートデスクトップ接続、ファイル転送[※1]をするときに、PCリモーターとPCリモーターサーバを接続するためのソフトです。

一般に、宅外からインターネット経由で自宅のパソコンに接続しデータを安全にやりとりする場合、専門的な知識や複雑な設定が必要です。本機では、セーフコネクトにより、自宅のPCリモーターサーバと本機とを専用線のように接続するため、盗聴や改ざんなどの危険性を低くしてアクセスできます[※2]。

セーフコネクトでは、宅外から自宅のPCリモーターサーバに接続するとき、自宅のPCリモーターサーバのグローバルIPアドレスなど必要な情報をメール交換で取得します[※3]。そのため、Webメール、フリーメール、広告が挿入されるメールは、セーフコネクトの接続に利用できません。

※1: リモートスクリーン接続やリモートデスクトップ接続、ファイル転送は、本機のホームメニューから操作します。

※2: 本機能の使用にあたっては、あらかじめ接続先のパソコンに、PART2の「セーフコネクト接続設定(ホームサーバPC/パソコン側)」(p.67)をおこなってください。セーフコネクトの設定は、PCリモーターサーバ/ PCリモーターの組み合わせごとに登録します。PCリモーターサーバ(ホームサーバPC(Lui SX)、VALUESTAR R Luiモデル、PCリモーターサーバボードが搭載されたパソコン)に登録できるPCリモーターは最大8台です。

※3: 最初に任意のメールアドレスを登録して各PCリモーターの初期設定を済ませれば、ホームメニューの「ハイブリッドリモートスクリーン」を選択したとき自動的にメールが送受信され、接続されます。

セーフコネクトの接続イメージ

PCリモーターを起動して接続要求を出すと、登録した接続先のメールアドレスに、PCリモーターサーバのIPアドレスを問い合わせるメッセージが自動送信されます。PCリモーターサーバが現在のIPアドレスを返信すると、両者のネットワーク上の位置が特定でき、正しく接続されるという仕組みです。さらにPCリモーターサーバの電源が入ります。これらのPCリモーターサーバ側の動作は、内部に組み込まれたマイコンがおこなうため、待機電流が必要です。

※ ホームサーバPC(Lui SX)をお使いの場合、シャットダウン状態からも起動できます。

・ セーフコネクトの接続は、PCリモーターとPCリモーターサーバの間でメールの送受信をおこなうため、接続完了までに数分かかる場合があります。
・ １台のPCリモーターサーバに対して同時に複数台がセーフコネクト接続をすることはできません（セーフコネクト／クライアントを搭載したパソコンを含む）。

HSDPA通信カードを利用する場合

HSDPA(High Speed Downlink Packet Access)は、携帯電話などに採用されている無線通信の規格のひとつです(下り最大通信速度7.2Mbps)。
本機とPCリモーターサーバを接続する際に、CFカードタイプのHSDPA通信カード(イー･モバイル社　D01NX、D01NX Ⅱ)をご利用いただけます(あらかじめイー･モバイル社へ利用申し込みが必要です)。

HSDPA通信カードを利用すると、公衆無線LANスポットやホテルなど、インターネットに接続できる環境がない場合でも、HSDPA通信サービスのエリア内から自宅のパソコンへ接続できます。リモートパワーオンにも対応しています。

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトウェアの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
	関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。

◆このマニュアルでは、各モデル(機種)を次のような呼び方で区別しています

製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

本機	Lui RNを指します。
PC リモーターサーバ	次のいずれかを指します。 ・ホームサーバPC(Lui SX) ・VALUESTAR R Luiモデル ・PCリモーターサーバボードが搭載されたパソコン
PC リモーターサーバボードセットモデル	PCリモーターサーバボードがセットになっているモデルのことです。

◆PCリモーターサーバボードセットモデルについて

・PCリモーターサーバボードセットモデルについては、PCリモーターサーバボードセットモデルに添付されている『PCリモーターサーバボードセットモデルをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。なお、PCリモーターサーバボードセットモデルには、本文中に記載されている参照マニュアル『PCリモーターを使う準備をしよう　①ケーブル接続編』が添付されていませんのでご注意ください。

◆本文中の記載について

・本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。
・記載している内容は、このマニュアルの制作時点のものです。お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

Windows、Windows Vista	Windows Vista® Home Premium Service Pack 1(SP1) Windows Vista® Business Service Pack 1(SP1) Windows Vista® Ultimate Service Pack 1(SP1)
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版Service Pack 3
Windows CE	Microsoft® Windows® CE Operating System For Embedded Systems, Professional Version 5.0 日本語版
Windows Media Player	Windows Media® Player 11
Outlook 2007	Microsoft® Office Outlook® 2007
Windows メール	Windows®メール
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Windows® Internet Explorer®
ソリティア	Microsoft® ソリティア

◆ご注意

（1） 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
（2） 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3） 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
（4） 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、（3）項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
（5） 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
（6） 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス［NEC UltraCareSM International Service］対象機種に限り、当社の定める地域・サービス拠点にてハードウェアの保守サービスを行います。サービスの詳細や対象機種については、以下のホームページをご覧ください。
http://121ware.com/ultracare/jpn/
（7） ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

◆商標

Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Outlook、およびWindows Mediaは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
SDロゴは商標です。
miniSD、microSDは、SDアソシエーションの商標です。
CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporation 社の登録商標です。
AOSSロゴ、AOSS™およびAirStationは株式会社バッファローの商標です。
セーフコネクトはNECパーソナルプロダクツ株式会社の商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。（ただし、海外保証サービス［NEC UltraCare[SM] International Service］対象機種については、海外でのハードウェア保守サービスを実施致しております。）

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan. (Only some products which are eligible for NEC UltraCare[SM] International Service can be provided with hardware maintenance service outside Japan.)

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

目　次

PART

1

ご使用前の準備

添付品／型番の確認

添付品を確認する

箱を開けたら、まずは添付品がそろっているかを確認してください。

□PCリモーターサーバソフト 統合インストールCD-ROM v1.0（以下、統合インストールCD）

□ソフトウェアのご使用条件（お客様へのお願い）/ソフトウェア使用条件適用一覧

※1枚になっています。箱の中身を確認後必ずお読みください

□NECサービス網一覧表

□安全にお使いいただくために

※箱の中身を確認後必ずお読みください

□PCリモーターを使う準備をしよう ①ケーブル接続編

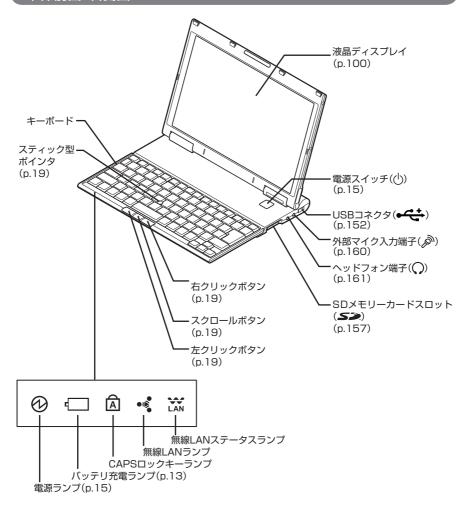
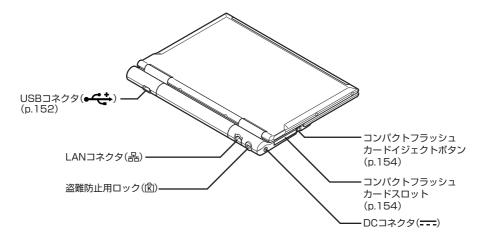
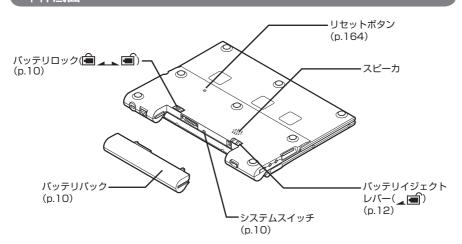
※PCリモーターサーバボードセットモデルには添付されていません。

□PCリモーターを使う準備をしよう ②設定編

□ユーザーズマニュアル（この冊子です）

万一、足りないものがあったり、一部が破損していたりしたときには、NEC 121コンタクトセンターにご連絡ください。

型番を確認する

本機の底面に記載されている型番と製造番号が保証書の番号と合っているか確認してください。番号が異なる場合は、NEC 121コンタクトセンターにご連絡ください。

NEC 121コンタクトセンター
(フリーコール)0120-977-121※
※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。
※携帯電話やPHS、IP電話など、上記電話番号をご利用いただけないお客様は次の電話番号へおかけください。
03-6670-6000(通話料お客様負担)

各部の名称と役割

本体前面/右側面

本体背面/左側面

本体底面

ご使用前に確認すること

本機をご利用になるには、ネットワークの回線やルータなどのネットワーク機器が必要です。

メモ

動作環境の詳細については次のホームページをご覧ください。
http://121ware.com/lui/

ここでは、PCリモーターとPCリモーターサーバ、ネットワークの設定をおこなう前に、必要なものがそろっているか確認します。

ご使用前に用意するもの

PCリモーターとPCリモーターサーバ、ネットワークの設定をおこなう前に、必要なものがそろっているか確認します。

■ご利用にあたって必要なもの

◎:利用シーンに関係なく、本機使用にあたり必須
○:サービスや機能を利用する場合に必要

用意するもの		宅内	宅外	備考
ルータ	UPnP対応		◎	複雑な操作をすることなく、機器をネットワークに接続し、ネットワークを通じて操作する規格です。
	DHCP対応	◎	◎	機器がネットワークに接続する際に必要な情報を提供する規格です。PCリモーターサーバをインストールする際は、DHCPサーバ機能を有効にする必要があります。
	グローバルIPアドレスの割り当て		◎	インターネットにつながっている機器に割り振られた、ほかと重複することのないアドレスのことです。宅外でPCリモーターを利用するには、ご自宅のルータにグローバルIPアドレスが割り振られている必要があります。グローバルIPアドレスは「動的」「固定」のどちらでもかまいません。ご自宅のルータにグローバルIPアドレスが割り振られているかについては、ご利用のプロバイダにお問い合わせください。
	LANの空きポート	◎	◎	接続状況により、ルータに必要な空きポートの数は異なります。ご利用されているルータにLANの空きポートが足りない場合は、スイッチングHUBなどが必要となる場合があります。必要な空きポートの数については、「ネットワーク接続図」(p.21)を参考にしてください。
	無線LAN	○	○	無線LANを使用する場合、PCリモーターと接続できる無線LAN回線(IEEE802.11b/g準拠)が必要です。
	有線LAN	◎	◎	PCリモーターサーバとルータは有線LANで接続します。

用意するもの		宅内	宅外	備考
PCリモーターサーバ※1	PCリモーターサーバとして、次のいずれかが必要 ・ホームサーバPC（Lui SX） ・VALUESTAR R Luiモデル ・PCリモーターサーバボードが搭載されたパソコン	◎	◎	PCリモーターサーバボードが搭載されたパソコンの場合、ディスプレイケーブルとオーディオケーブルをPCリモーターサーバボードと本体、ディスプレイに接続します。
	LANケーブル※2	◎	◎	
メールアカウント			◎	セーフコネクト使用時に必要です。（Webメール、フリーメール、広告が挿入されるメールなどは使用不可）迷惑メールフィルタをご利用になっている場合、セーフコネクトが正常に動作しないことがあります。
ブロードバンド回線			◎	宅外でPCリモーターを利用するには、インターネットサービスプロバイダ（プロバイダ）とのご契約が必要になります。 回線速度（上り回線の帯域）の目安は、PCリモーターサーバから3Mbps以上（FTTH）を推奨します。 回線速度の詳細は、ご利用のプロバイダにお問い合わせください。
インターネットに接続できる環境（宅外）			◎	外出先から自宅のPCリモーターサーバを利用するためには、公衆無線LANのスポットやホテルなど、インターネットに接続できる環境が必要です。
	公衆無線LANなどのサービス利用契約		○	事前にサービス提供業者との契約が必要です。また、利用時に店舗などで購入することによって、事前の申し込みが不要な場合もあります。
	HSDPA通信カード（D01NX、D01NX Ⅱ）		○	事前にイー・モバイル社との契約が必要です。

※1：LANケーブルを使って、ルータのLANポートとパソコンを次のコネクタで接続します。
①パソコン本体のLANコネクタ
②PCリモーターサーバボードのLANコネクタ

※2：ご利用の環境によって、使用するLANケーブルの本数が異なります。ご利用環境の詳細については、次の表を参照してください。

接続する機器	PCリモーターサーバの種類	必要なLANケーブルの数
PCリモーターサーバとルータ	パソコン	2本
	ホームサーバPC(Lui SX)	1本

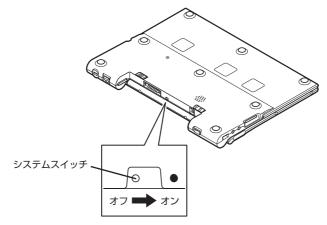
接続する機器	LANの種類	必要なLANケーブルの数
PCリモーターとルータ	有線LAN	1本
	無線LAN	0本

※3：宅外でPCリモーターを利用するには、公衆無線LANなどのインターネットに接続できる環境が必要です。
回線速度については、PART3の「接続のしかた」-「画面転送方式の選び方」(p.95)をご覧ください。

メモ

対応ルータ、動作確認済みのサービスなどについて詳しくは、次のホームページをご覧ください。

http://121ware.com/lui/

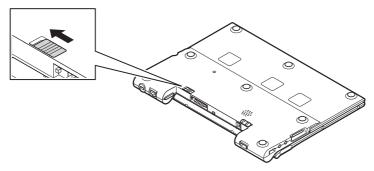
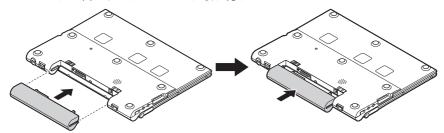
チェック

このマニュアルではPCリモーターサーバとは以下の3種類のいずれかを指します。

①ホームサーバPC(Lui SX)
②VALUESTAR R Luiモデル
③PCリモーターサーバボードが搭載されたパソコン

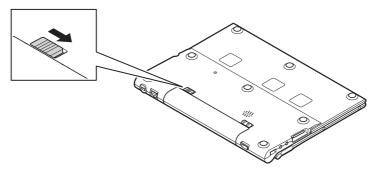
バッテリパックの取り付け／取り外し

システムスイッチをオンにする

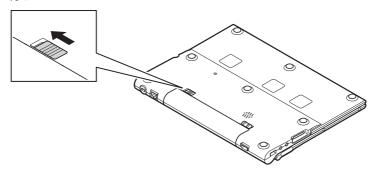
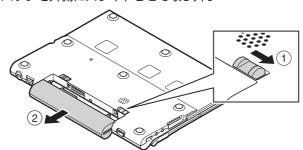
1 本機を裏返す

2 ペン先などでシステムスイッチを矢印の方向(●の印がある方向)に動かしてオンにする

システムスイッチをオンにしないと本機を起動することができません。

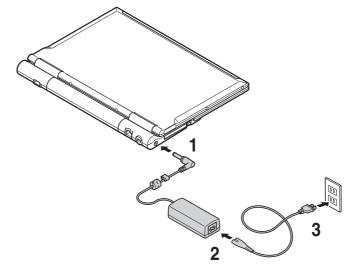
バッテリパックを取り付ける

1 バッテリロック( )を図の矢印の方向にスライドさせる

2 バッテリパックの両側のミゾと本体のガイドを合わせてスライドさせ、カチッと音がするまでしっかり取り付ける

取り付けるときは、バッテリパックの向きに注意してください。

3 バッテリロック( )を図の矢印の方向にスライドさせ、バッテリパックをロックする

バッテリパックを取り外す

バッテリパックを取り外すときは、【Fn】キーを押しながら本機の電源スイッチを電源ランプ()、CAPSロックキーランプ()が点滅するまで押し続けて電源を切ってください。点滅しているランプが消灯したら、電源コードのプラグをコンセントから抜いて、ACアダプタを取り外してください。

1 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

2 バッテリロック()を図の矢印の方向にスライドさせ、ロックを解除する

3 バッテリイジェクトレバーを図の矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリパックを外側にスライドさせて取り外す

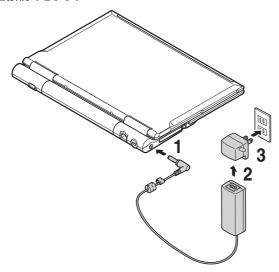
ACアダプタの取り付けと充電

ACアダプタを接続する

1 ACアダプタ（PC-VP-BP47）をDCコネクタに接続する

2 電源コードをACアダプタに接続する

3 電源コードのプラグをコンセントに差し込む

プラグをコンセントに差し込むと、バッテリ充電ランプ()が点灯して、バッテリの充電が始まります。
バッテリがフル充電されるとバッテリ充電ランプが消灯します。

チェック

ご購入直後は、バッテリ駆動ができなかったり動作時間が短くなることがあります。またバッテリ残量が正しく表示されない場合もあります。バッテリがフル充電されるまでACアダプタを抜かないでください。

ウォールマウントプラグを使う

コンセントの近くで本機を使うときは、ウォールマウントプラグを使うとコンパクトに電源と接続できます。

電源について

電源の入れ方/切り方

電源を入れる

ご購入後はじめて電源を入れるとき、または長期間使用していない、もしくはバッテリパックを交換した後に電源を入れるときは、有線LANケーブルを抜いてください。

1 電源スイッチを約1秒間押す

電源が入り、電源ランプ()が点灯します。

チェック

- 本機を長期間(1か月以上)使用しないときは、システムスイッチをオフにしておくと、バッテリパックや内蔵電池が長持ちします。
- ご購入後はじめて電源を入れた時、もしくは本機をリセットした時は、ホームメニューが表示されるまでに1分程度かかります。そのままお待ちください。

電源を入れると自動的にPCリモーターサーバに接続するように設定するには、PART5の「設定を変更する」-「本機の設定を変更する」-「設定できる項目」-「リモートスクリーン設定」の「電源オン時の自動起動」(p.140)をご覧ください。

電源を切る

1 電源スイッチを約1秒間押す

電源ランプが消灯すると電源オフ状態になります。

電源状態の確認方法

本機が電源オフ状態になっているかどうかは、電源ランプ(⏻)で確認できます。

電源ランプの状態	電源の状態
緑色に点灯	通常の状態
オレンジ色に点灯	バッテリ残量が少ない
赤色に点灯	バッテリ残量があとわずか
消灯	電源オフ状態

バッテリ残量が少ないままバッテリの電源のみで本機を使い続けると、メッセージが表示された後、電源オフ状態になり、電源ランプが消灯します。

バッテリ駆動

バッテリ状態の確認方法

バッテリのみで使用するときは、バッテリの残量に注意してください。本機のバッテリ状態は次の方法で確認できます。

■電源ランプで確認する

電源ランプ(⏻)の状態で、バッテリ残量を確認できます。緑は通常の状態ですが、オレンジや赤の場合はバッテリ残量が少なくACアダプタが接続されていない状態です。

■状態表示部(上)のアイコンで確認する

「ホームメニュー」が表示されているときは、画面右上にあるアイコンで、バッテリ残量やACアダプタが接続されているかを確認することができます。

バッテリ残量が少なくなったときには

バッテリ残量が少なくなったときは、次のどちらかの操作をおこなってください。

●コンセントが使えるとき

ACアダプタを持っていて、使えるコンセントが近くにあるときは、本機にACアダプタを接続してバッテリを充電してください。詳しくは、PART1の「ACアダプタの取り付けと充電」(p.13)をご覧ください。

●コンセントが使えないとき

使えるコンセントが近くにない、ACアダプタを持ってきていないなどの理由で、すぐにコンセントを使用できないときは、使用中のソフトを終了して、本機を電源オフ状態にしてください。

・外部メディアの読み書き中にバッテリ残量がなくなり、本機が電源オフ状態になると、作成中のデータが失われたり、壊れることがあります。
・バッテリパックは消耗品です。充放電を繰り返すと充電能力が低下します。

バッテリパックの交換

使用できる交換用バッテリパック

本機に取り付けることのできる交換用のバッテリパックは、次のとおりです。

品名	型番
バッテリパック	LU-AC-PW001

■バッテリパックの交換をするときの注意

・バッテリパックの交換をおこなう際は、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
・バッテリやバッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
・本機を起動したままでバッテリパックを交換しないでください。バッテリパックの交換をおこなうときは、【Fn】キーを押しながら本機の電源スイッチを電源ランプ(⏻)、CAPSロックキーランプ(🔒A)が点滅するまで押し続けて電源を切ってください。点滅しているランプが消灯したら、電源コードのプラグをコンセントから抜いて、ACアダプタを取り外してください。

バッテリを充電しても性能が回復しない場合

新しいバッテリパックをご購入になり交換してください。

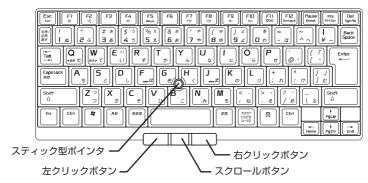
参照

バッテリ交換の手順について→このPARTの「バッテリパックの取り付け／取り外し」(p.10)

ご注意

バッテリパックのリサイクルについて

・リチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。不要になった二次電池は、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。
二次電池をリサイクルとして排出するまでのご注意
  - 電池パックは分解しないでください。
  - 雨など水にぬれないように保管してください。
  - 炎天下に放置しないでください。
  - 不要となった二次電池は、持ち込み拠点へお持ちください。詳しくは、NEC環境ホームページ(http://www.nec.co.jp/eco/ja/business/recycle/battery/)をご覧ください。

本機の操作方法

操作のしかた

キーボード中央にある「スティック型ポインタ」を使って、画面上のマウスポインタを動かすことができます。指先で上下左右に傾けると、マウスポインタが移動します。

スティック型ポインタを押す、または軽くたたくと、マウスをクリックしたときと同様の操作ができます（ただし、初期設定時は無効）。スティック型ポインタの感度の調整や動作の設定は、「設定」メニューから「システム設定」-「スティック型ポインタ設定」でおこなえます。

キーボード下にある「左クリックボタン」「右クリックボタン」は、それぞれマウスの左右クリックボタンに相当します。

また、キーボード下にある「スクロールボタン」を押しながら「スティック型ポインタ」を上下に動かすと、画面を上下にスクロールできます（対応しているソフトのみ）。

チェック

スティック型ポインタのキャップは、古くなると表面がすり減って滑りやすくなり、操作性が悪くなります。滑りやすくなったら、添付されている予備のスティック型ポインタ用キャップと交換してください。

キャップをつまんで上に引き上げると外れます。新しいキャップを上からかぶせてください。

無線LAN電源のオン／オフのしかた

【Fn】＋【F2】を押すごとに、無線LAN電源のオン／オフが切り換わります。また、「初期設定」を起動すると無線LAN電源がオンになります。

PCリモーターサーバの準備

PCリモーターとPCリモーターサーバを同一のネットワークに接続し、初期設定をする前に、次のことをおこないます。

PCリモーターサーバの設定前の確認をする

1 PCリモーターサーバの接続を確認する

AVマルチケーブルが、PCリモーターサーバの本体、PCリモーターサーバボード、ディスプレイと正しく接続されていることを確認してください。

PCリモーターサーバの接続確認について

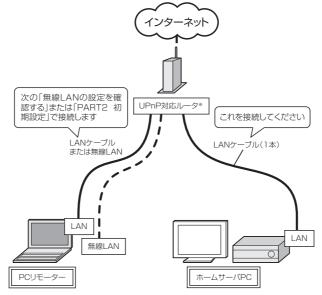
・PCリモーターサーバボードセットモデル以外の場合→PCリモーターサーバに添付のマニュアル、および本機に添付の『PCリモーターを使う準備をしよう ①ケーブル接続編』

・PCリモーターサーバボードセットモデルの場合→『PCリモーターサーバボードセットモデルをご購入いただいたお客様へ』

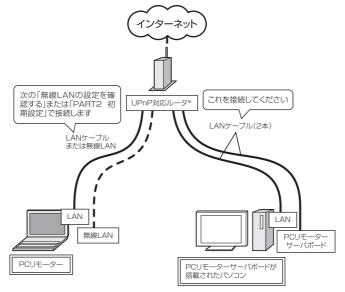
マルチディスプレイはサポートしていません。

2 Windowsユーザアカウントにパスワードが設定されていることを確認する

Windowsのパスワードは、自動ログオンユーザ設定をおこなうときに必要です。

ホームネットワークの準備

LANケーブルを接続する

PCリモーターサーバとルータは、LANケーブルで接続します。
Lui SXの場合は、1本用意してください。
パソコンの場合は、2本用意してください。

ネットワーク接続図

本機とPCリモーターサーバは次のように接続します。
LANケーブルを接続したら、一度パソコンもしくはホームサーバPCの電源を切り、入れなおしてください。

■自宅内の接続図 ホームサーバPC(Lui SX)の場合

※:ルータに空ポートがない場合は、スイッチングHUBが必要となります。

■自宅内の接続図 PCリモーターサーバボードが搭載されたパソコンの場合

※:ルータに空ポートがない場合は、スイッチングHUBが必要となります。

PCリモーターからPCリモーターサーバへの接続に無線LANを使用する場合は、まず、無線LANの設定を確認してください。

無線LANの設定を確認する

PCリモーターサーバとルータを接続して、無線LANの設定を確認します。
ルータによって無線LANの設定方法は異なります。ここでは、NEC製の「Aterm WR1200H」と、BUFFALO社製の「WHR-HP-G」をお使いの場合を例に説明しています。その他の無線ルータなどをお使いの場合は、各機器のマニュアルをご覧ください。
無線LANの確認をする前に、PCリモーターサーバでインターネットとメールが利用できることを確認してください。インターネットの接続設定については、ご契約の回線事業者/インターネットサービスプロバイダの情報にしたがって設定してください。

PCリモーターサーバとルータとが正しく接続され、下記の順番で電源を入れないと、正常に機能しません。

●パソコンの場合

1 機器の初期化のために、一度パソコンをシャットダウンする

2 パソコンの電源コードを一度コンセントから抜く

3 ルータとパソコンをLANケーブルで接続する

パソコンの本体のLANコネクタのほかにPCリモーターサーバボードのLANコネクタとルータのLANポートとをLANケーブルで接続します。

4 ルータの電源コードをコンセントにつなぐ

5 ルータの電源を入れる

6 ルータが起動しているのを確認して、パソコンの電源コードをコンセントにつなぐ

7 パソコンの電源を入れる

ルータを接続した後、はじめてパソコンを起動すると、ネットワークの場所の設定画面が表示されます。

8 「家庭」をクリックする

「Aterm WR1200H」をお使いの場合、「Aterm WR1200Hの場合」(p.25)へ進んでください。
「WHR-HP-G」をお使いの場合、「BUFFALO社製 WHR-HP-Gの場合」(p.27)へ進んでください。

●ホームサーバPC(Lui SX)の場合

1 機器の初期化のために、一度ホームサーバPC(Lui SX)をシャットダウンする

2. フロントカバーを開け、主電源(Main Power)スイッチを約4秒、主電源(Main Power)ランプがオレンジ色になるまで押す
3. 約2 ～ 3分待ち、主電源(Main Power)ランプが消えたことを確認する
4. ホームサーバPC(Lui SX)の電源コードを一度コンセントから抜く
5. ルータとホームサーバPC(Lui SX)をLANケーブル(1本)で接続する
6. ルータの電源コードをコンセントにつなぐ
7. ルータの電源を入れる
8. ルータが起動しているのを確認して、ホームサーバPC(Lui SX)の電源コードをコンセントにつなぐ
9. ホームサーバPC(Lui SX)の主電源(Main Power)スイッチを押す
10. 約2 ～ 3分ほど待ち、主電源(Main Power)ランプが青色になることを確認する
11. ホームサーバPC(Lui SX)のPC Powerを押す
    ルータを接続した後、はじめてパソコンを起動すると、ネットワークの場所の設定画面が表示されます。
12. 「家庭」をクリックする

「Aterm WR1200H」をお使いの場合、「Aterm WR1200Hの場合」(p.25)へ進んでください。
「WHR-HP-G」をお使いの場合、「BUFFALO社製 WHR-HP-Gの場合」(p.27)へ進んでください。

Aterm WR1200Hの場合

1 パソコンの電源を入れ、Internet Explorerを起動する

2 URL入力欄に「http://web.setup/」と入力する

※ はじめて使うときには、ここで「管理者パスワードの初期設定」画面が表示されます。この場合は、Aterm WR1200Hに添付の『取扱説明書』をご覧になり、初期設定とインターネットの接続設定をおこなってください。

3 ユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックする

ユーザー名	admin
パスワード	あらかじめ設定したパスワード

4 「無線LAN設定」をクリックする

5 無線LANの設定を確認する

6 次の項目をメモする

この項目は、ホームネットワークへの接続設定(p.64)で必要になります。

ルータの項目：ルータの設定画面に表示されている項目です。ルータによっては（　）内の項目名で表示されます。

ルータの設定：ルータの設定画面をご覧になり、ご利用中の設定をこの表に記入してください。

PCリモーターでの表記：PCリモーターの初期設定画面「ホームネットワークの接続設定」(p.64の手順6)で表示される項目です。

<table>
<tr><th>ルータの項目</th><th colspan="3">ルータの設定</th><th>PCリモーターでの表記</th></tr>
<tr><td>ネットワーク名(SSID)/(ESSID)</td><td colspan="3"></td><td>ネットワーク名(SSID)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">暗号化モード（セキュリティ/暗号化方式）</td><td colspan="2">WEPの場合</td><td>WPA-パーソナルの場合</td><td></td></tr>
<tr><td>□認証なし（オープンシステム）※1</td><td>□共有キー※1</td><td>□WPA-パーソナル（WPA-PSK）※2</td><td>セキュリティの種類</td></tr>
<tr><td>□WEP
□なし※1</td><td>□WEP※1</td><td>□TKIP
□AES※2</td><td>暗号化の種類</td></tr>
<tr><td>キーインデックス
※WEP設定時のみ</td><td colspan="2">□1　□2　□3　□4</td><td></td><td>キーインデックス</td></tr>
<tr><td>暗号化キー（暗号鍵/WPA暗号化キー/WEP暗号化キー）</td><td colspan="3"></td><td>セキュリティキーまたはパスフレーズ</td></tr>
</table>

※1：WEPの場合はセキュリティの種類が「認証なし（オープンシステム）」、「共有キー」のどちらに設定されているか確認してください。ルータの設定画面に「共有キー」がない場合は、「認証なし(オープンシステム)」を選んでください。

※2：WPA-PSK(AES)やWPA-PSK(TKIP)とまとめて表現されている場合があります。

BUFFALO社製 WHR-HP-Gの場合

●AOSS™を使用している場合

BUFFALO社製 WHR-HP-Gをお使いの場合は、AOSS™を使って設定することをおすすめします。AOSS™を使用すると、ホームネットワークへの接続設定が自動でおこなわれるため、無線LANの設定の確認は必要はありません。

一部の機種によっては、AOSS™を使って設定した場合、接続に失敗することがあります。この場合、手動で暗号化レベルを「WPA-PSK-AES」以外に変更してください。

●AOSS™を使用していない場合

AirStation設定ツールの詳細に関しては、WHR-HP-Gに添付のマニュアルなどをご覧ください。

1 AirStation設定ツールを起動する

「(スタート)」-「すべてのプログラム」-「BUFFALO」-「エアステーションユーティリティ」-「AirStation設定ツール」を選択します。

AirStationが自動的に検索されます。

2 検索されたAirStationを選択して、「WEB設定」をクリックする

3 AirStationの設定画面を表示する

AirStationにパスワードを設定している場合は、ユーザー名欄に「root」、パスワード欄に設定したパスワードを入力して「OK」をクリックしてください。パスワードを設定していない場合は、パスワード欄を空欄にしたまま「OK」をクリックします。Internet Explorerが起動して、設定画面が表示されます。

4 無線LANの設定を確認する

AirStationの設定画面の「無線設定」タブをクリックします。

5 表示される設定内容を確認する

「WPS機能」-「使用する」をクリックしてチェックを入れた場合にのみ確認可能です。

この設定内容は、ホームネットワークへの接続設定(p.65)で必要になりますので、メモしておいてください。

6 p.27の手順6同様に設定内容をメモする

チェック

自宅外からPCリモーターサーバに接続してご利用になる場合、PCリモーターサーバとルータに関する次の点もご確認ください。

- **PCリモーターサーバを接続するルータに、グローバルIPアドレスが割り振られている**

  グローバルIPアドレスが割り振られていないと、PCリモーターを宅外から接続することができません。回線業者からグローバルIPアドレスが割り振られてるか確認してください。

- **PCリモーターサーバを接続しているルータを2段以上つないで使用しない**

  ルータを2段以上つなぐと、PCリモーターサーバボードをつないでいるルータにグローバルIPアドレスが割り振られず、PCリモーターを宅外から接続することができません。

  回線業者などからレンタルされているルータに加えて、新たに無線LANのルータを接続しているケースも、2段つなぎになりますのでご注意ください。

- **PCリモーターサーバとルータの間に、極力ハブをつなげない**

  PCリモーターサーバとルータを直接つなぐことで、宅外からの接続性が改善する場合があります。

- **ほかのパソコンなどで同じメールアドレスのメールを同時に受信しない**

  PCリモーターは、接続開始時にPCリモーターサーバとメールのやりとりをおこないます。このメールがPCリモーターサーバでないほかの機器に取得されてしまうと、接続できなくなります。
  その場合は、接続時はほかの機器からのメール受信がおこなわれないようにするか、メールのコピーをサーバに残す設定をおこなってください。

- **接続時に送受信するメールが迷惑メールと見なされない設定にする**

  接続時に送受信するメールをインターネットプロバイダが、迷惑メールと見なしてフィルタしている場合、接続できなくなります。
  迷惑メールフィルタをご利用の場合、迷惑メールの例外設定で、メールヘッダーに次の文字を含むものを例外条件として設定してください。

  X-Mailer: SafeConnect 1.3.0

  (SafeConnectの後に、半角スペースと、バージョン情報。バージョン情報はお使いの状況に合わせて変更してください。)

- **PCリモーターサーバがメール受信可能な状態になっている**

  ホームサーバPC(Lui SX)の場合、主電源(Main Power)が入っていることを確認してください。主電源(Main Power)が入っていないと接続ができません。

  パソコンの場合、パソコンが起動中、もしくは 休止状態/スリープ状態になっていることを確認してください。シャットダウン状態の場合、接続ができません。

PCリモーターサーバをインストールする

本機に添付されている統合インストールCDを使い、パソコン／ホームサーバPC(Lui SX)にPCリモーターサーバのソフトをインストールしてください。

- 必ず管理者権限のあるユーザーでログオンしてからインストールしてください。
- 起動中のアプリケーションは終了させてから、インストールしてください。
- ルータのDHCPサーバ機能を有効にしておく必要があります。
- ウイルス検出ソフトなどセキュリティソフトを使用していると、「インストールを許可しますか」「通信を許可しますか」などセキュリティの警告が出ることがあります。その場合、「許可する」「はい」などをクリックしてください。インストールを許可しない場合は、インストールはおこなわれません。
- ユーザー アカウント制御の確認で「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示された場合、「続行」をクリックしてください。この確認画面が最小化されている場合は、タスクバーにある「dotnetfx3check.exe」または「lui-svapsetup.exe」をクリックして表示させてください。

チェック

- インストールおよびアップデートはすべて適用してください。一部しか適用しない場合、動作に支障が生じることがあります。
- 統合インストールCDを使用して、バージョン「1.1.0.3」以前のPCリモーターサーバソフト、およびバージョン「1.1.0.21」以前のPCリモーターサーバボードからアップデートをおこなうと、PCリモーターサーバに関連する設定内容は削除されます。アップデートをおこなう前に、メールアドレスなどの必要な情報をメモしておき、すべてのアップデートを適用した後、再度、初期設定をおこなってください。

インストール手順は、お使いのPCリモーターサーバの種類によって異なります。

▶ ホームサーバPC(Lui SX)以外のパソコンをお使いの場合、「ホームサーバPC(LuiSX)以外のパソコンへのインストール」(p.31)へお進みください。

▶ ホームサーバPC(Lui SX)をお使いの場合、「ホームサーバPC(Lui SX)へのインストール」(p.35)へお進みください。

ホームサーバPC(Lui SX)以外のパソコンへのインストール

パソコンへのインストール作業の流れは次のようになっています。
必要な作業は、お使いの環境によって異なります。必要な作業が画面に表示されるので、画面にしたがって進んでください。

パソコンにPCリモーターサーバボードが取り付けられていることを確認する

統合インストールCDをセットする

.NET Frameworkがインストールされていない場合、.NET Frameworkをインストールする(以下の手順3)

古いバージョンのPCリモーターサーバソフトがインストールされている場合、古いバージョンをアンインストールする(以下の手順6)

PCリモーターサーバソフトをインストールしてパソコンを再起動する(以下の手順6)

PCリモーターサーボードをアップデートしてパソコンを再起動する(以下の手順6)

すべてのソフトが最新になっていることを確認し、インストール完了(以下の手順7)

パソコンに統合インストールCDをセットし、インストール(アンインストール)／アップデートをおこなって、すべてのソフトが最新になっていることを確認して完了するまでの手順を示しています。表示される画面にあわせて必要な箇所をご覧ください。画面例は、Windows Vistaのものを使用しています。Windows XPの場合も操作方法は同じです。

チェック

ホームサーバPC(Lui SX)以外のパソコンをお使いの場合、インストールする前に、PCリモーターサーバボードがパソコンに取り付けられていることを確認しておいてください。

1 本機に添付されている統合インストールCDをパソコンのBD/DVD/CDドライブにセットする

自動再生の画面が表示されたら、プログラムのインストールを実行してください。

自動的にインストールが開始されない場合は次の方法でインストールしてください。

1.「スタート」－「マイコンピュータ」をクリックする

2.統合インストールCDをセットしたBD/DVD/CDドライブを開く

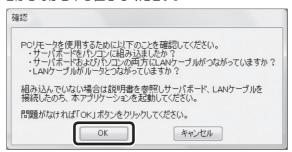
3.「dotnetfx3check.exe」をダブルクリックする

これで、「PCリモーターサーバ統合インストーラ」が開始されます。

2 「ユーザアカウント制御」の画面が表示された場合、「続行」をクリックする

この画面が最小化されている場合は、タスクバーにある「dotnetfx3check.exe」または「lui-svapsetup.exe」をクリックして表示させてください。

3 「本アプリケーションを使用するために、.NET Frameworkが必要です。.NET Frameworkをインストールしてよろしいですか？」と表示されたら「OK」をクリックして、.NET Frameworkをインストールする

この画面が表示されない場合、手順4へ進んでください。

4 次の画面が表示されたら、「OK」をクリックする

5 次の画面が表示されたら、画面にしたがって確認をおこない、問題がなければ「OK」をクリックする

PCリモーターサーバボードが搭載されていない場合、「サーバボードがパソコンに組み込まれていません。」のエラーメッセージが表示されます。その場合、PCリモーターサーバにPCリモーターサーバボードを取り付けてから、インストールをはじめからやり直してください。

6 次の画面が表示されたら、インストールまたはアンインストールに必要なすべてのソフトをインストール／アンインストールする

この画面が表示されない場合、手順7へ進んでください。

インストールおよびアップデートはすべて適用してください。一部しか適用しない場合、動作に支障が生じることがあります。

▶ 次の画面の場合、「古いバージョンのPCリモーターサーバソフトのアンインストール」(p.42)をご覧ください。

▶ 次の画面の場合、「PCリモーターサーバソフトのインストール」(p.44)をご覧ください。

▶ 次の画面の場合、「PCリモーターサーバボードのアップデート」(p.48)をご覧ください。

7 必要なインストールをすべておこなうと次の画面が表示されるので、「OK」をクリックする

8 統合インストールCDをパソコンのBD/DVD/CDドライブから取り出す

ホームサーバPC(Lui SX)へのインストール

ホームサーバPC(Lui SX)へのインストール作業の流れは次のようになっています。
必要な作業は、お使いの環境によって異なります。必要な作業が画面に表示されるので、画面にしたがって進んでください。

統合インストールCDをセットする

.NET Frameworkがインストールされていない場合、.NET Frameworkをインストールする(以下の手順3)

古いバージョンのPCリモーターサーバソフトがインストールされている場合、古いバージョンをアンインストールしてパソコンを再起動する(以下の手順5)

PCリモーターサーバソフトをインストールしてパソコンを再起動する(以下の手順5)

ユーザアカウント制御が有効になっている場合、ユーザアカウント制御を無効にしてからパソコンを再起動する(以下の手順6)

LuiStation関連(DiXiM Media Server、Digital Video Network Player、LuiStation)のうち必要なものをアップデートしてパソコンを再起動する(以下の手順9)

ユーザアカウント制御(UAC)を有効にしてパソコンを再起動する(以下の手順10)

すべてのソフトが最新になっていることを確認し、インストール完了(以下の手順13)

ホームサーバPC(Lui SX)に統合インストールCDをセットし、インストール(アンインストール)/アップデートをおこなって、すべてのソフトが最新になっていることを確認して完了するまでの手順を示しています。表示される画面にあわせて必要な箇所をご覧ください。

1 **本機に添付されている統合インストールCDをホームサーバPC(Lui SX)のBD/DVD/CDドライブにセットする**

自動的にインストールが開始されない場合は次の方法でインストールしてください。

1.「スタート」－「マイコンピュータ」をクリックする

2.統合インストールCDをセットしたBD/DVD/CDドライブを開く

3.「dotnetfx3check.exe」をダブルクリックする

これで、「PCリモーターサーバ統合インストーラ」が開始されます。

2 「ユーザアカウント制御」の画面が表示された場合、「続行」をクリックする

この画面が最小化されている場合は、タスクバーにある「dotnetfx3check.exe」または「lui-svapsetup.exe」をクリックして表示させてください。

3 「本アプリケーションを使用するために、.NET Frameworkが必要です。.NET Frameworkをインストールしてよろしいですか？」と表示されたら「OK」をクリックして、.NET Frameworkをインストールする

この画面が表示されない場合、手順4へ進んでください。

4 次の画面が表示されたら、「OK」をクリックする

5 次の画面が表示されたら、インストール（アップデート）／アンインストールが必要なすべてのソフトのインストール（アップデート）／アンインストールをおこなう

この画面が表示されない場合、手順6へ進んでください。

▶ 次の画面の場合、「古いバージョンのPCリモーターサーバソフトのアンインストール」(p.42)をご覧ください。

▶ 次の画面の場合、「PCリモーターサーバソフトのインストール」(p.44)をご覧ください。

6 次の画面が表示されたら、「無効化」をクリックする

この画面が表示されない場合、手順9へ進んでください。

7 ユーザアカウント制御（UAC）を無効にする確認画面が表示されるので、「OK」をクリックする

「キャンセル」を選択した場合、LuiStationの関連ソフトをインストールできません。

8 確認画面で「OK」をクリックする

ホームサーバPC（Lui SX）が再起動します。

9 次の画面が表示されたら、必要なソフトのアップデートをおこなう

この画面が表示されない場合、手順10へ進んでください。

インストールおよびアップデートはすべて適用してください。一部しか適用しない場合、動作に支障が生じることがあります。

▶ 次の画面の場合、「DiXiM Media Serverのアップデート手順」(p.52)をご覧ください。

▶ 次の画面の場合、「Digital Video Network Playerのアップデート手順」(p.53)をご覧ください。

▶ 次の画面の場合、「LuiStationのアップデート手順」(p.55)をご覧ください。

10 必要なインストール(アップデート)をすべておこなうと、次の画面が表示されるので、「有効化」をクリックする

11 ユーザアカウント制御(UAC)を有効にする確認画面が表示されるので、「OK」をクリックする

12 確認画面で「OK」をクリックする

ホームサーバPC(Lui SX)が再起動します。

13 再起動後、PCリモーターサーバソフト、およびDiXiM Media Server、Digital Video Network Player、LuiStationが「最新です」と表示されたら、「OK」をクリックする

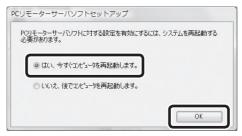
14 統合インストールCDをホームサーバPC(Lui SX)のBD/DVD/CDドライブから取り出す

古いバージョンのPCリモーターサーバソフトのアンインストール

PCリモーターサーバソフトをインストールする前に、古いバージョンのアンインストールをおこなう場合、次の手順でおこなってください。

1 次の画面が表示されたら、「アンインストール」をクリックする

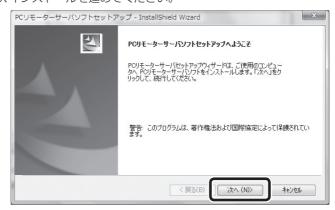
この画面は「ホームサーバPC(Lui SX)以外のパソコンへのインストール」(p.31)の手順6、または「ホームサーバPC(Lui SX)へのインストール」(p.35)の手順5で、お使いのパソコンまたはホームサーバPC(Lui SX)にインストール済みのPCリモーターサーバソフトが古い場合に表示されます。説明中の画面例はパソコンのものです。

2 「PCリモーターサーバソフトを削除しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックする

3 PCリモーターサーバソフトを削除後、「PCリモーターサーバソフトのセットアップの完了」のメッセージが表示されたら、「完了」をクリックする

4 「PCリモーターサーバソフトに対する設定を有効にするには、システムを再起動する必要があります」というメッセージが表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します」を選択し、「OK」をクリックする

パソコン／ホームサーバPC(Lui SX)が再起動されます。

再起動時に、「PCリモーターサーバソフトのアンインストール中にエラーが発生しました。既にアンインストールされている可能性があります。」と表示される場合がありますが、正常にアンインストールされていますので、問題ありません。

PCリモーターサーバソフトのインストール

PCリモーターサーバソフトをインストールする場合、次の手順でおこなってください。

1 次の画面が表示されたら、「PCリモーターサーバソフト」の「インストール」をクリックする

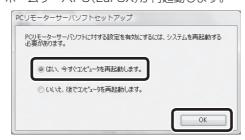
この画面は「ホームサーバPC(Lui SX)以外のパソコンへのインストール」(p.31)の手順6、または「ホームサーバPC(Lui SX)へのインストール」(p.35)の手順5でPCリモーターサーバソフトのインストールが必要な場合、および古いバージョンのアンインストールをおこなった後に表示されます。説明中の画面例はパソコンのものです。

2 「セットアップの準備」と表示された後、「PCリモーターサーバソフト セットアップへようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」をクリックする

以降、表示される画面については、デフォルトの設定のまま「次へ」をクリックし、インストールを進めてください。

3 プログラムフォルダ指定画面が表示されたら、変更しないで「次へ」をクリックする

チェック

PCリモーターサーバソフトのインストール先は変更しないでください。

4 インストール確認画面が表示されたら、「インストール」をクリックする
「PCリモーターサーバソフトをインストールしています。しばらくお待ちください」の画面が表示され、インストールがおこなわれます。そのまましばらくお待ちください

5 「PCリモーターサーバソフトセットアップの完了」メッセージが表示されたら、「完了」をクリックする

6 「PCリモーターサーバソフトに対する設定を有効にするには、システムを再起動する必要があります」のメッセージが表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します」を選択し、「OK」をクリックする

パソコン／ホームサーバPC(Lui SX)が再起動します。

PCリモーターサーバボードのアップデート

PCリモーターサーバボードのアップデートをおこなう場合、次の手順でおこなってください。

1 次の画面が表示されたら、PCリモーターサーバボードの「アップデート」をクリックする

この画面は「ホームサーバPC(LuiSX)以外のパソコンへのインストール」の手順6で、PCリモーターサーバボードのアップデートが必要な場合に表示されます。

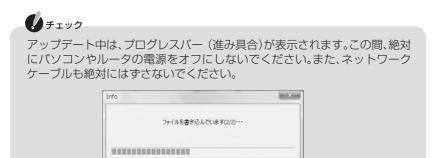
2 「ユーザーアカウント制御」の画面が表示された場合、「続行」をクリックする

3 「PCリモーターサーバボード アップデートツール」の画面が表示されたら、「バージョン情報の取得」をクリックする

「PCリモーターサーバボードとの通信に失敗しました。」と表示された場合、ルータのDHCPサーバ機能を有効にしてパソコンをシャットダウンしてください。シャットダウン後にパソコンの電源ケーブルを抜いて30秒間待ってから再度電源ケーブルを接続してパソコンを起動してください。

4 バージョン情報が表示されることを確認し、「ファイルを開く」をクリックする

5 表示された画面でファイルを選択し、「開く」をクリックする

6 「選択したファイル」に選択したファイル名が表示されていることを確認する

「選択したファイル」のファイル名の右端が隠れている場合、表示されているファイル名の部分をクリック後、【→】キーを押すと、スクロール表示できます。

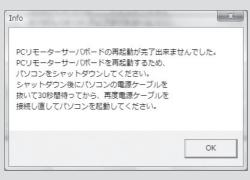
7 「アップデートの開始」をクリックする

8 次の画面が表示されたら、「はい」をクリックする

アップデートが開始されます。

チェック

アップデート中は、プログレスバー（進み具合）が表示されます。この間、絶対にパソコンやルータの電源をオフにしないでください。また、ネットワークケーブルも絶対にはずさないでください。

9 次の画面が表示されたら、「閉じる」をクリックする

10 次の画面が表示されたら、「閉じる」をクリックする

チェック

アップデート前のPCリモーターサーバボードのバージョンが「1.0.0.6」より古い(1.0.0.5以前)のPCリモーターサーバボードからアップデートをおこなった場合には、次の画面が表示されますが、PCリモーターサーバボードのアップデート、および設定ファイルの初期化は正常に完了しています。PCリモーターサーバボードを再起動するため、メッセージにしたがって、パソコンをシャットダウンしてください。シャットダウン後にパソコンの電源ケーブルを抜いて30秒間待ってから、再度電源ケーブルを接続してパソコンを起動してください。

11 次の画面に、PCリモーターサーバソフトとPCリモーターサーバボードが「最新です」と表示されたら、「OK」をクリックする

DiXiM Media Serverのアップデート手順

DiXiM Media Serverのアップデートは次の手順でおこなってください。

必ず管理者権限のあるユーザでログオンし、ユーザアカウント制御(UAC)が無効の状態でアップデートをおこなってください。

1 ホームサーバPC(Lui SX)へのインストールで、次の画面が表示されたら、「DiXiM Media Server」の「アップデート」をクリックする(インストールされていない場合は「インストール」が表示されるので「インストール」をクリックする)

この画面は「ホームサーバPC(Lui SX)へのインストール」(p.35)の手順9で、DiXiM Media Serverのアップデートが必要な場合に表示されます。

DiXiM Media Server for NEC-InstallShield Wizard画面が表示され、アップデートが開始されます。

2 しばらくすると「メンテナンスの完了」と表示されるので、「完了」をクリックする

3 しばらくすると再起動確認画面が表示されるので「OK」をクリックし、ホームサーバPC(Lui SX)を再起動する

再起動したら、DiXiM Media Serverのアップデートは完了です。

Digital Video Network Playerのアップデート手順

Digital Video Network Playerのアップデートは次の手順でおこなってください。

必ず管理者権限のあるユーザでログオンし、ユーザアカウント制御(UAC)が無効の状態でアップデートをおこなってください。

1 ホームサーバPC(Lui SX)へのインストールで、次の画面が表示されたら、「Digital Video Network Player」の「アップデート」をクリックする(インストールされていない場合は「インストール」が表示されるので「インストール」をクリックする)

この画面は「ホームサーバPC(Lui SX)へのインストール」(p.38)の手順9で、Digital Video Network Playerのアップデートが必要な場合に表示されます。

2 アップデートプログラムが起動し、Digital Video Network Playerのアップデートセットアップウィザードへようこそ画面が表示されたら、「次へ」をクリックする

3 使用許諾契約書画面が表示されたら、契約内容に同意する場合、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックする

4 インストールの確認画面が表示されたら、「次へ」をクリックする

アップデートが開始されます。

5 しばらくして「インストールが完了しました」と表示されたら、「閉じる」をクリックする

6 再起動確認画面が表示されるので「OK」をクリックし、ホームサーバPC(Lui SX)を再起動する

再起動が完了したら、Digital Video Network Playerのアップデートは完了です。

LuiStationのアップデート手順

LuiStationのアップデートは次の手順でおこなってください。

- ・録画中の場合は録画を停止してください。
- ・録画予約時刻が近い場合は予約をキャンセルしてください。
- ・セーフコネクト接続中の場合、セーフコネクトを切断してください。
- ・必ず管理者権限のあるユーザでログオンし、ユーザアカウント制御(UAC)が無効の状態でアップデートしてください。

アップデート中に次のメッセージが表示される場合がありますが、アップデートは正常に完了しますので無視してください。

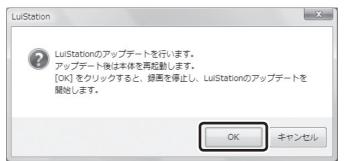
【メッセージ1】

- ・ネットワーク情報の取得に失敗しました
- ・ネットワークに接続されている機器の情報を正しく取得できませんでした。
- ・本機器を再起動してから、再度やり直してください。

【メッセージ2】

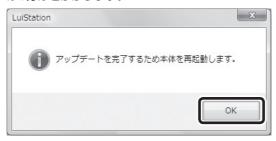
- ・起動に失敗しました
- ・セーフコネクト／サーバ設定ユーティリティを起動できませんでした。
- ・ネットワークケーブルが抜けていないか、無線LANの設定が正しいかなど、ネットワークの設定や配線を確認してください。それでも起動できない場合は、本機器を再起動してください。

1 ホームサーバPC(Lui SX)へのインストールで、次の画面が表示されたら、「LuiStation」の「アップデート」をクリックする

この画面は「ホームサーバPC(Lui SX)へのインストール」(p.35)の手順9で、LuiStationのアップデートが必要な場合に表示されます。

2 「LuiStationのアップデートを開始します。」と表示されたら、「はい」をクリックする

3 20秒ほどすると、「LuiStationのアップデートを行います。」と表示されるので、「OK」をクリックする

再起動には3分ほどかかります。

▼「LuiStationをアップデートしています。」と表示され、アップデートが開始されます。

▼しばらくすると、ホームサーバPC(Lui SX)の主電源(Main Power)ランプがオレンジ色に点灯します。

4 10分ほどして、「アップデートを完了するため本体を再起動します。」と表示されたら、「OK」をクリックする

再起動には3分ほどかかります。

5 ホームサーバPC(Lui SX)を再起動する

再起動後、ホームサーバPC(Lui SX)の主電源(Main Power)ランプが青色に点灯したら、LuiStationのアップデートは完了です。

PART

2

初期設定

PCリモーター /PCリモーターサーバの初期設定

初期設定では、PCリモーターを使うための、「ホームネットワーク設定」、「セーフコネクト設定」、「公衆無線LAN設定（必要なかたのみ）」をおこないます。

初期設定をおこなう前に、PART1の「PCリモーターサーバの準備」、「ホームネットワークの準備」、「PCリモーターサーバをインストールする」を済ませておいてください。

初期設定はPCリモーターサーバの近くでおこなってください。また初期設定をおこなうには、メールアドレスおよびネットワーク環境が必要です。本機とPCリモーターサーバを同一ネットワーク上に設置して（同じルータにつないで）ください。

参照

PCリモーターとPCリモーターサーバとを自宅の無線LANで接続して初期設定をおこなう場合の手順について、次の添付マニュアルの中から、お使いになるPCリモーターサーバに合わせてご覧ください。

・PCリモーターサーバボードセットモデル以外の場合→『PCリモーターを使う準備をしよう ①ケーブル接続編』、『PCリモーターを使う準備をしよう ②設定編』

・PCリモーターサーバボードセットモデルの場合→『PCリモーターサーバボードセットモデルをご購入いただいたお客様へ』、『PCリモーターを使う準備をしよう ②設定編』

メモ

PCリモーターの初期設定は本機とPCリモーターサーバのそれぞれで以下の順番に交互におこないます。

チェック

初期設定は、HSDPA通信カードを取り出した状態でおこなってください。

ルータのDHCPサーバ機能を使わない場合にはこのPARTの「IPアドレスを手動で設定する場合」(p.81)をあわせてご覧ください。
なお、初期設定後にも、設定内容を変更したり、ほかの接続設定を追加したりできます。
また、初期設定をおこなった後、再度、手動で初期設定を起動してやりなおすことも可能です。

参照

・このPARTで設定した内容の変更や、接続設定を追加／変更する場合→「PART5　設定する」

・再度、初期設定をする場合→PART5の「「PCリモーター初期設定」を手動で開始する」

※ 初期設定を始める前に、パソコンで次のホームページをご覧になり、PCリモーターのアップデートがないか確認してください。お使いのPCリモーターのバージョンは、PCリモーターの画面で「設定」-「システム設定」-「システム情報」の順にクリックして確認できます。
http://121ware.com/lui/

本機を起動する

1 本機にACアダプタを接続する

参照

ACアダプタの接続について→PART1の「ACアダプタの取り付けと充電」(p.13)

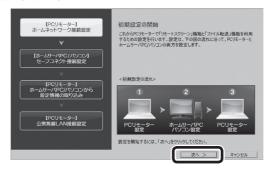
チェック

本機を起動して初期設定をおこなう前に、PART1の「PCリモーターサーバの準備」、「ホームネットワークの準備」、「PCリモーターサーバをインストールする」が済んでいることを確認してください。

2 液晶ディスプレイを開く

3 電源スイッチを約1秒間押す

しばらくすると、次の画面が表示されます。

ホームネットワーク接続設定(本機)

まずは本機でホームネットワーク接続設定をおこないます。
有線LANで接続するときは、LANケーブルで本機とルータを接続しておいてください。

1 「初期設定」をクリックする

「初期設定」を起動すると、無線LAN機能が有効になります。

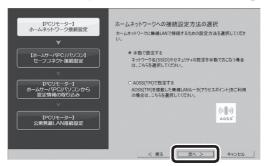
2 「次へ」をクリックする

3 PCリモーター名を確認して「次へ」をクリックする

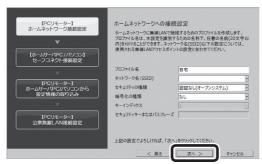
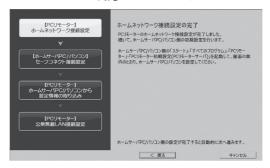
本機にはあらかじめPCリモーター名が設定されています。あらかじめ設定されている本機のPCリモーター名を変更したい場合は「変更」をクリックして変更してください。

ネットワーク上に本機と同じ名前のPCリモーターがある場合、変更する必要があります。

PCリモーター名を変更する場合は、15文字以内の半角英数字を入力します。ただし、PCリモーター名の先頭に、数字は使用できません。

4 ネットワークに接続する方法を選択して「次へ」をクリックする

PCリモーターの接続方法を、無線LANか有線LANか選択します。

なお、PCリモーターを無線LANで初期設定しておくと、あらためて有線LAN用の接続設定（初期設定）は不要です（接続設定の追加なしで有線LANでも接続できるようになります）。

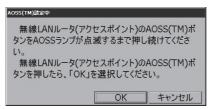
有線LANを選択した場合は、p.65の「ホームネットワーク接続設定の完了画面が表示されます。（手順5、6は表示されません）。次の「セーフコネクト接続設定（ホームサーバPC/パソコン側）」（p.67）へ進んでください。

5 ホームネットワークへの接続設定方法を選択して「次へ」をクリックする

▶「手動で設定する」を選択した場合、手順6へ進んでください。

▶「AOSS(TM)で設定する」を選択した場合、「「AOSS(TM)で設定する」を選択した場合」(p.66)へ進んでください。

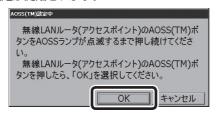
6 ホームネットワークへの接続設定画面が表示されたら、無線LANの接続に必要な項目を入力して「次へ」をクリックする

PART1の「無線LANの設定を確認する」(p.27)で控えた無線LANの設定情報を利用して設定します。

プロファイル名	設定を識別するための名称です。識別しやすい名称を自由に設定してください。
ネットワーク名(SSID)	お使いの無線LAN機器のSSIDを選択または入力します。
セキュリティの種類	お使いの無線LAN機器で使用されているセキュリティの種類を選びます。暗号化の種類が「WEP」の場合は「認証なし」または「共有キー」をご利用の状況に合わせて選択してください。 認証なし(オープンシステム):認証をおこなわない 共有キー:共有キーにより認証 WPA-パーソナル:WPA-パーソナル方式で認証
暗号化の種類	お使いの無線LAN機器で使用されている無線LANの暗号化の種類を選びます。 なし WEP AES TKIP
キーインデックス	暗号化の種類がWEP形式のときに、お使いの無線LAN機器で使用されているキーインデックスを選びます。
セキュリティキーまたはパスフレーズ	お使いの無線LAN機器で使用されているセキュリティキーを入力します。「暗号化キー」、「WEPキー」、「WPAキー」などと呼ばれている場合もあります。

しばらくして「ホームネットワーク接続設定の完了」画面が表示されたら、PCリモーターはそのままにして、サーバとなるパソコンで次の「セーフコネクト接続設定(ホームサーバPC/パソコン側)」をおこないます。

接続が何度も失敗する場合は、ルータの暗号化レベルを「WPA-PSK-AES」以外に変更してください。

「AOSS(TM)で設定する」を選択した場合

ホームネットワークへの接続設定方法の選択画面(p.64)で「AOSS(TM)で設定する」を選択した場合、次の手順をおこなってください。

1 **AOSS(TM)設定中画面が表示されたら、無線LANルータ(アクセスポイント)のAOSS™ボタンをAOSSランプ(SECURITYランプ)が点滅するまで押し続ける**

WHR-HP-Gの場合、AOSS™ボタンは親機の上面、AOSSランプ(SECURITYランプ)は親機の前面にあります。

2 **無線LANルータ(アクセスポイント)のAOSSランプ(SECURITYランプ)が点滅した状態で、「OK」をクリックする**

無線LANの設定が開始されます。

3 **AOSS™による無線LAN接続の設定が完了すると、プロファイル名の設定画面が表示されるので、プロファイル名を入力し、「次へ」をクリックする**

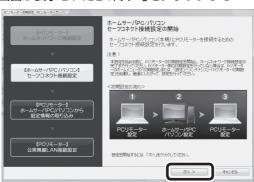
プロファイル名の設定画面には、SSIDのはじめの5文字が表示されます。認識しやすいプロファイル名に変更してください。

ホームネットワーク接続設定の完了画面が表示されたら、PCリモーターはそのままにして、サーバとなるパソコンで次の「セーフコネクト接続設定(ホームサーバPC/パソコン側)」をおこないます。

接続が何度も失敗する場合は、ルータの暗号化レベルを「WPA-PSK-AES」以外に変更してください。

セーフコネクト接続設定(ホームサーバPC/パソコン側)

セーフコネクトは、宅外からホームネットワークにアクセスするためのソフトです。

宅内に設置したPCリモーターサーバと本機との間に安全なネットワークを開設することで、ホームネットワークにアクセスできます。

詳しくは、巻頭の「セーフコネクトとは」(p.vi)をご覧ください。

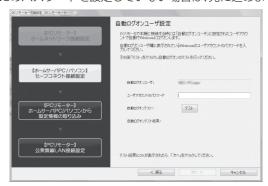
・ 必ず管理者権限のあるユーザーでログオンしてから初期設定をおこなってください。
・ ホームサーバPC(Lui SX)の場合、通知領域にセーフコネクトのアイコンが表示されている時は、このアイコンを右クリックし終了させてください。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「PCリモーター」-「PCリモーター初期設定(PCリモーターサーバ)」をクリックする

「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「続行」を選択してください。

2 初期設定画面が表示されたら、「次へ」をクリックする

3 自動ログオンユーザ設定画面が表示されたら、Windowsにログオンするユーザーアカウントを確認し、ユーザーアカウントのパスワードを入力する

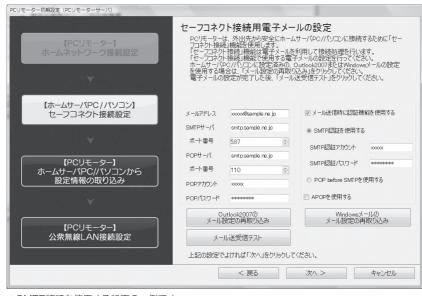
Windowsのパスワードを設定していない場合は、先に進めません。

4 「テスト」をクリックする

自動ログオンテスト結果に「OK」が表示されていることを確認してください。
「OK」が表示されないと次へ進めません。

メモ

- PCリモーターをご利用の場合は、あらかじめ設定したログオンユーザーでのみご利用できます。
- お使いのホームサーバPC ／パソコンの解像度設定が、横:1280または縦:768より小さい場合、PCリモーターサーバ初期設定は、終了します。初期設定をおこなうときは、解像度を横:1280、縦:768より大きく設定してください。
- ホームサーバPC(Lui SX)の場合、セーフコネクト／サーバが起動していると、PCリモーターサーバ初期設定は終了します。初期設定をおこなうときは、セーフコネクト／サーバを終了してください。
- Windowsのパスワードが設定されていないと、リモートスクリーンおよびファイル転送機能をご利用になれません。そのためPCリモーターをご利用になるには、Windowsのパスワードを設定してください。

5 自動ログオンユーザ設定画面で、「次へ」をクリックする

6 セーフコネクト接続用電子メールの設定画面が表示されたら、電子メールの設定をおこない、「メール送受信テスト」をクリックする

PCリモーターサーバに接続するためのIPアドレスの通知にメールを使用するため、メール設定をおこないます。
次ページの表を参考に必要な項目を入力してください。

Outlook 2007、またはWindows メールで使用しているメールアドレスと同じ設定を使う場合は、「Outlook2007のメール設定の設定取り込み」または「Windowsメールのメール設定の取り込み」をクリックしてください。

- PCリモーターサーバのOSがWindows XPの場合、Windowsメールの設定を取り込むことはできません。
- POPパスワードとSMTP認証パスワードは取り込めませんので、それぞれ入力してください。

▲SMTP認証を使用する設定の一例です。

宅外から接続するために、初期設定値ではSMTPサーバの「ポート番号」が587、POPサーバの「ポート番号」が110、「メール送信時に認証機能を使用する」と「SMTP認証を使用する」にチェックが入っています。

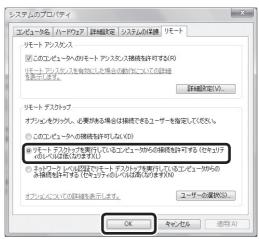
この値を変更してしまうとプロバイダの迷惑メール対策（OP25B）によって宅外から接続できなくなる場合があります。

SMTP認証をおこなうことを強く推奨します。

メール設定の情報について詳しくは、プロバイダのホームページやプロバイダから送られてきた書類などを参照してください。

メールアドレス	Webメール、フリーメール、広告が挿入されるメールなどは使用できません。
SMTPサーバ	プロバイダによっては「送信メールサーバ」や「メールサーバ」などと記載されている場合があります。
ポート番号	PCリモーターを宅外から接続するためには、SMTP認証を使用する設定に合わせたポート番号を設定する必要があります（通常は587です）。25番ポート設定の場合、プロバイダの迷惑メール対策（OP25B）により宅外から利用できない場合があります。
POPサーバ	プロバイダによっては「受信メールサーバ」や「メールサーバ」などと記載されている場合があります。
ポート番号	POPサーバのポート番号を入力してください（通常は110です）。
POPアカウント	プロバイダによっては「アカウント名」、「受信メールサーバアカウント」、「ユーザー名」、「メールアカウント」などと記載されている場合があります。
POPパスワード	プロバイダによっては「パスワード」、「受信メールサーバパスワード」、「メールパスワード」などと記載されている場合があります。
メール送信時に認証機能を使用する	宅外から利用する場合はチェックを入れてください。認証機能を使用しないと、プロバイダの迷惑メール対策（OP25B）により、宅外から利用できない場合があります。
SMTP認証を使用する	認証方式のひとつです。宅外から利用する場合はこちらを選択することをおすすめします。
SMTP認証アカウント	プロバイダによっては「アカウント名」、「ユーザー名」、「メールアカウント」などと記載されている場合があります（プロバイダによってはPOPアカウントと同じ場合があります）。
SMTP認証パスワード	プロバイダによっては「パスワード」、「メールパスワード」などと記載されている場合があります（プロバイダによってはPOPパスワードと同じ場合があります）。
POP before SMTPを使用する	認証方式のひとつです。こちらを利用しても宅外から利用できない場合があります。宅外からご利用の場合はSMTP認証を使用してください。
APOPを使用する	プロバイダのPOPサーバがAPOPに対応している場合のみ使用可能です。SMTP認証を使用する場合は使用しません。

広告などが自動挿入されるようなメールサービスは使用しないでください。Webメールやフリーメールなど広告などが自動挿入されてメール件名や本文が書き替わってしまうと、使用できません。メールの件名や本文が書き替わらないメールサービスをお使いください。

メール送受信のテストがおこなわれ、結果が表示されます。

7 テスト結果を確認し、「次へ」をクリックする

8 リモートデスクトップ設定画面が表示されたら、「リモートデスクトップ設定画面」をクリックする

Windows Vista Home Premiumをお使いの場合は表示されません。手順11へ進んでください。

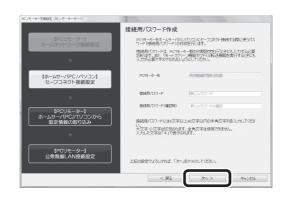
9 **システムのプロパティ画面が表示されたら、リモートデスクトップの許可の設定と、許可ユーザーの登録をおこない、「OK」をクリックする**

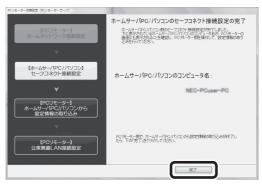
「リモートデスクトップ」で「リモートデスクトップを実行しているコンピュータからの接続を許可する」を選択し、必要がある場合はユーザーを指定してください。

10 **リモートデスクトップ設定画面で「次へ」をクリックする**

11 **セキュリティソフトのファイアウォール機能で通信許可の確認が表示された場合は、通信を許可し、「次へ」をクリックする**

ホームサーバPC(Lui SX)の場合は表示されません。

ファイアウォールの設定変更のしかたについては、このPARTの「ファイアウォールの設定」(p.79)をご覧ください。

12 本機とPCリモーターサーバを接続するための接続用パスワードを設定し、「次へ」をクリックする

ここで設定した接続用パスワードは、リモートスクリーン接続時に必要になるので、メモを取っておいてください。

接続用パスワードには6文字以上40文字以内の半角文字列を入力します。全角文字は使用できません。入力された文字は「＊」で隠されて表示されます。

PCリモーターサーバと本機の間で自動で通信が開始されます。設定が終わると、完了の画面が表示されます。

13 ホームサーバPC/パソコンのセーフコネクト接続設定の完了画面が表示されたら、コンピュータ名がPCリモーターの画面にも表示されていることを確認し、「完了」をクリックする

続いて本機でホームサーバPC/パソコンからの設定情報の取り込みをおこないます。

ホームサーバPC/パソコンからの設定情報の取り込み(本機)

パソコン側でセーフコネクト接続の設定が終わると、本機に自動的に手順1の画面が表示されます。

1 ホームサーバPC/パソコンのコンピュータ名に、PCリモーターサーバの名前が表示されていることを確認し、「セーフコネクト接続設定」の手順12で設定した接続用パスワードを入力して、「次へ」をクリックする

2 「初期設定の完了」と表示されたら、「公衆無線LAN設定」または「初期設定の完了」をクリックする

▶ 外出先から接続するための公衆無線LANの設定をする場合は、「公衆無線LANの設定」をクリックし、次の「公衆無線LANの接続設定」に進んでください。

▶ 公衆無線LANの接続設定をしない場合は「初期設定の完了」をクリックし、次のセキュリティソフトの設定について画面で「完了」をクリックして、本機の初期設定を終了してください。

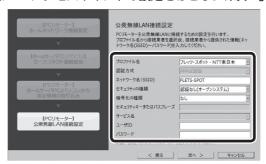
セキュリティソフトの設定画面について詳しくはこのPARTの「ファイアウォールの設定」(p.79)をご覧ください。

- セーフコネクトは、ユーザーごとの登録ではなく、PCリモーターサーバ／PCリモーターの組み合わせごとに登録をおこないます。

  そのため同一ユーザー名であっても、異なるPCリモーターを使用する場合は使用するPCリモーターごとに初期設定を実施する必要があります。
- 初期設定をおこなうと前回の初期設定を上書きします。別のPCリモーターサーバと初期設定すると以前のPCリモーターサーバとの初期設定は上書きされます。
- １台のPCリモーターサーバに同時に2台以上のPCリモーターを接続することはできません。
- PCリモーターサーバに登録が可能なPCリモーターは8台までです。

メモ

- 公衆無線LANの設定は後でもできますが、宅内で済ませてから本機を持ち出すことをおすすめします。
- 公衆無線LANの設定を後でする場合、「設定」メニューから「接続設定」-「接続プロファイルの設定」をおこなってください。

公衆無線LANの接続設定

公衆無線LANを利用するには、事前にサービス事業者へ申し込みが必要です。
対応する公衆無線LANアクセスポイントについては、次のホームページをご覧ください。
http://121ware.com/lui/

接続に必要な設定は、初期設定時におこなうか、または、初期設定後であれば、ホームメニューの「設定」-「接続設定」-「接続プロファイル設定」で「追加」を選んでおこなえます。

後から設定をおこなうときや、設定を追加するときは、このPARTの「接続設定を追加/変更/削除する(接続プロファイルの設定)」(p.86)をご覧ください。
前ページの初期設定の完了画面で「公衆無線LAN設定」をクリックした場合、次の公衆無線LAN接続設定画面が表示されます。

1 公衆無線LANアクセスポイントの設定をおこない、「次へ」をクリックする

接続先	接続先をプルダウンメニューから選択します。※
プロファイル名	設定を識別するための名称です。
認証方式	公衆無線LANなどに接続する場合、認証方式を選択します。 認証なし(宅内などからの接続) Web認証 PPPoE認証 MACアドレス認証
ネットワーク名(SSID)	公衆無線LANアクセスポイント利用申し込み時に通知されたSSIDを入力します。
セキュリティの種類	公衆無線LANアクセスポイントで使用されているセキュリティの種類を選びます。暗号化の種類が「WEP」の場合は「認証なし」または「共有キー」を選択してください。 認証なし(オープンシステム):認証をおこなわない 共有キー:共有キーにより認証 WPA-パーソナル:WPA-パーソナル方式で認証
暗号化の種類	公衆無線LANアクセスポイントで使用されている無線LANの暗号化の種類を選びます。 なし WEP AES TKIP
セキュリティキーまたはパスフレーズ	公衆無線LANアクセスポイント利用申し込み時に通知されたセキュリティキーを入力します。「暗号化キー」、「WEPキー」、「WPAキー」などと呼ばれている場合もあります。
サービス名	Mzoneを利用する場合、契約内容にしたがってサービス名を選択します。
ユーザID	公衆無線LANアクセスポイント使用時の「ユーザID@ドメイン名(ログインID@ドメイン名)」を入力します(プロバイダによってはユーザIDのみ入力の場合があります。詳しくはプロバイダのホームページやプロバイダから送られてきた書類などを参考にしてください)。 なお、接続先がMzoneのmopera Uサービスご利用の場合は、「-mopera@docomo」の前を入力します。
パスワード	公衆無線LANアクセスポイント使用時のパスワードを入力します。

※:プルダウンメニューにないプロバイダを設定する場合には、「接続先」を「ユーザ指定」として、プロファイル名やネットワーク名(SSID)などを入力してください。詳しくは、このPARTの「接続設定を追加/変更/削除する(接続プロファイルの設定)」(p.86)をご覧ください。

以上で、初期設定は終了です。「完了」をクリックして本機の初期設定を終了してください。

PART 2 初期設定

初期設定が終了すると、ホームメニューが表示されます。

ファイアウォールの設定

ファイアウォールについて

PCリモーターを外出先から使うとき、インターネットを介して自宅のPCリモーターサーバに接続します。そのため、ほかの不正なアクセスは防ぎながら、PCリモーターから自宅のPCリモーターサーバには接続できるセキュリティの設定が必要になります。

外部（インターネット）からの不正侵入を防ぎ、情報の流出を防ぐ機能を「ファイアウォール」といいます。ウイルスバスター 2009では、PCリモーターからリモート接続する際のファイルアクセス許可が自動的になされるため、そのままで利用できます。
ウイルスバスターのその他のバージョンおよびその他のセキュリティソフトをお使いの場合は、次の「ファイルアクセス許可の設定」をご覧になり、手動で設定をおこなってください。

ファイアウォールのソフトを2つ以上同時に使うと干渉し合ってうまく働かないことがあります。パソコンにWindowsファイアウォールとその他のファイアウォールのソフトがインストールされている場合も、どちらかを選んで使用してください。

ファイルアクセス許可の設定

「ウイルスバスター 2009」以外のファイアウォールのソフトを使うこともできます。その場合は、手動でファイアウォール機能のファイルアクセスを許可する必要があります。
ご使用になる前に、お客様がPCリモーターサーバソフトをインストールしたフォルダの次のファイルアクセスを許可してください

C:¥Program Files¥NEC¥PC-Remoterフォルダ内
・ pcrservice.exe
・ pcrftservice.exe
・ pcrsvset.exe
・ pcrsvmgr.exe
・ RRS.exe
・ WupService.exe※
・ pcrsubproc.exe
・ pcrsvinitset.exe
・ RRS_GUI.exe

※:ホームサーバPC(Lui SX)には存在しません。

C:¥Program Files¥NEC¥SafeConnect¥binフォルダ内
・ ScSvGUI.exe
・ scsvfrm.exe
・ scsvinit.exe
・ scsvmailer.exe
・ screlayd.exe
・ scsvsetm.exe

設定方法については、各セキュリティソフトのマニュアルなどを参照してください。

IPアドレスを手動で設定する場合

DHCPサーバ機能を使用しない場合には、「PCリモーター初期設定」でIPアドレスなどの設定をする必要があります。

本機の設定

「PCリモーター初期設定」の操作中に次のような画面が表示されたら「IPアドレス」「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」の設定をして「次へ」をクリックしてください。

PCリモーターサーバの設定（ホームサーバPC/パソコン側）

「PCリモーター初期設定」をしているときに次の画面が表示されたら本体のネットワークアダプタに固定のIPアドレスを割り当ててください。

PCリモーター初期設定をしているときに次の画面が表示されたら、PCリモーターサーバボードのIPアドレスをパソコンや他の機器のIPアドレスと重ならないように設定してください。

宅内で接続の確認をする

「PCリモーター初期設定」が完了した後、宅内で接続を確認するには次の手順でおこないます。

1 ホームメニューで「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックする

初期設定後すぐに接続したときは、初期設定で作成したネットワーク(SSID)に接続されます。

2 セーフコネクト接続画面が表示されたら、接続用パスワードを入力し、「OK」をクリックする

「セーフコネクト接続設定(ホームサーバPC/パソコン側)」の手順12(p.73)で設定した「接続用パスワード」を入力してください。

3 PCリモーターサーバ側で「PCリモーターへの接続を受け付けますか？あと○秒で自動的に接続します。」と表示された場合は、「はい」をクリックする

「はい」をクリックしなくても、しばらくすると自動で接続されます。この画面が出ないように設定することもできます。PART5の「設定を変更する」-「PCリモーターサーバの設定を変更する」(p.144)をご覧ください。

しばらくするとPCリモーターサーバ側の画面が消えて、本機に画面が表示されます。

参照

PCリモーターサーバのケーブルが正しく接続されていないと、この画面が表示されないことがあります。その場合、本機に添付されている『PCリモーターを使う準備をしよう ①ケーブル接続編』を参照して確認してください。

4 リモートスクリーンを使う

PCリモーターに表示される映像は回線速度、画質優先/動き優先、PCモード/Movieモードの各パラメータによって調節することができます。ネットワークの状態やPCリモーターの利用用途に応じて、調節してください。

■PCモード/Movieモード

文書作成に適したPCモードと、動画視聴に適したMovieモードがあります。ご購入時にはPCモードに設定されています。モードの設定方法はPART4の「「リモートスクリーン方式」の場合」-「画質の調節」-「PCモードとMovieモード」(p.121)をご覧ください。

■画質優先/動き優先

画質優先/動き優先は、画面１枚あたりのデータ量と、フレームレート(単位時間あたりの画面数)のバランスを調節するパラメータです。調節方法についてはPART4の「「リモートスクリーン方式」の場合」-「画質の調節」-「画質優先と動き優先」(p.122)をご覧ください。

画質優先にすると、映像は鮮明になりますが、マウスなどのレスポンスは悪くなります。

■回線速度

回線速度は、ネットワーク帯域に応じて転送するデータ量を調節するパラメータです。調節方法についてはPART5の「設定を変更する」-「本機の設定を変更する」(p.138)をご覧ください。ご購入時には、有線LANの場合はレベル6(30Mbps以上)、無線LANの場合はレベル4(7Mbps以上)に設定されています。

カクツキが発生する場合は回線速度のレベルを下げてください。

5 リモートスクリーンを終了する

接続が確認できたら、【Fn】+【ESC】を押すとリモートスクリーンが終了します。

外出先から接続する場合→PART4の「「リモートスクリーン方式」の場合」(p.120)

ホームサーバPC(Lui SX)に接続して音声を出力する場合、ホームサーバPCの「コントロールパネル」-「ハードウェアとサウンド」-「サウンド」の「再生」タブで「ライン」を選択し、「既定値に設定」をクリックします。

リモートスクリーン終了後は「サウンド」の「再生」タブで、お使いの再生デバイスの設定にもどしてください。

接続設定を追加/変更/削除する(接続プロファイルの設定)

接続時に必要な情報を登録しておく接続プロファイルは、初期設定で登録した後も追加／変更したり、削除したりできます。また、接続プロファイルの優先順位を設定し自動接続にしておくと、指定した優先順に接続されるので便利です。

接続プロファイルを追加する

初期設定で登録した接続設定のほかにも、外出先からの公衆無線LANやHSDPAを使った接続設定を追加する場合、接続プロファイルの追加をおこないます。

宅内無線LANの接続プロファイルの設定

ここでは、宅内で無線LANに接続するための接続プロファイル設定について説明します。

1 「ホームメニュー」で「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

2 左欄の「接続設定」をクリックする

3 「接続プロファイル設定」タブで「追加」をクリックする

4 表示された画面で接続先に「ユーザ指定」を選択する

AOSS™搭載のルータをお使いの場合、「ユーザ指定(AOSS(TM))」を選んで「AOSS(TM)設定開始」をクリックしてください。ネットワーク名(SSID)などの項目が自動表示されます。

AOSS™で作成した接続プロファイルがすでに登録されている場合、「ユーザ指定(AOSS(TM))」は表示されません。

5 プロファイル名を入力し、ネットワーク名(SSID)を選択する

ネットワーク名(SSID)がステルス設定になっている場合、ネットワーク名(SSID)一覧には表示されませんので、手動で入力してください。

「ユーザ指定(AOSS(TM))」を選択した場合、プロファイル名を入力してください。

6 「設定」をクリックする

7 ワイヤレス　ネットワーク　プロパティ画面が表示されたら、無線LANのセキュリティの種類、暗号化の種類などを入力し、「OK」をクリックする

「ユーザ指定(AOSS(TM))」を選択した場合、設定を変更できません。「キャンセル」をクリックしてください。

8 その他の設定項目を設定し、「OK」をクリックする

接続先の選択によって設定項目は異なります。

9 表示された画面で「OK」をクリックする

公衆無線LANの接続プロファイルの設定

ここでは、公衆無線LANに接続するための接続プロファイル設定について説明します。

1 「ホームメニュー」で「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

2 左欄の「接続設定」をクリックする

3 「接続プロファイル設定」タブで「追加」をクリックする

4 表示された画面で接続先に、利用する公衆無線LANサービスを選択する

手動で設定する場合は、ユーザー指定を選択してください。

公衆無線LANサービスを選択すると、プロファイル名、SSIDなどが自動的に表示されます。

5 ユーザID、パスワード、サービス名などを入力し、「OK」をクリックする

入力項目は、公衆無線LANサービスによって異なります。

6 その他の設定項目を設定し、「OK」をクリックする

接続先の選択によって設定項目は異なります。

7 表示された画面で「OK」をクリックする

HSDPAの接続プロファイルの設定

ここでは、HSDPA通信カードを使って接続するための接続プロファイル設定について説明します。

1 HSDPA通信カードをコンパクトフラッシュカードスロットにセットする

2 「ホームメニュー」で「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

3 左欄の「接続設定」をクリックする

4 「接続プロファイル設定」タブで「追加」をクリックする

5 表示された画面で接続先に「イー・モバイル」を選択する

プロファイル名、SSIDなどが自動的に表示されます。

チェック

HSDPA通信カードが正しくセットされていないと、接続先に「イー・モバイル」が表示されません。

6 サービス名を選択する

ユーザID、パスワードが表示されます。

7 その他の設定項目を設定し、「OK」をクリックする

接続先の選択によって設定項目は異なります。

8 表示された画面で「OK」をクリックする

チェック

設定終了後に接続をおこなわない場合は、通信カードをコンパクトフラッシュカードスロットから取り出してください。

接続プロファイルを変更する

1 「ホームメニュー」で「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

2 左欄の「接続設定」をクリックする

3 「接続プロファイル設定」タブで、変更したいプロファイルを選択し、「変更」をクリックする

4 表示された画面で設定を変更し、「OK」をクリックする

接続プロファイルを削除する

1 「ホームメニュー」で「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

2 左欄の「接続設定」をクリックする

3 「接続プロファイル設定」タブで、削除したいプロファイルを選択し、「削除」をクリックする

確認のメッセージが表示されたら、「はい」をクリックしてください。

お客様登録のお願い

121wareでは「お客様登録」することで、さまざまなメリットを提供しています。あなたのデジタルライフをグッとオトクに、そしてさらに便利でもっと身近に感じる121wareのサービスを是非ご利用ください。

登録料･会費無料

登録するとメリットがたくさん

■1　電話での「使い方相談」

◆保有商品を登録すると購入後1年間無料で使い方の相談ができる※1

121コンタクトセンターからお電話をさしあげる「電話サポート予約サービス」も利用可能になります。インターネットでご予約ください。

※1：パソコン本体以外の商品／ NEC Refreshed PC(再生パソコン)の「使い方相談」の無料期間は、各商品の保証書に記載の保証期間となります。

■2　あなただけのマイページ

◆マイページは、あなた専用のページです

登録した商品をもとに、あなたの製品に合ったサポートやサービス(優待販売)に関する情報が表示されます。

「マイページ」はお客様登録をすると使えるようになるページです。

■3　NEC Directの優待サービス＆ポイントもGet

◆NEC Directの優待サービスでお買い物。ポイントももらえる

保有商品を登録されているお客様は、NEC Directの優待サービスが受けられます。

■その他の特典

◆メールニュース

商品広告･活用提案･サポート･キャンペーンなどの情報をお届けします。

お客様登録の方法

電話サポートや優待サービスなど、各種特典のご利用にはお客様登録が必要です。
登録には、インターネットを使ったサービスが便利です。

インターネットによる登録をおすすめします

「121wareお客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポートが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし、FAX登録からでは「121wareお客様登録番号」のみの取得になり、インターネットでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログインID」の取得をおすすめします。

■インターネット登録(推奨)

インターネットに接続して、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイページ(http://121ware.com/my/)から登録します。

※ すでにお客様登録がお済みのお客様は、保有商品の追加登録をお願いいたします。「121ware.com」のマイページ(http://121ware.com/my/)内の「保有商品情報」で、ご購入いただいた商品を追加することができます。

■FAX登録

FAX用紙はNECパソコン情報FAXサービスから取り出してください。
お手持ちのFAXから「0120-977-121」(フリーコール)に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので、FAX情報サービス窓口番号である「9」を押します。
FAX情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX番号3002と#を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。

※ 番号をよくお確かめになり、おかけください。

PART

3

基本的な使い方

接続のしかた

接続プロファイルと自動接続

PCリモーターからPCリモーターサーバに接続するとき、ホームメニューから「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックし、接続が完了すると、PCリモーターに、PCリモーターサーバのデスクトップ画面が表示されます。
接続に必要な情報を登録しておく接続プロファイルは、あらかじめ「PART2 初期設定」で登録しておきます。登録後も追加したり、変更したりできます。
接続プロファイルの優先順位を設定し自動接続にしておくと、指定した優先順に接続されるので便利です。また、一時的に手動に切り換えて、接続プロファイルを選んで接続することも可能です。

参照

・接続プロファイルの追加や変更について→PART2の「接続設定を追加/変更/削除する（接続プロファイルの設定）」（p.86）
・自動接続について→PART5の「設定を変更する」-「本機の設定を変更する」-「設定できる項目」-「接続設定」-「接続プロファイル設定」（p.141）

自動接続がONの場合、ホームメニューで「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックすると、接続プロファイルの優先順位にしたがって接続されます。接続されたプロファイルの画面転送方式にしたがって、リモートスクリーン方式またはリモートデスクトップ方式で接続されます。

自動接続がOFFの場合、画面転送方式を選択後、接続アダプタ一覧画面、セーフコネクト接続画面が表示されます。無線LANの場合は、さらにSSID一覧画面が表示されます。SSID一覧画面には、登録した接続プロファイル名が表示されるので、接続プロファイルを選択します。

参照

画面転送方式について→PART4の「リモートスクリーン方式とリモートデスクトップ方式」（p.106）

画面転送方式の選び方

PCリモーターからPCリモーターサーバへ接続する際の画面転送方式には、次の2つがあります。

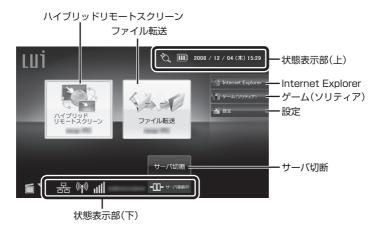
- リモートスクリーン
- リモートデスクトップ

参照

巻頭の「PCリモーターの遠隔操作方式」(p.iv)、PART4の「リモートスクリーン方式とリモートデスクトップ方式」(p.106)

通信回線状況が良好な場合は、まず、「リモートスクリーン」方式がおすすめです。電波状況が悪く公衆無線LANの速度が遅い場合などに「リモートデスクトップ」方式に切り換えて、メールやワープロ、ホームページ閲覧をすることができます。

PART4の「リモートスクリーン方式とリモートデスクトップ方式」-「ハイブリッドリモートスクリーンとは」(p.106)の表を参考にして、お使いの環境や利用シーンにあわせてご利用ください。

ホームメニューについて

ホームメニューとは

本機を起動すると、ホームメニューが表示されます。PCリモーターサーバに接続しリモート操作する「ハイブリッドリモートスクリーン」や、PCリモーターサーバとファイルのやりとりをする「ファイル転送」など、本機でおこなえるすべての機能は、ホームメニューから起動します。また本機の接続設定をしたり、バッテリの充電状態やネットワークの接続状態などの確認もホームメニューからおこなえます。

初期設定が済んでいない場合には「初期設定」ボタンが表示されます。まずは初期設定をおこなってください。

ホームメニューの画面

◆ハイブリッドリモートスクリーン

PCリモーターサーバと接続し、リモート操作します。

ハイブリッドリモートスクリーンについて→巻頭の「PCリモーターの遠隔操作方式」(p.iv)

◆ファイル転送

PCリモーターサーバと接続し、ファイル転送をします。

ファイル転送について→PART4の「ファイルを転送する」(p.133)

◆サーバ切断

PCリモーターサーバとの通信を切断します。

◆状態表示部(上)

日時や本機の電源(バッテリ・ACアダプタの状態)を表示します。

アイコンについて→このPARTの「状態表示について」(p.98)

◆状態表示部(下)

本機のネットワーク状態および、PCリモーターサーバとの接続状態を表示します。

アイコンについて→このPARTの「状態表示について」(p.98)

◆Internet Explorer

Internet Explorerを起動します。

- 公衆無線LANや、ホテルからのインターネット利用時のユーザ認証用にご使用ください。それ以外のWebページはご利用できない場合があります。また、状態表示部(下)に「サーバ接続中」と表示されている間は使用できません。
- Adobe FlashやJAVAなどのプラグインには対応していません。

◆ゲーム(ソリティア)

ソリティアを起動します。「ヘルプ」をクリックしても、ヘルプは表示されません。

◆設定

本機の設定がおこなえます。

設定について→PART5の「設定を変更する」(p.138)

状態表示について

ホームメニューの上下には本機の状態を表すアイコンが表示されます。アイコンの意味は次のとおりです。

アイコン	説明
	ACアダプタが接続されている状態を表します。
	ACアダプタが接続されていない状態を表します。
	バッテリの残量を表示します。残量表示がアニメーションしている場合、ACアダプタが接続され充電がおこなわれています。 メモ 枠がオレンジ色で表示されている場合は充電の準備をおこなっています。しばらく時間がたつと充電が開始されます。
	バッテリが少し消費された状態を表します。
	バッテリ残量が少ない状態を表します。残量表示が点滅しているともうすぐバッテリ残量がなくなります。ACアダプタを接続して充電を開始してください。
	バッテリ残量が切れた状態を表します。自動的に電源オフとなります。
	バッテリが取り外された状態を表します。ACアダプタで駆動しています。
	有線LANでネットワークに接続されている状態を表します。
	有線LANでネットワークに接続されていない状態を表します。
	無線LANでネットワークに接続されている状態を表します。無線LANのシグナル状態の右側に、接続しているSSIDが表示されます。
	無線LANの電源はオンになっていますが、無線LANでネットワークに接続されていない状態を表します。
OFF	無線LANの電源がオフの状態を表します。【Fn】+【F2】を押してオンにすることができます。
	無線LAN接続時のシグナルの状態を表示します（6段階）。本数が多いほど電波状態は良好です。
	HSDPA通信カードで接続時のシグナル状態を表示します（5段階）。本数が多いほど電波状態は良好です。
	HSDPA通信カードが正しくコンパクトフラッシュカードスロットにセットされていることを表します。
	HSDPA通信カードがダイヤルアップ通信中であることを表します。
	HSDPA通信カードを認識中またはHSDPA通信カードの状態が不明であることを表します。

サーバ接続中	PCリモーターサーバに接続されている状態を表します。
サーバ未接続	PCリモーターサーバに接続されていない状態を表します。

電源ランプについて→PART1の「電源について」-「電源状態の確認方法」(p.16)

PART 3 基本的な使い方

画面の明るさの調節

表示機能について

ここでは、本機の輝度を調節する方法などについて説明します。

液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にドット抜け※(ごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点)が見えることがあります。

また、見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

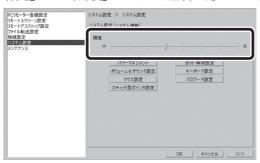
※:社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)のガイドラインにしたがい、ドット抜けの割合を「仕様一覧」に記載しております。ガイドラインの詳細については、次のホームページをご覧ください。

「パソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドライン」

http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503dot/index.html

輝度の調節

本機の液晶ディスプレイの明るさ(輝度)を、8段階で調節できます。画面の明るさの調節はキーボードまたは「設定」メニューからおこないます。

■キーボードで調節する

キーボードで輝度を調節するには次のキーでおこないます。

機能	キー操作	説明
輝度を下げる(▼☼)	【Fn】+【F7】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイが暗くなります。
輝度を上げる(▲☼)	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイが明るくなります。

■「設定」メニューで調節する

「設定」メニューで輝度を調節するには次の手順でおこないます。

1 「ホームメニュー」を表示させる

2 「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

3 左欄の「システム設定」をクリックする

4 「システム設定」タブで「輝度」のつまみを左右に動かして、輝度を調節する

PART 3 基本的な使い方

音量の調節

サウンド機能について

■音量調節機能

本機で内蔵スピーカの音量を調節するには複数の方法があります。詳しくは、このページの「音量を調節する」をご覧になり、そのときの状況に応じて、使いやすい方法で音量を調節してください。

接続できる機器

本機には、市販のヘッドフォンやマイクを接続できます。

ヘッドフォンやマイクの使い方を誤ると、聴力に悪い影響を与えることがあります。添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。

音量を調節する

本機の音量を調節するにはキーボード、または「設定」メニューからおこないます。

■キーボードで音量を調節する(16段階)

キーボードから音量を調節するには次のキーでおこないます。

機能	キー操作	説明
音量を下げる	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、音量が下がります。
音量を上げる	【Fn】+【F10】	キーを押すごとに、音量が上がります。

■「設定」メニューで音量を調節する(6段階)

「設定」メニューから音量を調節するには次の手順でおこないます。

1 「ホームメニュー」で「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

2 左欄の「システム設定」をクリックし、「システム設定」タブの「ボリューム＆サウンド設定」をクリックする

3 「ボリューム」タブでつまみを上下に動かして音量を調節する

■音声を消す

音声を消したいときは【Fn】+【F1】を押します。もう一度押すか、音量の上げ下げの操作をおこなうともとの音量に戻ります。

マイクを使う

リモートスクリーン時に音声チャットを利用する際などに、マイクを使う場合、次の設定が必要です。

1 「ホームメニュー」で「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

2 左欄の「リモートスクリーン設定」をクリックし、「リモートスクリーン設定」タブを選択する

3 「マイク入力設定」にチェックを入れる

マイク入力が有効になり、ボリューム変更ができるようになります。

- リモートデスクトップ接続中は、マイク機能は使用できません。
- マイク入力を有効にすると、マウスポインタなどの反応が鈍くなることがあります。
- PCリモーターサーバのマイク入力レベルを確認してください。
- PCリモーターサーバ上で(リモートスクリーン時に)音声チャット等のアプリケーションを利用する場合、アプリケーションのポート設定の変更が必要になることがあります。アプリケーションのマニュアルで確認してください。

PART

4

リモートスクリーンまたは
リモートデスクトップで接続する

リモートスクリーン方式とリモートデスクトップ方式

ハイブリッドリモートスクリーンとは

「ハイブリッドリモートスクリーン」とは、「リモートスクリーン」または「リモートデスクトップ」のどちらかを選んでご利用になれる機能です。PCリモーターサーバのOSの種類により、利用可能な方式およびご利用方法が異なります。また、利用シーンによって適した方式が異なります。次の表を参考にして、お使いの環境や利用シーンにあわせてご利用ください。

項目 ＼ 方式	リモートスクリーン	リモートデスクトップ
説明	NECが開発したPCを遠隔操作する機能	WindowsのPC遠隔操作機能
サーバとなるパソコン		
ホームサーバPC(Lui SX)	○	×
VALUESTAR Luiモデル	○	○※1
PCリモーターサーバボードが搭載されたパソコン	○※1	○※1
サーバOS		
Windows Vista Ultimate SP1	○	○
Windows Vista Business SP1	○	○
Windows Vista Home Premium SP1	○	×
Windows XP Professional SP3	○※2	○※2
おすすめの利用シーン		
回線速度	1Mbps以上	500kbps以上
動画再生	○※3	×
画像表示	○※4	○※3
音楽再生	○※3	×
ホームページ閲覧	○※3、※4	○※3、※5
メールやワープロなどの文字中心の利用	○※4	○
マイク入力を必要とするAP	○※6	×

※1：OSの種類により利用できない場合があります。本表のサーバOSを参照してください。
※2：リモートデスクトップ方式で接続した後に、リモートスクリーン方式に切り替えて接続することはできません。
※3：回線速度が遅い場合は、スムーズに再生・表示ができない場合があります。
※4：回線速度が遅い場合は、画像や文字がぼやけて表示される場合があります。
※5：動画、アニメーション、多くの画像などを用いたホームページはスムーズに表示できない場合があります。
※6：回線の状況によってはマイク入力した音声が遅延する場合があります。

PCリモーターサーバに接続する

ハイブリッドリモートスクリーンは、PCリモーターサーバのデスクトップ環境を本機で遠隔操作する機能です。自宅のパソコンをPCリモーターサーバにした場合、外出先からメールを使用して自宅にあるPCリモーターサーバを起動します。その後ハイブリッドリモートスクリーン接続をおこない、遠隔操作することができます。ハイブリッドリモートスクリーン接続で同時に利用可能なPCリモーターは1台です。

参照

セーフコネクトについて➡巻頭の「セーフコネクトとは」(p.vi)

チェック

無線LANで接続する場合は、HSDPA通信カードをコンパクトフラッシュカードスロットから取り出しておいてください。

PCリモーターサーバの電源について

PCリモーターからハイブリッドリモートスクリーン接続するとき、PCリモーターサーバがスリープまたは休止状態だった場合は、PCリモーターサーバは自動的に起動します。
ホームサーバPC(Lui SX)をお使いの場合、シャットダウン状態からも起動できます。

自動接続/優先順位/画面転送方式について

▶ ホームメニューで「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックすると、接続プロファイルで設定した「自動接続」「優先順位」「画面転送方式」の項目にしたがって接続がおこなわれます。

自動接続がONの場合、接続プロファイルの優先順位にしたがって接続されます。接続されたプロファイルで設定されている画面転送方式にしたがって、リモートスクリーン方式またはリモートデスクトップ方式で接続されます。

自動接続がOFFの場合、画面転送方式を選択後、接続アダプター覧画面、セーフコネクト接続画面が表示されます。無線LANの場合は、さらにSSID一覧画面が表示されます。SSID一覧画面には、登録した接続プロファイル名が表示されるので、接続プロファイルを選択します。
画面転送方式の初期値はリモートスクリーンです。

▶ 自動接続がONの場合でもホームメニューで【Shift】を押しながら「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックすると、画面転送方式を手動で切り換える画面を表示できます。

リモートデスクトップ方式を利用するには、PCリモーターサーバのOSがWindows Vista Ultimate SP1/Vista Business SP1/XP Professional SP3のいずれかで、初期設定またはPCリモーターサーバ上で、「スタート」-「すべてのプログラム」-「PCリモーター」-「PCリモーターサーバ設定」をクリックし、「リモートデスクトップ設定」-「リモートデスクトップ設定」で、リモートデスクトップの許可の設定と許可ユーザの登録をおこなっておく必要があります。

初期設定の「リモートデスクトップ設定」について→PART2の「PCリモーター /PCリモーターサーバの初期設定」-「セーフコネクト接続設定(ホームサーバPC/パソコン側)」(p.67)

PCリモーターサーバへの接続(宅内)

宅内で「ハイブリッドリモートスクリーン」を使用するには次の手順でおこなってください。

- DVDディスクがPCリモーターサーバのBD/DVD/CDドライブに挿入されているときはPCリモーターサーバに接続できません。PCリモーターをお使いになる場合は、BD/DVD/CDドライブからDVDディスクを取り出してからお使いください。
- マルチディスプレイはサポートしていません。
- ホームサーバPC(Lui SX)をお使いの場合で、リモートスクリーン中にPCリモーターで音を聞くときは、PCリモーターサーバのサウンドのプロパティで、オーディオ出力を「ライン」に変更する必要があります。

1 「ホームメニュー」で「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックする

PCリモーターサーバのOSがWindows XP Professionalの場合、リモートデスクトップ方式で接続した後に、リモートスクリーン方式に切り替えて接続することはできません。そのため手動接続でどちらか一方の方式でのご利用をおすすめします。自動接続をご利用になる場合は、プロファイルの設定をどちらかの一方の方式に統一してご利用ください。

自動接続の設定がONの場合でも、リモートスクリーン/リモートデスクトップの画面転送方式の選択、およびデバイスとネットワーク名(SSID)の選択を一時的に手動でおこなうには、【Shift】を押しながら「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックします。

2 セーフコネクト接続画面が表示されたら、接続用パスワードを入力し、「OK」をクリックする

3 ネットワークへの接続が完了したら、リモートデスクトップ方式の場合、ログオン画面が表示されるので、ログオンする

リモートスクリーン方式の場合、自動でWindowsにログオンして、PCリモーターサーバのデスクトップ画面が表示されます。

接続完了後にPCリモーターサーバの画面がPCリモーターに表示されるまで時間がかかる場合があります。

チェック

手動接続、およびホームメニューで【Shift】を押しながら「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックした場合、次のような画面転送方式の選択画面が表示されるので、「リモートスクリーン」または「リモートデスクトップ」のいずれかの方式を選択し、「OK」をクリックしてください。

チェック

「接続アダプタ一覧」が表示された場合、使用する接続アダプタを選択し、「OK」をクリックしてください。

「接続アダプタ一覧」は、使用可能な接続アダプタが複数あるときに表示されます。

無線LANの電源のオン／オフは、PART1の「無線LAN電源のオン／オフのしかた」(p.19)をご覧ください。

「ISP接続確認」が表示された場合、宅内からの接続のときは、「認証なし」を選択して「OK」をクリックしてください。

「SSID一覧」が表示された場合、接続する無線LAN機器のネットワーク名（SSID）を選択し、「接続」をクリックしてください。

「SSID一覧」は、無線LAN機器の電波強度、ネットワーク名（SSID）、該当する登録済み接続プロファイル名を一覧表示します（表示されるまでしばらく時間がかかります）。

「SSID一覧」で表示されるアイコンの意味は次のとおりです。

無線LAN機器のシグナルの状態を6段階で表します（本数が多いほど電波状態は良好）。

セキュリティ設定が有効であることを表します。

接続プロファイルについては、PART2の「接続設定を追加/変更/削除する（接続プロファイルの設定）」（p.86）をご覧ください。

PCリモーターサーバへの接続（宅外）

公衆無線LANで接続する

外出先から無線LANで「ハイブリッドリモートスクリーン」を使用するには次の手順でおこなってください。

- DVDディスクがPCリモーターサーバのBD/DVD/CDドライブに挿入されているときはPCリモーターサーバに接続できません。PCリモーターをお使いになる場合は、BD/DVD/CDドライブからDVDディスクを取り出してからお使いください。
- マルチディスプレイはサポートしていません。
- ホームサーバPC(Lui SX)をお使いの場合で、リモートスクリーン中にPCリモーターで音を聞くときは、PCリモーターサーバのサウンドのプロパティで、オーディオ出力を「ライン」に変更する必要があります。

電波が弱くアンテナが2本以下になっていたり、5か所以上の多数のアクセスポイントが近くに設置されたりしていないかを確認してください。もし、このような状況になっている場合は、無線の電波ができるだけ強い場所に移動したり、アクセスポイントが少ない場所に移動したりしてください。

メモ

ホテルからの接続では、専用の認証(ログイン)が必要な場合があります。ホームメニューで一度、Internet Explorerを起動し、そのホテルの専用の認証(ログイン)画面で認証(ログイン)をおこなった後、ご利用ください。

Internet Explorerの起動直後は次のような画面が表示されます。認証(ログイン)する際はURLを入力するなどして任意のサイトにアクセスする必要があります。

なお、ホームメニューのInternet Explorerは、ホテルからのインターネット接続時、および公衆無線LAN利用時のユーザ認証用にご使用ください。それ以外のWebページはご利用できない場合があります。

1 「ホームメニュー」で「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックする

メモ

自動接続の設定がONの場合でも、リモートスクリーン/リモートデスクトップの画面転送方式の選択、およびデバイスとネットワーク名(SSID)の選択を一時的に手動でおこなうには、【Shift】を押しながら「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックします。

2 セーフコネクト接続画面が表示されたら、接続用パスワードを入力し、「OK」をクリックする

「自動認証する」が有効になっている接続プロファイルでは、事前に登録しておいたユーザIDやパスワードなどを使用して、ネットワークへの接続認証を自動的におこないます。初期状態では「自動認証する」が有効になっています。

PCリモーターの自動認証は次の公衆無線LANサービスに対応しています。

・ フレッツ·スポット(NTT東日本、NTT西日本)
・ HOTSPOT
・ BBモバイルポイント
・ Mzone
・ livedoor Wireless

自動認証で公衆無線LANサービスに接続した場合、切断時のログオフ処理も自動でおこなわれます。

手動で公衆無線LANサービスに接続した場合は、手動でログオフ処理をする必要があります。

3 ネットワークへの接続が完了したら、リモートデスクトップ方式の場合、ログオン画面が表示されるので、ログオンする

リモートスクリーン方式の場合、自動でWindowsにログオンして、PCリモーターサーバのデスクトップ画面が表示されます。

接続完了後にPCリモーターサーバの画面がPCリモーターに表示されるまで時間がかかる場合があります。

「SSID一覧」が表示された場合、接続する無線LAN機器のネットワーク名(SSID)を選択し、「接続」をクリックしてください。

「SSID一覧」は、無線LAN機器の電波強度、ネットワーク名(SSID)、該当する登録済み接続プロファイル名を一覧表示します（表示されるまでしばらく時間がかかります)。

「SSID一覧」で表示されるアイコンの意味は次のとおりです。

無線LAN機器のシグナルの状態を6段階で表します（本数が多いほど電波状態は良好)。

セキュリティ設定が有効であることを表します。

接続プロファイルについては、PART2の「接続設定を追加/変更/削除する(接続プロファイルの設定)」(p.86)をご覧ください。

手動接続、およびホームメニューで【Shift】を押しながら「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックした場合、次のような画面転送方式の選択画面が表示されるので、「リモートスクリーン」または「リモートデスクトップ」のいずれかの方式を選択し、「OK」をクリックしてください。

「接続アダプタ一覧」が表示された場合、使用する接続アダプタを選択し、「OK」をクリックしてください。

「接続アダプタ一覧」は、使用可能な接続アダプタが複数あるときに表示されます。

無線LANの電源のオン／オフは、PART1の「無線LAN電源のオン／オフのしかた」(p.19)をご覧ください。

「ISP接続確認」が表示された場合、認証方式を選択して「OK」をクリックしてください。インターネット経由で接続する場合は、利用する各公衆無線LANサービス事業者の手順に沿ってユーザ認証をおこなってください。

- 認証の必要がない場合は、「認証なし」を選択し、「OK」をクリックしてください。
- ブラウザ上でユーザID、パスワードを入力して認証する必要がある場合は、「Web認証」を選択してください。Web認証を選択した場合はブラウザが起動します。認証が終了したらブラウザの「x」をクリックしてください。接続画面に戻り、リモートスクリーン接続処理が開始されます。
- PPPoE方式で認証する場合は「PPPoE認証」を選択してください。「PPPoE認証」を選択した場合は、「接続プロファイル設定」で登録したユーザID、パスワードを使って認証します。PPPoE認証を選択した場合は、事前にPPPoE認証をする接続プロファイルを作成しておく必要があります。PPPoE認証をする接続プロファイルが複数登録されている場合は候補が表示されますので、接続先を選択し「OK」をクリックしてください。
- PCリモーターのMACアドレスを使って認証する場合は「MACアドレス認証」を選択してください。MACアドレス認証を選択した場合は、事前にPCリモーターのMACアドレスを公衆無線LANサービス事業者に登録しておく必要があります。

MACアドレスの調べ方について→PART5の「設定を変更する」-「本機の設定を変更する」(p.138)

インターネット経由で接続する場合

- 本機とPCリモーターサーバの間でメールのやりとりをおこない、接続処理をおこないます。そのため、接続が完了するまで数分かかります。
- 接続完了後にPCリモーターサーバの画面がPCリモーターに表示されるまで時間がかかる場合があります。
- 遅延が生じるネットワークに接続した場合、遅延に応じて操作の反応時間が遅くなります。

表示方法について→PART3の「画面の明るさの調節」-「表示機能について」(p.100)
接続時の画質について→このPARTの「「リモートスクリーン方式」の場合」-「画質の調節」(p.121)

HSDPAで接続する

外出先からHSDPAで「ハイブリッドリモートスクリーン」を使用するには次の手順でおこなってください。

- DVDディスクがPCリモーターサーバのDVD/CDドライブに挿入されているときはPCリモーターサーバに接続できません。PCリモーターをお使いになる場合は、DVD/CDドライブからDVDディスクを取り出してからお使いください。
- ホームサーバPC(Lui SX)をお使いの場合で、リモートスクリーン中にPCリモーターで音を聞くときは、PCリモーターサーバのサウンドのプロパティで、オーディオ出力を「ライン」に変更する必要があります。

1 コンパクトフラッシュカードスロットに、HSDPA通信カードをセットする

HSDPA通信カードが正しくセットされると、画面の状態表示部に通信カード挿入アイコンが表示されます。が表示された場合は、HSDPA通信カードが正しく認識されていません。一度HSDPA通信カードを抜いてから再度セットしてください。

2 「ホームメニュー」で「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックする

自動接続の設定がONの場合でも、リモートスクリーン/リモートデスクトップの画面転送方式の選択を一時的に手動でおこなうには、【Shift】を押しながら「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックします。

3 セーフコネクト接続画面が表示されたら、接続用パスワードを入力し、「OK」をクリックする

「自動認証する」が有効になっている接続プロファイルでは、事前に登録しておいたユーザIDやパスワードなどを使用して、ネットワークへの接続認証を自動的におこないます。初期状態では「自動認証する」が有効になっています。

チェック

手動接続、およびホームメニューで【Shift】を押しながら「ハイブリッドリモートスクリーン」をクリックした場合、次のような画面転送方式の選択画面が表示されるので、「リモートスクリーン」または「リモートデスクトップ」のいずれかの方式を選択し、「OK」をクリックしてください。

チェック

「接続アダプタ一覧」が表示された場合、使用する接続アダプタを選択し、「OK」をクリックしてください。

「接続アダプタ一覧」は、使用可能な接続アダプタが複数あるときに表示されます。

無線LANの電源のオン／オフは、PART1の「無線LAN電源のオン／オフのしかた」(p.19)をご覧ください。

4 ネットワークへの接続が完了したら、リモートデスクトップ方式の場合、ログオン画面が表示されるので、ログオンする

リモートスクリーン方式の場合、自動でWindowsにログオンして、PCリモーターサーバのデスクトップ画面が表示されます。

接続完了後にPCリモーターサーバの画面がPCリモーターに表示されるまで時間がかかる場合があります。

HADPAで通信中はHSDPA通信カードを取り出さないでください。HSDPAでの接続を切ってからHSDPA通信カードを取り出してください。

HSDPA通信を終了後は、HSDPA通信カードを本機から取り出してください。

接続中の画面について

PCリモーターサーバに接続すると、本機にPCリモーターサーバの画面が表示されます。

サーバの状態、または回線の状態によっては、接続に失敗する場合があります。この場合は、再度接続してください。

接続中の画面表示は、画面転送方式によって異なります。
リモートスクリーンで接続した場合、このPARTの「「リモートスクリーン方式」の場合」の「画面表示について」(p.120)を、リモートデスクトップで接続した場合、このPARTの「「リモートデスクトップ方式」の場合」の「画面表示について」(p.130)をご覧ください。

「リモートスクリーン方式」の場合

画面表示について

【Fn】+【F11】を押すことで、画面上部にPCリモーターサーバとの接続状態が一定時間表示(オンスクリーン表示)されます。「リモートスクリーン」を使用しているときの状態はアイコンで確認できます。

PC	PCモードで接続していることを表します。 PCモードについてはこのPARTの「画質の調節」をご覧ください。
Movie	Movieモードで接続していることを表します。 Movieモードについてはこのpartの「画質の調節」をご覧ください。
	無線LAN接続時のシグナルの強さを表します。
	バッテリ残量を表します。
◀画質 ▼ 動き▶	現在の画質を表します。
	現在の音量を表します。

画質の調節

PCリモーターへ送信する画像や音声は、ネットワークの速度設定に合わせて圧縮して送信します。ネットワークの速度が遅い環境では、より高圧縮して送信するため、速度の遅い環境でご使用になる場合は、ネットワークの速度が速い環境でご使用されるときにくらべて画質や音質が劣ります。
ご利用方法に合わせて、PCモード/Movieモードの選択、画質優先/動き優先の調節をおこなってください。

PCモードとMovieモード

■PCモード

画像の鮮明さと本機を操作するときのレスポンスを重視するモードです。文書作成などの操作をするときに選択します。PCモードでは操作レスポンス優先のため、映像と音声のずれや、音切れが発生しやすくなります。
リモートスクリーン接続時には、PCモードで接続されます。必要に応じてモードを変更してください。

■Movieモード

動画のなめらかさを重視するモードです。Windows Media Playerなどで動画を再生するときなどに選択します。Movieモードでは操作レスポンスは悪くなりますが、映像と音声がずれず、音切れも発生しにくくなります。
また、Movieモードでは、マウスやキーボード操作などをおこなっても、すぐには反応しません。遅れる時間は、リモートスクリーン設定のMovieモード時のバッファサイズ数によって変わります。バッファサイズを大きくすると接続回線の変動による画像や音声の乱れに耐えやすくなります（その分、遅れる時間が大きくなります）。

PCモードとMovieモードは次のキーで設定します。

機能	キー操作
PCモードにする	【Fn】+【F4】
Movieモードにする	【Fn】+【F5】

画質優先と動き優先

画質を優先させるか、画像の動きを優先させるかを調節します。画質の調節はキーボードまたは「設定」メニューでおこないます。
設定している回線速度や表示している画面の内容によっては画質の見た目が変わらないことがあります。

■キーボードで調節する

キーボードで画質を調節するには次のキーでおこないます。

機能	キー操作	説明
画質優先にする	【Fn】+【Q】	キーを押すごとに、画質が向上します。マウス操作やキーボード入力などをした場合の反応速度は下がります。
動き優先にする	【Fn】+【W】	キーを押すごとに、画質が低下します。マウス操作やキーボード入力などをした場合の反応速度は上がります。

■「設定」メニューで調節する

「設定」メニューでの設定は、リモートスクリーン接続時の画質を設定します。
なお、接続中は設定できません。接続終了後におこなってください。
「設定」メニューで画質を調節するには次の手順でおこないます。

1 「ホームメニュー」で「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

2 左欄の「リモートスクリーン設定」をクリックする

3 「リモートスクリーン設定」タブで、「画質/動き設定」のつまみを左右に動かして、画質を調節する

つまみを「画質優先」に動かすと画質が向上します。スティック型ポインタやキーボード、マウスの操作の反応速度は下がります。
つまみを「動き優先」に動かすと画質は低下します。スティック型ポインタやキーボード、マウスの操作の反応速度は上がります。

ターゲットポインタについて

ネットワーク回線の速度が遅い場合や遅延などで、リモートスクリーン接続時にマウスポインタの反応が鈍くなる場合があります。このようなときは、ターゲットポインタを使用すると、操作性を向上できます。
ターゲットポインタは、PCリモーター側でマウスの動きを描画するので、回線の遅延の影響を受けません。

PCリモーターの ターゲットポインタ		スティック型ポインタの操作やマウス操作に遅れることなく反応します。
PCリモーターサーバのマウスカーソル		ターゲットポインタにやや遅れて追従します。遅れ具合は回線遅延の状況によって異なります。

ターゲットポインタの設定は、ホームメニューの「設定」-「リモートスクリーン設定」-「ターゲットポインタ設定」でおこなえます。

ボタンをクリックする場合などでは、ターゲットポインタを目的の場所まで動かし、その場所にマウスカーソルが追いついてからクリックしてください。

リモートスクリーンメニュー

PCリモーターサーバにインストールされている「リモートスクリーンメニュー」でPCリモーターサーバと本機との接続を管理できます。PCリモーターサーバの切断の操作、通信の際の回線速度の調節などができます。「リモートスクリーンメニュー」は次の方法で使用できます。

メモ

「リモートスクリーン」を使用している場合、本機からも「リモートスクリーンメニュー」を操作できます。

1 画面右下のアイコン( )を右クリックして表示されるメニューから機能を選択する

切断

1 リモートスクリーンメニューで「切断」をクリックする

2 リモートスクリーンの切断確認画面で「はい」をクリックする

本機とPCリモーターサーバとの「リモートスクリーン」を終了しホームメニューに戻ります。この場合、セーフコネクトでのサーバ接続状態は維持されています。

回線速度

PCリモーターサーバに接続中の回線速度を調節できます。ご使用になっているネットワークの帯域に応じて回線速度の調節をおこなってください。
回線速度に合わない設定をすると、操作しづらい場合があります。
回線速度の目安は次の表を参考にしてください。表の値は、参考値であり、PCモード/Movieモード、画質優先/動き優先の設定によって、必要となる回線速度は異なります。

ネットワーク種別			回線設定	回線速度の目安
有線LAN			レベル6	30Mbps以上
			レベル5	15Mbps以上
	無線LAN		レベル4	7Mbps以上
			レベル3	5Mbps以上
			レベル2	4Mbps以上
		HSDPA	レベル1	3Mbps以上

・ 回線速度は、理論値ではなく実効値です。
・ 回線速度の調節は一時的なものです。通信を切断するとプリセットされている設定に戻ります。回線速度の設定を変更する場合は、「設定」-「接続設定」-「接続プロファイル設定」でおこなえます。詳しくは、PART5の「設定を変更する」-「本機の設定を変更する」(p.138)をご覧ください。

接続拒否

PCリモーターで接続されているときに「リモートスクリーンメニュー」を使って接続を拒否する操作はできません。

タスクトレイから出す/タスクトレイに入れる

リモートスクリーンメニューをタスクトレイから出したり、収納したりできます。

本機を操作するときの注意事項

- ・リモートスクリーンで接続中に解像度を切り換えると、通信が切断されたり、ターゲットポインタとマウスカーソルがずれることがあります。
- ・「リモートスクリーン」で接続中は、ログオンする画面、ユーザー切り替えする画面、ロックする画面などには遷移できません。ユーザー切り替えをおこなうと、遷移後、自動的にログオンされるか、回線が切断される場合があります。そのため、ユーザー切り替えやロック機能はご使用になれません。
- ・「リモートスクリーン」で接続中は、【Ctrl】+【Alt】+【Del】を押して表示される画面の状態で切断しないでください。解像度切り換え機能などが正常に動作しない場合があります。
- ・「リモートスクリーン」で接続中は、PCリモーターサーバでスリープ/休止状態の設定がされている場合でも自動でスリープ/休止状態になることはありません。
- ・画面モードが切り換わるゲームなどのソフトを起動すると通信が切断されることがあります。
- ・ソフトによっては起動するとマウスでの操作ができなくなる場合があります。その場合は、キーボードにより操作、終了してください。
- ・PCリモーターサーバで、BD/DVD/CDドライブにアクセスする機能や仮想ドライブを作成する機能のある次のようなソフトが起動している場合には、本機でPCリモーターサーバに接続できない場合があります。
  - DVDやブルーレイディスク再生ソフト
  - 音楽CDソフト(CD再生、リッピングなど)
  - ディスクライティングソフト(DVD作成機能がある動画編集ソフトを含む)
  - 仮想ドライブソフト
- ・マルチディスプレイはサポートしていません。
- ・著作権保護のため、地上デジタル放送やBS/CSデジタル放送の録画番組をPCリモーターサーバで再生させ、本機で見ることはできません。DVDやブルーレイディスクの再生をおこなうことはできません。
- ・回線速度が遅い環境でご使用になる場合、映像のコマ落ち、音声の途切れが発生しやすくなります。
- ・ご使用の環境、またはネットワークの環境によっては操作反応の遅延が起こります。
- ・特定のソフトにより、ウィンドウの大きさが変わらない、メニューが隠れて操作できなくなる、画面のほとんどがメニュー表示になってしまうなどの症状が発生する場合があります。
- ・PCリモーターサーバにキーボードが接続されていない場合、「リモートスクリーン」は使用できません。また、接続中にキーボードが取り外された場合は、リモートスクリーン接続が切断されます。
- ・Movieモード時の最大フレームレートは20fpsです。

・リモートスクリーン接続中に、スタートボタンから再起動をおこなうと、再起動後、PCリモーターサーバのログオン画面が小さく表示される場合があります。
・HSDPA接続の場合、ネットワークの遅延が大きいため、操作性が悪くなったり、音声の遅延が発生する場合があります。

PCリモーターサーバを操作するときの注意事項

・PCリモーターサーバにログオンしているユーザーが一時的にPCリモーターからの接続拒否をしているときは、PCリモーターサーバ側のユーザーがログオフすることによりログオンできるようになります。
・本機でPCリモーターサーバに接続しているときは、本機からのみPCリモーターサーバの操作ができます。PCリモーターサーバに接続されているマウスやキーボードでは操作できません。また、ディスプレイには画面が表示されません。
本機でPCリモーターサーバに接続しているときにPCリモーターサーバ側で操作をしたいときは、PCリモーターサーバ側で【Alt】+【F1】を押すと、本機とPCリモーターサーバの接続は切断され、本機には「ホームメニュー」が表示されます。
・本機とPCリモーターサーバの切断後、PCリモーターサーバの解像度がもとに戻らない場合があります。
・PCリモーターと接続中に、DVDディスクをPCリモーターサーバに挿入すると、通信が切断されます。
・マルチユーザーには対応していません。リモートスクリーン接続時は、ユーザー切り替えをおこなわないでください。
・PCリモーターの初期設定で自動ログオンユーザーとして登録したユーザー以外がPCリモーターサーバにログオンして使用しているときには、リモートスクリーンは使用できません。
・PCリモーターサーバがWindows XPの場合は、「ようこそ画面」は使用できなくなります。

「リモートスクリーン」の終了

「リモートスクリーン」を終了する場合は、次の方法があります。

PCリモーターは自動認証で公衆無線LANに接続した場合のみ、自動的にログオフ処理をおこないます。手動で公衆無線LANに接続した場合は、手動でログオフ処理をおこなってください。

リモートスクリーン接続した状態でスリープまたは休止の操作をおこなわないでください。PCリモーターサーバをスリープまたは休止状態にさせるには、PCリモーターサーバのWindowsの電源設定で一定時間経過後にスリープまたは休止状態になるように設定してください。

■【Fn】+【Esc】を押す

セーフコネクトの接続が維持されたままホームメニューに戻ります。
PCリモーターサーバはロックされた画面になります。

音楽などを再生中に、リモートスクリーンを終了すると、PCリモーターサーバの画面はロックされた状態で、スピーカから音楽が流れます。

■「リモートスクリーンメニュー」を使う

画面右下のを右クリックして表示される「リモートスクリーンメニュー」で「切断」をクリックすると、セーフコネクトの接続が維持されたままホームメニューに戻ります。

音楽などを再生中に、リモートスクリーンを終了すると、PCリモーターサーバの画面はロックされた状態で、スピーカから音楽が流れます。

ホームメニューの「サーバ切断」をクリックすると、セーフコネクト接続(PCリモーターサーバとの通信)が切断されます。

PCリモーターサーバの操作

「接続拒否」について

PCリモーターサーバ側でPCリモーターに接続されると不都合な操作をおこなう場合は、リモートスクリーンメニューで「接続拒否」を設定することができます。操作を開始する前に「接続拒否」を設定していると、PCリモーターから接続されることなく操作ができます。操作が終了したら、「接続拒否」を解除することにより、PCリモーターからの接続を受け付けるようになります。
「接続拒否」を設定していても、PCリモーターからリモート再起動した場合、PCリモーターサーバ側に確認画面が表示され、10秒後に再起動します。

メモ

「接続拒否」の状態は、PCリモーターサーバの再起動もしくは、ユーザーがWindowsからログオフすると自動的に解除されます。

PCリモーターサーバでの切断方法

PCリモーターでPCリモーターサーバに接続しているときは、PCリモーターサーバ側には何も表示されず、Windowsの操作をおこなうことはできません。PCリモーターサーバ側から操作をおこないたい場合は、PCリモーターサーバ側で【Alt】＋【F1】を押して強制的に通信を切断してください。接続許可画面が表示されるまでは、この操作をおこなっても切断できない場合があります。

接続許可確認について

PCリモーターサーバを操作中に「PCリモーターへの接続を受け付けますか？あと○秒で自動的に接続します。」という画面が表示されたときに、「はい」をクリックするとPCリモーターからの接続を受け付けます。接続を受け付けるとPCリモーターサーバ側の画面には何も表示されなくなり、操作をおこなうことはできなくなります。「いいえ」をクリックするとPCリモーターからの接続を拒否できます。

メモ

- 「PCリモーターへの接続を受け付けますか？あと○秒で自動的に接続します。」という画面が表示されたときに、操作をおこなわなかった場合、一定時間後にPCリモーターからの接続を受け付けます。
- 「PCリモーターからの接続を受け付けますか」という画面を表示する必要がない場合にはPCリモーターサーバの設定を変更してください。

参照

接続許可確認の設定について→PART5の「設定を変更する」-「PCリモーターサーバの設定を変更する」(p.144)

PART 4 リモートスクリーンまたはリモートデスクトップで接続する

「リモートデスクトップ方式」の場合

画面表示について

【Fn】+【F11】を押すことで、画面上部にPCリモーターサーバとの接続状態が一定時間表示(オンスクリーン表示)されます。リモートデスクトップを使用しているときの状態はアイコンで確認できます。

RDP	リモートデスクトップで接続していることを表します。
	無線LAN接続時のシグナルの強さを表します。
	バッテリ残量を表します。
	現在の音量を表します。

本機を操作するときの注意事項

・本機でPCリモーターサーバにリモートデスクトップ接続しているときに、ほかのパソコンなどからPCリモーターサーバにリモートデスクトップ接続した場合、本機のリモートデスクトップ接続は切断されます。
・スクリーンセーバの設定を有効にしている場合、リモートデスクトップ接続中は、スクリーンセーバが動作せずに、ログイン入力画面が表示されます。
・リモートデスクトップで接続中は、一部アプリケーションが動作できない場合があります。
・マイク機能は使用できません。
・PCリモーターサーバとの接続終了後に、PCリモーターサーバをスリープまたは休止状態にさせるには、Windowsの電源設定で一定時間経過後にスリープまたは休止状態になるように設定してください。
・ご使用の環境、またはネットワークの環境によっては、操作反応の遅延が起こります。
・PCリモーターサーバのOSがWindows Vista Ultimate/Businessの場合、リモートデスクトップを終了する際には必ずログオフをしてください。ログオフをしない場合は、リモートスクリーン方式に切り替えて接続することができません。

・PCリモーターサーバのOSがWindows XP Professionalの場合、リモートデスクトップ方式で接続した後に、リモートスクリーン方式に切り替えて接続することはできません。そのため手動接続でどちらか一方の方式でのご利用をおすすめします。自動接続をご利用になる場合は、プロファイルの設定をどちらかの一方の方式に統一してご利用ください。
・動画や音楽の再生が正常にできない可能性があります。
・アプリケーションによっては、正常に動作しない場合があります。また、解像度や色数を固定するアプリケーションなどは、起動しない場合があります。
・HSDPA接続の場合、ネットワークの遅延が大きいため、操作性が悪くなったり、音声の遅延が発生したりすることがあります。

PCリモーターサーバを操作するときの注意事項

・本機がPCリモーターサーバにリモートデスクトップ接続をする場合、リモートスクリーン接続する場合と異なり、PCリモーターサーバ上に確認のメッセージは表示されません。
・本機でPCリモーターサーバにリモートデスクトップ接続している場合、PCリモーターサーバのディスプレイにはユーザー切り換えの画面が表示されます。PCリモーターサーバ上でログオンをおこなうと、本機のリモートデスクトップ接続は切断されます。

「リモートデスクトップ」の終了

「リモートデスクトップ」を終了する場合は、次の方法があります。

■【Fn】+【Esc】を押す

セーフコネクトの接続が維持されたままホームメニューに戻ります。
PCリモーターサーバはユーザー切り替えの画面になります。

■「スタート」-「×」をクリックする

セーフコネクトの接続が維持されたままホームメニューに戻ります。
PCリモーターサーバはユーザー切り替えの画面になります。

■「スタート」-「ログオフ」をクリックする

セーフコネクトの接続が維持されたままホームメニューに戻ります。
PCリモーターサーバはログオン画面になります。

リモートデスクトップから接続した状態でスリープまたは休止の操作をおこなわないでください。PCリモーターサーバをスリープまたは休止状態にさせるには、PCリモーターサーバのWindowsの電源設定で一定時間経過後にスリープまたは休止状態になるように設定してください。

ファイルを転送する

ファイルを転送する場合も、接続方法は、「リモートスクリーン」を使うときと同様です。

参照

接続方法について→このPARTの「PCリモーターサーバに接続する」(p.107)

ファイル転送機能について

PCリモーターサーバにあるデータを本機に挿入した外部メディアにダウンロードして使うことができます。また本機に挿入した外部メディアのデータをPCリモーターサーバにアップロードできます。

チェック

ファイル転送で使用するWindowsのユーザーにはパスワードを設定してください。パスワードを設定していないユーザーでは、ファイル転送機能でログオンできません。

参照

対応しているメディアについて→PART6「本機に取り付ける」の各メディアのページ

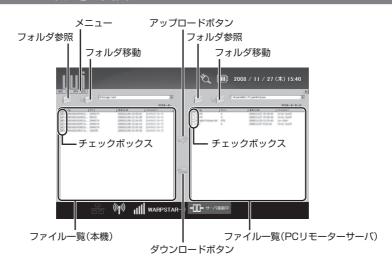
ファイル転送をする

ファイル転送をするには「ファイル転送」を起動します。

1 外部メディアを取り付ける

2 「ホームメニュー」で「ファイル転送」をクリックする

本機がPCリモーターサーバに接続されていない場合は、PCリモーターサーバへの接続が開始されます。

参照

PCリモーターサーバに接続する→このPARTの「PCリモーターサーバに接続する」(p.107)

3 セーフコネクト接続画面が表示されたら、接続用パスワードを入力し、「OK」をクリックする

4 ファイル転送が起動し、Windows認証画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックする

「ファイル転送」の画面

◆メニュー

「ファイル転送」の機能を設定するメニューです。

・接続

ログオンやログオフ、「ファイル転送」の終了ができます。

・表示
ファイル一覧の表示形式の変更やファイルのソートができます。

・操作
ファイルのアップロードやダウンロード、フォルダの作成、ファイルやフォルダの削除や名前変更などができます。
ファイル名やフォルダ名の変更は、反転表示されているものが対象になります(チェックボックスでチェックされているものではありません)。
アップロード、ダウンロード、削除の場合は、チェックボックスでチェックされているものが対象になります(反転表示されているものではありません)。

・設定
外部メディアの保存についての設定ができます。

◆フォルダ移動
上位のフォルダへ移動するときにクリックします。

◆フォルダ参照
選択するファイルのフォルダを参照するときにクリックします。

◆ファイル一覧
フォルダ内のファイルの一覧です。

◆チェックボックス
選択したファイルにチェックが入ります。

◆アップロードボタン(本機→PCリモーターサーバ)
チェックしたファイルを本機からPCリモーターサーバへアップロードします。

◆ダウンロードボタン(PCリモーターサーバ→本機)
チェックしたファイルをPCリモーターサーバから本機へダウンロードします。

本機からPCリモーターサーバへデータを転送する(アップロード)

1 外部メディアを取り付ける

2 「ファイル転送」のメイン画面を表示させる
SDメモリーカード以外のメディアから転送したい場合には、「フォルダ参照」から使用したいメディアのフォルダを選択してください。

3 ファイル一覧(本機)の転送したいデータにチェックを入れてアップロードボタンをクリックする

PCリモーターサーバから本機へデータを転送する(ダウンロード)

1 外部メディアを取り付ける

2 「ファイル転送」のメイン画面を表示させる

SDメモリーカード以外のメディアに転送したい場合には、「フォルダ参照」から使用したいメディアのフォルダを選択してください。

3 ファイル一覧(PCリモーターサーバ)の転送したいデータにチェックを入れてダウンロードボタンをクリックする

「ファイル転送」の設定をする

「ファイル転送」では、「設定」メニューから転送時の設定ができます。

ファイル転送中にスリープ状態にならないようにするためには、「ファイル転送設定」の「電源オフ移行時にファイル転送を継続する」にチェックを入れてください。チェックされている状態で、タイマ設定によるスリープ状態への移行が発生した場合は、ファイル転送が終了した時点でスリープ状態になります。なお10ファイルを転送中であれば、10ファイル転送完了後にスリープ状態に移行します。また、電源スイッチを押してスリープ状態にする設定の場合も、この設定に従います。

設定できる項目→PART5の「設定を変更する」-「本機の設定を変更する」(p.138)

「ファイル転送」を終了する

画面右上の☒をクリックするか、【Fn】+【Esc】を押すと、「ファイル転送」が終了します。

- 終了時はセーフコネクトの接続が維持されたままホームメニューに戻ります。
- 画面左上のメニューから「接続」-「終了」を選択して終了することもできます。

PART

5

設定する

設定を変更する

「PCリモーター初期設定」で設定した内容を含め、本機や接続するPCリモーターサーバの設定、時刻などを変更することができます。PCリモーターサーバの設定の変更は「PCリモーターサーバ設定」からおこないます。

本機の設定を変更する

本機の設定を変更するには「設定」からおこないます。

1 「ホームメニュー」を表示させる

2 「設定」をクリックする

「設定」メニューが表示されます。

3 設定が終了したら「OK」をクリックする

設定できる項目

■ PCリモーター登録設定

区分	項目		説明
セーフコネクト設定	PCリモーターサーバのコンピュータ名		PCリモーターサーバのコンピュータ名が表示されます。設定はできません。初期設定が完了していない場合は空欄で表示され、初期設定完了後表示されます。
	PCリモーター名		PCリモーター名が表示されます。設定はできません。
	接続用パスワード変更		セーフコネクトの接続用パスワードを変更します。初期設定が完了していない場合は接続用パスワード変更はできません。 メモ パスワードの変更は、PCリモーターサーバと本機とが同一ルータでネットワークにつながっている場合のみ可能です。
メール設定	メールアドレス		セーフコネクト接続に使用するメールアドレスを設定します。
	SMTPサーバ		SMTPサーバのIPアドレスまたはホスト名を設定します。
	ポート番号		SMTPサーバのポート番号を設定します。
	POPサーバ		POPサーバのIPアドレスまたはホスト名を設定します。
	ポート番号		POPサーバのポート番号を設定します。
	POPアカウント		POPサーバにアクセスするアカウント名を設定します。
	POPパスワード		POPサーバにアクセスするアカウント名のパスワードを設定します。
	メール送信時に認証機能を使用する		メール送信時に認証機能を使用する場合はチェックを入れます。 宅外から接続するときに使用するISPと、SMTPサーバを提供しているISPが異なる場合は、一般的にSMTP認証(SMTP Auth)を使用しないとメール送信ができません。
		SMTP認証を使用する	SMTP認証(SMTP Auth)をおこなう場合はチェックを入れます。
		SMTP認証アカウント	SMTP認証(SMTP Auth)のアカウント名を設定します。
		SMTP認証パスワード	SMTP認証(SMTP Auth)で使用するパスワードを設定します。
		POP before SMTPを使用する	POP before SMTP認証をおこなう場合はチェックを入れます。
	APOPを使用する		APOPでメール受信をする場合はチェックを入れます。

■ リモートスクリーン設定

リモートスクリーン設定	画質/動き設定	リモートスクリーン接続時のPCリモーターの画質を設定します。
	Movieモード時のバッファサイズ	Movieモード時のバッファのサイズを設定します。
	マイク入力設定	マイク入力を使用する場合は、チェックを入れ、ボリュームを設定します。
	電源オン時の自動起動	「起動する」を選ぶと、PCリモーターの電源をオンにしたときに自動でリモートスクリーン機能で接続します。
ターゲットポインタ設定	ターゲットポインタを使用する	ターゲットポインタを使用する場合、チェックを入れ、次の項目を設定します。
	形状	ターゲットポインタの形状を3つの中から選択します。
	大きさ	ターゲットポインタの大きさを3つの中から選択します。
	色	ターゲットポインタの色を5色の中から選択します。

■ リモートデスクトップ設定

画面	色	リモートデスクトップ接続時に表示される画面の色を設定します。
エクスペリエンス	パフォーマンス	リモートデスクトップ接続時の接続速度や表示に関する設定をおこないます。

■ ファイル転送設定

ファイル転送設定	初期フォルダ	「ファイル転送」を起動したときに表示されるフォルダを設定します。「参照」をクリックして設定することもできます。設定する際は、ファイル転送に使用する外部メディアを取り付けてください。
	ファイル上書き	転送先に同じ名前のファイルがあったときの動作を設定します。
	電源オフ移行時にファイル転送を継続する	チェックを入れると、ファイル転送をしているときに電源オフに移行しても、ファイル転送を継続します。ファイル転送が完了した後で、接続を切断し電源オフにします。

■ 接続設定

接続プロファイル設定	自動接続	「ON」にすると、「自動認証する」にチェックが入っている接続プロファイルを優先度の高い順に使用して、自動的に接続を試みます。
	優先度	選択した接続プロファイルの優先度を設定します。
	次の項目を設定する場合は、「追加」または 「変更」をクリックしてください。	
	接続先	接続先を選択します。手動で設定する場合は、ユーザ指定を選択します。
	プロファイル名	接続先の設定を識別するための名称を設定します。
	ネットワーク名(SSID)	ネットワーク名(SSID)を入力します。
	設定	ネットワーク名(SSID)のセキュリティを設定します。
	ネットワーク名(SSID)	ネットワーク名(SSID)が表示されます。
	セキュリティの種類	セキュリティの種類を選択します。
	暗号化の種類	暗号化の種類を選択します。
	キーインデックス	キーインデックスを選択します。
	セキュリティキーまたはパスフレーズ	セキュリティキーまたはパスフレーズを設定します。
	画面転送方式	画面転送方式を選択します。リモートスクリーンかリモートデスクトップかを選択します。
	認証方式	認証方式を選択します。
	サービス名	Mzoneを利用する場合、契約内容にしたがってサービス名を選択します。
	ユーザID	公衆無線LANアクセスポイント使用時の「ユーザID@ドメイン名(ログインID@ドメイン名)」を入力します (プロバイダによってはユーザIDのみ入力の場合があります。詳しくはプロバイダのホームページやプロバイダから送られてきた書類などを参考にしてください)。 なお、接続先がMzoneのmopera Uサービスご利用の場合は、「-mopera@docomo」の前を入力します。
	パスワード	パスワードを入力します。
	回線速度	接続時の回線速度を設定します。
	自動認証する	チェックを入れると、この接続プロファイルを使って接続するときに、設定した情報を使用して自動認証します。

デバイス設定	PCリモーターのネットワークデバイスが表示されます。次の項目を設定する場合は、設定したいネットワークデバイスを選択し、「設定」をクリックしてください。	
	IPアドレスを自動的に取得する	IPアドレスの取得方法を設定します。チェックが入っていると、次の項目には現在取得している値が表示されます。次の項目を設定する場合は、チェックを外してください。
	IPアドレス	IPアドレスを設定／表示します。
	サブネットマスク	サブネットマスクを設定／表示します。
	デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定／表示します。
	DNSサーバのアドレスを自動的に取得する	DNSサーバのアドレス取得方法を設定します。次の項目を設定する場合、チェックを外してください。
	優先DNSサーバ	優先DNSサーバ(プライマリDNSサーバ)があれば設定します。
	代替DNSサーバ	代替DNSサーバ(セカンダリDNSサーバ)があれば設定します。
接続設定	プロキシサーバ	プロキシサーバを使用するか選択します。次の項目を設定する場合は、「使用する」を選択してください。初期状態では「自動検出する（推奨）」が選択されています。
	アドレス	プロキシサーバのIPアドレスまたはホスト名を設定します。
	ポート番号	プロキシサーバのポート番号を設定します。
	サーバ接続完了時に通知音を鳴らす	サーバ接続完了時に通知音を鳴らす場合、チェックを入れます。

ネットワークの状況によっては、自動接続できない場合があります。この場合は手動で接続してください。

■ システム設定

システム設定	輝度	液晶ディスプレイの輝度を設定します。
	パワーマネジメント	電源設定は、次の３つの項目があります。設定タブを選択すると設定できます。
	状態をユーザーアイドルに変更	システムの状態をユーザーアイドル(省電力モードのひとつ)に変更するまでの時間を設定します。 「なし」を設定するとユーザーアイドルに変更しません。
	状態をシステムアイドルに変更	ユーザーアイドルに変更した後、システムアイドルに変更するまでの時間を設定します。 システムアイドルに変更すると、バックライトの輝度を落とします。 「なし」を設定するとシステムアイドルに変更しません。
	状態をサスペンドに変更	システムアイドルに変更した後、電源オフにするまでの時間を設定します。 「なし」を設定すると電源オフにしません。
	日付･時刻設定	日付と時刻を設定します。初期設定時には、PCリモーターサーバに接続したときに自動で取得されます。
	ボリューム＆サウンド設定	ボリュームとサウンドの設定をします。
	キーボード設定	キー入力のスピードなどを設定します。
	マウス設定	マウスの設定をおこないます。
	パスワード設定	システム起動時にパスワードを使用するかを設定します。
	スティック型ポインタ設定	スティック型ポインタの感度の調整や動作の設定をおこないます。
システム情報	PCリモーターバージョン	バージョン情報が表示されます。
	MACアドレス	MACアドレス情報が表示されます。
	著作権	本機の著作権、商標の情報が表示されます。

■ メンテナンス

PCリモーター	アップデート	本機のシステムをアップデートします。
	PCリモーター初期設定	初期設定のウィザードをやりなおします。 初期設定を一度も実施していない状態では選択できません。
PCリモーターサーバ	リモート再起動	PCリモーターサーバを再起動します。PCリモーターサーバを使用中のユーザーが再起動を拒否した場合は、再起動されません。

PCリモーターサーバの設定を変更する

PCリモーターサーバの設定を変更するには、PCリモーターサーバで「PCリモーターサーバ設定」を起動しておこないます。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「PCリモーター」-「PCリモーターサーバ設定」をクリックする

PCリモーターを1台も登録していない場合、「PCリモーターサーバ設定」には「システム設定」と「メンテナンス」の2項目しか表示されません。

設定できる項目

■ ネットワーク設定

ネットワーク設定	変更	「コントロールパネル」のネットワーク設定を呼び出します。
	高度な設定	ネットワークの高度な設定をします。
	プロキシサーバ	プロキシサーバを利用するか選択します。「使用する」を選択した場合、アドレスとポートを入力する必要があります。初期状態では「自動検出する(推奨)」が選択されています。
	セーフコネクト通信ポート設定	セーフコネクト通信に使用するポート設定方法を選択できます。「手動設定」を選択した場合、ルータのポートフォワード(ポートマッピング)設定の変更が必要です。初期状態では、「自動設定(推奨)」が選択されています。
	リモートスクリーンポート設定	リモートスクリーンに使用するポート設定方法を選択できます。「手動設定」を選択した場合、ルータのポートフォワード(ポートマッピング)設定の変更が必要です。初期状態では、「自動設定(推奨)」が選択されています。
	サーバIPアドレス設定(WAN側グローバルIPアドレス)	サーバ側IPアドレスの設定方法を選択できます。「手動設定」を選択した場合、「セーフコネクト通信ポート設定」、「リモートスクリーンポート設定」は「手動設定」しか選択できなくなります。また、「リモートパワーオン機能」が動作しなくなります。設定を変更した場合は、PCリモーター初期設定をもう一度おこなってください。初期状態では、「自動設定(推奨)」が選択されています。
	セーフコネクト接続処理の高速化	チェックを入れると、セーフコネクトで使用するポート番号宛の通信を常にPCリモーターサーバへ転送することで、セーフコネクト接続を高速化します。初期状態では、チェックが入り有効になっています。

■ PCリモーター登録設定

メール設定	メールアドレス	セーフコネクト接続に使用するメールアドレスを設定します。
	SMTPサーバ	SMTPサーバのIPアドレスまたはホスト名を設定します。
	ポート番号	SMTPサーバのポート番号を設定します。
	POPサーバ	POPサーバのIPアドレスまたはホスト名を設定します。
	ポート番号	POPサーバのポート番号を設定します。
	POPアカウント	POPサーバにアクセスするアカウント名を設定します。
	POPパスワード	POPサーバにアクセスするアカウント名のパスワードを設定します。
	メール送信時に認証機能を使用する	メール送信時に認証機能を使用する場合はチェックを入れます。 宅外から接続するときに使用するISPと、SMTPサーバを提供しているISPが異なる場合は、一般的にSMTP認証(SMTP Auth)を使用しないとメール送信ができません。
	SMTP認証を使用する	SMTP認証(SMTP Auth)をおこなう場合はチェックを入れます。
	SMTP認証アカウント	SMTP認証(SMTP Auth)のアカウント名を設定します。
	SMTP認証パスワード	SMTP認証(SMTP Auth)で使用するパスワードを設定します。
	POP before SMTPを使用する	POP before SMTP認証をおこなう場合はチェックを入れます。
	APOPを使用する	APOP認証をおこなう場合はチェックを入れます。
	設定取り込みボタン	Outlook 2007やWindowsメールの設定を取り込むときクリックします。 「POPパスワード」および「SMTP認証パスワード」は取り込むことができません。 Windows XPの場合、Windowsメールの設定を取り込むことができません。
	メール送受信テスト	メールの送受信テストをおこないます。
PCリモーター登録設定		PCリモーターとの接続状態を表示します。 最終接続日時には、最後に宅外から接続した日時が表示されます。 セーフコネクトの接続用パスワードを設定したり、登録済みのPCリモーターの登録を解除したりできます。PCリモーターサーバでパスワードを変更したときは、「セーフコネクト接続」でパスワードを入力するときに「接続用パスワード変更後、初めて接続する」を☑にしてください。
PCリモーターサーバボード設定※		PCリモーターサーバボードのIPアドレスを表示します。

※:ホームサーバPC(Lui SX)では表示されません。

■ リモートスクリーン設定

接続許可確認	PCリモーターからリモートスクリーン接続したときに、接続要求の画面を表示するか設定します。「接続要求許可ダイアログを表示する」のチェックを外すと、接続要求許可ダイアログが表示されません。
サービス	PCリモーターサーバを起動したときに「リモートスクリーン」のサービスを自動起動するかを設定します。サービスを起動/停止する場合は「起動」または「停止」をクリックします。

■ リモートデスクトップ設定

リモートデスクトップ設定	PCリモーターサーバのOSがWindows Vista Ultimate SP1/Vista Business SP1/XP Professional SP3のいずれかの場合のみ表示されます。 リモートデスクトップ方式に対応しているOS名が表示されます。 リモートデスクトップによる接続をおこなう場合、リモートデスクトップ設定ボタンをクリックします。システムのプロパティ画面が表示されるので、リモートデスクトップの接続を許可する設定と許可ユーザの登録をおこないます。

■ ファイル転送設定

サービス	PCリモーターサーバを起動したときに「ファイル転送」のサービスを自動起動するかを設定します。サービスを起動/停止する場合は「起動」または「停止」をクリックします。

■ 接続設定

自動ログオン	自動ログオンユーザ	自動ログオンするユーザを設定します。
	パスワード	自動ログオンユーザのパスワードを設定します。
	自動ログオンテスト	「テスト」を押して、自動ログオンの設定を確認します。
	自動ログオンテスト結果	自動ログオンテストの結果を表示します。

■ システム設定

パワーマネジメント	「パワーマネジメント設定」をクリックすると、「コントロールパネル」の「電源オプション」が呼び出されます。
バージョン情報	「PCリモーターサーバソフト」、「PCリモーター初期設定」、「PCリモーター設定」、「セーフコネクト」のバージョン情報が表示されます。

■ メンテナンス

<table>
<tr><td>PCリモーター初期設定</td><td>初期設定のウィザードを起動します。すでに別のPCリモーターがPCリモーターサーバに設定されている場合、2台目以降のPCリモーターを登録するときに使用します。複数台同時にPCリモーターサーバに接続することはできません。

メモ
PCリモーターサーバに登録が可能なPCリモーターは8台です。</td></tr>
</table>

「PCリモーター初期設定」を手動で開始する

本機を使い始める際におこなった「PCリモーター初期設定」をやりなおして、接続設定を変更する場合は、ホームメニューの「設定」からおこないます。

1 ホームメニューで「設定」をクリックする

2 左欄の「メンテナンス」クリックする

3 「PCリモーター」タブで、「PCリモーター初期設定」をクリックする

初期設定が始まります。手順については、PART2の「PCリモーター /PCリモーターサーバの初期設定」(p.60)をご覧ください。

アップデートを実行する

アップデートモジュールを入手する

本機のドライバやソフトなどがアップデートされた場合、アップデートモジュールが提供されます。
アップデートモジュールは、SDメモリーカード経由で実行します。そのため、まずPCリモーターサーバでアップデートモジュールを「121ware.com」からダウンロードし、SDメモリーカードに保存します。

1 PCリモーターサーバで「121ware.com」の「サービス＆サポート」-「ダウンロード」にアクセスする

2 アップデートモジュールをダウンロードする

3 SDメモリーカードに保存する

アップデートモジュールは、SDメモリーカードのルートディレクトリに保存してください。フォルダ内には保存しないでください。

アップデートを実行する

アップデートを実行する前に、必ず、ACアダプタを取り付けておいてください。

1 アップデートモジュールを保存したSDメモリーカードを本機にセットする

2 ホームメニューを表示させる

3 「設定」をクリックする

4 「メンテナンス」-「アップデート」をクリックする
SDメモリーカード内のファイル一覧が表示されます。

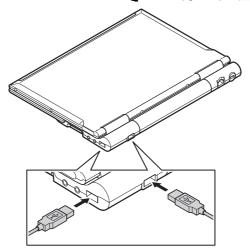
5 ダウンロードしたアップデートモジュールを選択して実行する

アップデート方法の詳細→PCリモーターサーバで「121ware.com」の「サービス＆サポート」-「ダウンロード」-「Luiシリーズのアップデート方法について」にアクセスしてください。

PART

6

本機に取り付ける

USBコネクタ

USBコネクタについて

USBコネクタには、USBメモリーやUSBマウスなどを取り付けて使用できます。
本機のUSBコネクタは、USB2.0規格に準拠したUSB機器に対応しています。
USB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
動作を確認したUSB機器については、次のホームページをご覧ください。
http://121ware.com/lui/

USB対応機器の取り付け/取り外し

取り付け

USBケーブルのプラグを、プラグの ⭠ が上を向くように差し込みます。

取り外し

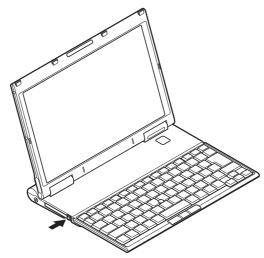
プラグをまっすぐに抜いて取り外します。

USB対応機器を使用するときの注意

・ USBコネクタの抜き差しは3秒以上の間隔をおいておこなってください。
・ USBデバイスが正常に認識されていないときは、一度USBコネクタからプラグを抜いて、もう一度差し込んでください。それでも認識しない場合は、ほかのUSBコネクタに差し込んでみてください。
・ USBコネクタは電源オンの状態で抜き差ししてください。電源オフ状態のときや電源オフ状態に移行中、復帰中はUSBコネクタの抜き差しをしないでください。
・ USBコネクタには、USB2.0対応機器だけでなく、USB1.1対応機器も取り付けられます。ただし、USB2.0で動作させるには、USB2.0対応機器を取り付ける必要があります。
・ すべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。
・ USBハブには対応していません。
・ プリンタやスキャナを本機のUSBコネクタに接続しても印刷やスキャンはできません。
・ 対応機器については次のホームページをご覧ください。
  http://121ware.com/lui/

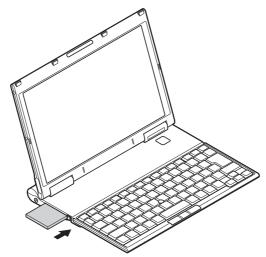
コンパクトフラッシュカードスロット

コンパクトフラッシュカードスロットについて

コンパクトフラッシュカードスロットには、コンパクトフラッシュメモリーカードを取り付けて使用できます。
本機では、コンパクトフラッシュ型のHSDPA通信カード(D01NX、D01NX Ⅱ)を使用できます。ご利用に際しては、イー･モバイル社とのサービス利用契約が必要です。
そのほか動作を確認したコンパクトフラッシュメモリーカードについては、次のホームページをご覧ください。
http://121ware.com/lui/

コンパクトフラッシュカードの取り付け/取り外し

ダミーカードの取り外し

はじめてご使用になるときは、コンパクトフラッシュカードスロットにダミーカードが取り付けられています。取り外してから使用してください。

1 コンパクトフラッシュカードイジェクトボタンを軽く押す

ボタンが出てきます。

2 もう一度、コンパクトフラッシュカードイジェクトボタンを押し込む

ダミーカードが少し出てきます。

3 出てきたダミーカードを、まっすぐに引き抜く

取り付け

1 コンパクトフラッシュカードの表面が上を向くように差し込む

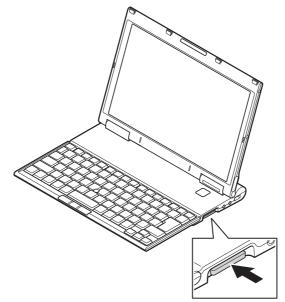
取り外し

このPARTの「ダミーカードの取り外し」(p.154)と同じ方法でコンパクトフラッシュカードを取り外します。
コンパクトフラッシュカードを取り外した後は、コンパクトフラッシュカードの取り付けと同じ方法でダミーカードをコンパクトフラッシュカードスロットに取り付けてください。

コンパクトフラッシュカードを使用するときの注意

- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所ではコンパクトフラッシュカードを使わないでください。
- コンパクトフラッシュカードの取り扱いについては、コンパクトフラッシュカードに添付のマニュアルの指示にしたがってください。
- 本機やコンパクトフラッシュカードの不具合により、データの破損、消去が起きた場合、データの内容の保証はいたしかねます。
- 大切なファイルはコピーして、バックアップを取ることをおすすめします。
- データの保存中に電源オフ状態にしないでください。データが破損したり誤動作の原因になります。
- すべてのコンパクトフラッシュカードの動作を保証するものではありません。
- コンパクトフラッシュカードの端子面が汚れていると、コンパクトフラッシュカードを認識しなかったり、データの読み込み、書き出しができないことがあります。端子面が汚れた場合は、コンパクトフラッシュカードに添付のマニュアルをご覧になり、処置してください。

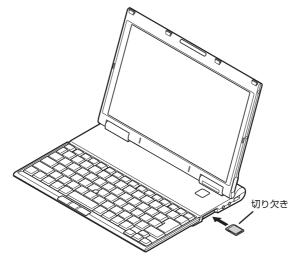
SDメモリーカードスロット

SDメモリーカードスロットについて

SDメモリーカードスロットには、SDメモリーカードを取り付けて使用できます。
動作を確認したSDメモリーカードについては、次のホームページをご覧ください。
http://121ware.com/lui/

SDメモリーカードの取り付け/取り外し

ダミーカードの取り外し

はじめてご使用になるときは、SDメモリーカードスロットにダミーカードが取り付けられています。取り外してから使用してください。

1 ダミーカードを軽く押す

ダミーカードが少し出てきます。

2 出てきたダミーカードを、まっすぐに引き抜く

取り付け

1 SDメモリーカードの表面が上を向くように差し込む

取り外し

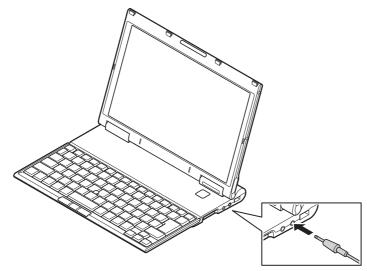
このPARTの「ダミーカードの取り外し」(p.157)と同じ方法でSDメモリーカードを取り外します。

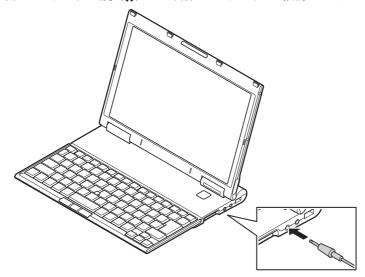
SDメモリーカードを取り外した後は、SDメモリーカードの取り付けと同じ方法でダミーカードをSDメモリーカードスロットに取り付けてください。

SDメモリーカードを使用するときの注意

- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所ではSDメモリーカードを使わないでください。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、SDメモリーカードに添付のマニュアルの指示にしたがってください。
- 本機やSDメモリーカードの不具合により、データの破損、消去が起きた場合、データの内容の保証はいたしかねます。
- 大切なファイルはコピーして、バックアップを取ることをおすすめします。
- データの保存中に電源オフ状態にしないでください。データが破損したり誤動作の原因になります。
- すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- SDメモリーカードの端子面が汚れていると、SDメモリーカードを認識しなかったり、データの読み込み、書き出しができないことがあります。端子面が汚れた場合は、SDメモリーカードに添付のマニュアルをご覧になり、処置してください。
- フォーマットが必要な場合は、デジタルカメラやSD Audio Playerなどの「SDメモリーカード」専用機器か、SD規格対応のソフトでフォーマットをおこなってください。
- microSDカードをご使用の際、miniSDサイズのアダプタに装着し、さらにSDサイズのアダプタに装着しての使用は動作保証外となります。
- 2Gバイトを超える容量のSDメモリーカードでの動作は保証していません。
- SDIOには対応していません。
- 「マルチメディアカード(MMC)」は使用できません。
- SDHCメモリーカードには対応していません。
- 著作権保護機能には対応しておりません。
- 裏面に通電性(電気を通す性質)がある金属が使用されているSDメモリーカードや変換アダプタは使用しないでください。本機内部のコネクタと接触し本機やSDメモリーカードの故障の原因になる場合がありますので、ご注意ください。

マイク・ヘッドフォン

本機に、市販のミニプラグ付きマイクロフォンを接続して、リモートスクリーン時にマイク機能を使用できます。PCリモーターサーバ上で（リモートスクリーン時に）音声チャットなどのアプリケーションを利用する場合、アプリケーションのポート設定の変更が必要になることがあります。アプリケーションのマニュアルで確認してください。

マイクをご利用の場合、PART3の「音量の調節」-「マイクを使う」(p.103)のマイク入力の設定が必要です。

- リモートデスクトップ接続中にマイク機能は使用できません。
- HSDPA接続の場合、ネットワークの遅延が大きいため、操作性が悪くなったり音声の遅延が発生することがあります。

マイクを接続する

本機の外部マイク入力端子（🎤）には、市販のミニプラグ付きマイクロフォンを接続できます。

ヘッドフォンを接続する

本機のヘッドフォン端子(🎧)には、市販のヘッドフォンを接続できます。

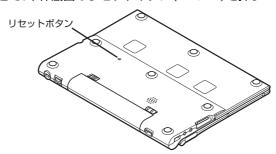
PART

7

トラブル解決

トラブル発生時の対応

ここに掲載されていないQ&Aについては、次のホームページをご覧ください。
http://121ware.com/support/

本機が動かない

本機が明らかに停止している状態になった場合などに、本体底面にある「リセットボタン」を押すと、本機が再起動します。
今までに設定したPCリモーターサーバとの接続設定などはそのまま保持されます。

リセットするときは、有線LANケーブルを抜いてください。

1 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

2 ペン先などで、本体底面のリセットボタン(RESET)を押す

また、PCリモーターサーバ側の再起動もおこなってください。

ルータを交換したり停電やブレーカーが落ちた後には、PCリモーターサーバボード内のマイコンをリセットする必要があります。PCリモーターサーバの電源を抜き、30秒間待った後に電源コードを戻し、再度PCリモーターサーバを起動してください。

電源が入らない

バッテリパックやACアダプタの接続を確認してください

PART1の「バッテリパックの取り付け／取り外し」(p.10)、「ACアダプタの取り付けと充電」(p.13)をご覧になり、バッテリパックやACアダプタが正しく接続されているか、また、本機が充電されているかを確認してください。

システムスイッチをオンにしてください

PART1の「バッテリパックの取り付け／取り外し」(p.10)をご覧になり、システムスイッチがオンになっているか確認してください。オフになっている場合はオンにしてください。

バッテリは十分に充電されていますか？

電源ランプ( )がオレンジや赤の場合はバッテリ残量が少なくなっています。また、ホームメニューの状態表示部(上)に表示されるアイコンでも確認できます。PART1の「ACアダプタの取り付けと充電」(p.13)をご覧になり、ACアダプタを接続してバッテリを充電してください。

電源スイッチを約1秒間押しましたか？

電源を入れるときは、電源スイッチを約1秒間押して、電源スイッチから手を離してください。

初期設定ができない

ネットワーク環境を確認してください

・初期設定時または宅内利用時に、PCリモーターサーバと接続できるネットワーク環境(有線LANまたは無線LAN(IEEE802.11b/g))が必要です。なお、対応している無線LANのチャンネルは1 ～ 13chまでです。
・ホームサーバPC(Lui SX)の場合は、LANケーブルを接続してから主電源(Main Power)を入れてください。

無線LANの電源がオンになっていますか？

無線LANで接続する場合、無線LANランプ( )が点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、【Fn】+【F2】を押して無線LANの電源をオンにしてください。

設定内容を確認してください

初期設定の手順中に入力する無線LANの接続設定や電子メールの設定などが正しいかどうか確認してください。

PART 7 トラブル解決

PCリモーターサーバを再起動してください

PCリモーターサーバをシャットダウンし、電源コードを抜いて30秒間待ってから電源コードを差して起動してください。

PCリモーターサーバとの通信が切断されてしまう

PCリモーターサーバの解像度がサポートされているものになっていますか？

サポートされているPCリモーターサーバの解像度は1280×768、1024×768もしくは800×600です。「リモートスクリーン」接続中に、これ以外の解像度に変更したり、解像度を切り換えるソフトなどを使用すると、通信が切断されます。切断されたときは再度接続をおこなってください。その際、起動しているソフトの影響によっては接続できない場合があります。

電波が弱くなっていませんか？

無線LANで接続している場合、電波が弱い場所では通信が切断されてしまうことがあります。電波の届く場所に移動してください。

ケーブルが抜けていませんか？

有線LANで接続している場合、LANケーブルが抜けていないか確認してください。

リフレッシュレートや色数、解像度など画面モードが切り換わるソフト(ゲームなど)を使用していませんか？

画面モードが切り換わるゲームなどのソフトを起動すると通信が切断されることがあります。切断されたときは再度接続をおこなってください。

起動したソフトの影響で接続がうまくいかない場合は、「リモート再起動」機能を使ってPCリモーターサーバを再起動することでソフトを強制的に終了させることができます。「リモート再起動」については、PART5の「設定を変更する」-「本機の設定を変更する」-「設定できる項目」-「メンテナンス」(p.143)をご覧ください。

バージョンを確認してください

PCリモーターサーバとPCリモーターの組み合わせによっては、初期設定ができなかったり、つながらなかったりすることがあります。121wareなどからアップデートモジュールをダウンロードし適用した場合、PCリモーターサーバとPCリモーターサーバボード、PCリモーターのアップデートをセットでおこなう記載がある場合、必ずその指示にしたがってください。

ターゲットポインタとPC画面のマウスカーソルがずれる

PCリモーターサーバ接続中に解像度を変更すると、お使いのパソコンによっては、ターゲットポインタとマウスカーソルがずれたり、パソコン画面の一部が表示されなくなることがあります。

PCリモーターサーバとの接続用パスワードを忘れてしまった

ご購入時の状態に戻してください

接続用パスワードを忘れてしまった場合は、このPARTの「設定を初期化する」(p.172)をご覧になり、本機をご購入時の状態に戻してください。その後、PART2の「PCリモーター /PCリモーターサーバの初期設定」(p.60)をご覧になり、再度初期設定をして、新しいパスワードを設定してください。

リモートスクリーン使用中に画面がかくつく、画質が悪い、音が出ない

お使いの環境に左右される場合があります

お使いのネットワーク環境や電波の状態により、画面が動かなくなったり、カクツキ、操作反応の遅延、音の途切れが発生する場合があります。

PCモードとMovieモードを切り換えてください

PCモードは画像の鮮明さと本機を操作するときのレスポンスを重視するモードです。Movieモードは動画のなめらかさを重視したり、音が途切れないようにするモードです。利用場面によってモードを切り換えてください。詳しくは、PART4の「画質の調節」(p.121)をご覧ください。

画質を調節してください

画質を優先させるか、画像の動きを優先させるかを調節することができます。調節のしかたは、PART4の「画質の調節」(p.121)をご覧ください。

音が出ない

ホームサーバPC(Lui SX)で接続している場合、本機で音声を聞くためにはホームサーバPC(Lui SX)側で設定をする必要があります。設定の方法は、PART4の「PCリモーターサーバへの接続(宅内)」(p.108)または「PCリモーターサーバへの接続(宅外)」(p.112)をご覧ください。

ダブルクリックができない

ホームメニューの「設定」で、キーボードの設定やマウスの設定をおこなうことができます。PART5の「設定を変更する」-「本機の設定を変更する」(p.138)をご覧ください。

セーフコネクト接続画面でエラーになる

次のチェックポイントを確認してください

- **メール設定が正しくない**
  メールの設定が正しくないと、接続できません。メールの設定を再確認してください(メールアドレス、SMTPサーバ、POP3サーバ、SMTP認証など)

- **グローバルIPアドレスが取得できない**
  PCリモーターサーバ側で、グローバルIPアドレスを取得できないと、接続できません。

- **LANケーブルが接続されていない(Lui SXの場合)**
  ホームサーバPC(Lui SX)の場合は、LANケーブルを接続してから主電源(Main Power)を入れてください。

- **ルータがUPnPに対応していない**
  ルータがUPnPに対応していないか、またはUPnP機能がオフになっている場合は接続できません。
  ルータのUPnP機能がオンであるにも関わらずUPnP関連のエラーが出る場合は、ルータを再起動することで改善することがあります。

- **ルータが2段構成になっている**
  ホームネットワーク内に複数のルータが設置されている場合、接続できないことがあります。

- **複数のLANアダプタが動作している**
  - ホームサーバPC(Lui SX)の場合
    本体のLANアダプタのほかに、ほかのLANアダプタ(無線LANなど)が同時にネットワークに接続していると、PCリモーターが接続できない場合があります。無線LANをオフにするなど、ホームサーバPC(Lui SX)が接続しているLANアダプタが1つになるようにしてください。
  - ホームサーバPC(Lui SX)以外の場合
    PCリモーターサーバボードに接続されたLANを除いて、2つ以上のLANアダプタが同時にネットワークに接続していると、PCリモーターが接続できない場合があります(例:PCリモーターサーバボードのLAN、パソコン本体の有線LAN、無線LANの3つの接続がある場合)。無線LANをオフにするなど、PCリモーターサーバボードのLAN以外のLANアダプタが1つになるようにしてください。

・**セキュリティソフトがブロックしている**
PCリモーターサーバのセキュリティソフトがリモートスクリーンの通信をブロックしていると、リモートスクリーンを使用できません。リモートスクリーンの通信を許可するようPCリモーターサーバのセキュリティソフトを設定してください。設定方法は、セキュリティソフトのマニュアルをご覧ください。

・**時計がずれている**
本機の時計が極端にずれていると、接続できません。

プロキシサーバの設定をしてください

インターネットに接続する際、プロキシサーバが必要な場合は、次の手順でプロキシサーバの設定をしてください。

1 「ホームメニュー」で「設定」をクリックする
「設定」メニューが表示されます。

2 左欄の「接続設定」をクリックする

3 「接続設定」で、プロキシサーバの設定をおこなう

PCリモーターサーバを再起動してください。

PCリモーターサーバをシャットダウンし、電源コードを抜いて30秒間待ってから電源コードを差して起動してください。

メモ

上記以外のセーフコネクトに関するQ&Aは、次のホームページのQ&Aをご覧ください。

http://121ware.com/support/

ファイルをダウンロードしている最中にリモートスクリーンで接続すると、ダウンロードが切断される

リモートスクリーンの接続・切断のタイミングで、ほかのすべてのネットワーク接続はいったん切断されます。

リモートスクリーン接続をおこなっても、PCリモーターサーバが自動で起動しない

PCリモーターサーバの電源そのものがつながっていない場合、自動で起動しません。コンセントの接続などをもう一度ご確認ください。また、VALUESTAR R Luiモデルでお使いの場合は、シャットダウン状態からは自動で起動しないため、スリープ/休止状態になっていることを確認してください。
また、PCリモーターサーバの起動に時間がかかり、PCリモーターの接続待ち時間を超えてしまうような場合も接続に失敗することがあります。この場合は、もう一度接続してください。

PCリモーターサーバと接続できない

・リモートスクリーン利用時には画面モードのリフレッシュレート60Hz(59Hz)、色数32bit、ノンインターレース以外になっていると、接続できません。コントロールパネルから画面モードの設定を確認してください。
・DVDディスクがPCリモーターサーバのBD/DVD/CDドライブに挿入されているときは、PCリモーターサーバに接続できません。BD/DVD/CDドライブを確認してください。
・自動ログオン設定で設定していないユーザーでPCリモーターサーバにログオンしている場合は接続できません。
PCリモーターサーバが【Ctrl】+【Alt】+【Del】を押して表示される画面、もしくはパスワード変更画面を表示しているときは接続できません。
・「リモート再起動」でPCリモーターサーバを再起動することができます。
PCリモーターサーバで作業中に「リモート再起動」をおこなった場合は、保存していない作業を失う可能性があります。
・PCリモーターサーバのLANケーブルが抜けていないか確認してください。
・PCリモーターサーバに添付のキーボードもしくは、PS2かUSB接続したJIS配列準拠のキーボード以外を接続された場合、リモートスクリーン機能が正常に動作しない場合があります。PCリモーターサーバに添付されているキーボードもしくは、PS2かUSB接続したJIS配列準拠のキーボードを使用してください。
・ホームサーバPC(Lui SX)以外の場合、PCリモーターサーバとディスプレイとは直接接続しないで、間にPCリモーターサーバボードを介して接続してください。

画面に黒枠が表示される

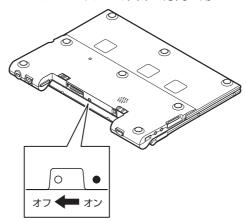
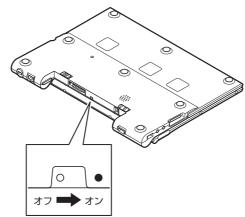
リモートスクリーン接続中に休止状態、スリープ、シャットダウン、またはPCリモーターサーバの解像度を切り換えるソフトを使用すると、お使いのパソコンによっては、全画面表示時の黒枠が大きく表示されることがあります。

リモートデスクトップ方式で接続した後に、リモートスクリーン方式で接続できない

・**PCリモーターサーバのOSがWindows XP Professionalの場合**
リモートデスクトップ方式で接続した後に、リモートスクリーン方式に切り替えて接続することはできません。この場合は、「リモート再起動」により、PCリモーターサーバを再起動させてから接続してください。PCリモーターサーバで作業中に「リモート再起動」をおこなった場合は、保存していない作業を失う可能性があります。
・**PCリモーターサーバのOSがWindows Vista Ultimate/Businessの場合**
リモートデスクトップ方式で接続した後に、リモートスクリーン方式に切り替えて接続するときは、リモートデスクトップを終了する際に必ずログオフをしてください。ログオフしていない場合は、再度リモートデスクトップで接続後、ログオフしてからリモートスクリーン方式で接続してください。

設定を初期化する

本機の設定を初期化するときは、次の手順をおこなってください。

次の手順は、設定を初期化するもので、本機をご購入時の状態に戻したり、ソフトを以前の状態に戻すものではありません。したがって、ご購入後に適用したアップデートモジュールはそのままご利用いただけます（再度適用する必要はありません）。

バッテリパックの取り付け／取り外し方→PART1の「バッテリパックの取り付け／取り外し」

初期化するときは、有線LANケーブルを抜いてください。

1 【Fn】キーを押しながら本機の電源スイッチを電源ランプ()、CAPSロックキーランプ()が点滅するまで押し続ける

2 点滅しているランプが消灯したら、電源コードのプラグをコンセントから抜いて、ACアダプタを取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

4 バッテリパックを取り外す

5 ペン先などでシステムスイッチを矢印の方向に動かしてオフにする

6 電源スイッチを10秒以上押す

7 ペン先などでシステムスイッチを矢印の方向に動かしてオンにする

8 バッテリパックを取り付け、バッテリロックスイッチをロックしてから、ACアダプタを接続する

9 液晶ディスプレイを開き、【Alt】+【Esc】を押しながら電源スイッチを押す

起動画面の下部に青いバーが表示されたら電源スイッチ、【Alt】+【Esc】を押すのをやめ、しばらくすると、次の画面が表示されます。

PART2の「PCリモーター /PCリモーターサーバの初期設定」(p.60)をご覧になり、再度初期設定をしてください。

付　録

本機のお手入れ

日常のお手入れや汚れたときなどの掃除のしかたを説明します。

本体やキーボードには、絶対に水やぬるま湯などを直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

●軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

●汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

電源を切って、電源コードを抜いてから

お手入れの前には、必ず電源を切ってください。電源コードはコンセントから抜いてください。また、バッテリパックも取り外してください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

各部の掃除のしかた

●液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いた布でふいてください。化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。液晶ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽くふいてください。

●本体

やわらかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

●キーボード

やわらかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。ただし付着した汚れの度合いによっては、落ちない場合があります。

●電源コード／ ACアダプタ

電源コードのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にやわらかい布でふいて、掃除してください。

水やぬるま湯を含ませ、よくしぼった布で本体、キーボードなどをふき取る際、水が入らないよう十分注意してください。

アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『NECサービス網一覧表』をご覧ください。

消耗品と有寿命部品について

本機には、消耗品と有寿命部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長期間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容説明	該当品または部品(代表例)
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身でご購入いただき、交換していただくものです。本体の保証期間内であっても有償になります。	CD-ROMディスク、バッテリなど
有寿命部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償になる場合があります。詳しくは、NEC 121コンタクトセンターの修理受付窓口にご相談ください。	液晶ディスプレイ、キーボード、ファン

・ 記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは、「仕様一覧」(p.182)をご覧ください。

・ 有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で1年365日として約5年です。上記期間はあくまでも目安であり、上記期間中に故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。また、長時間連続使用等のご使用状態や、温湿度条件等のご使用環境によっては早期に部品交換が必要となり、製品の保証期間内であっても有償となることがあります。

・ 本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PCリモーター本体、オプション製品については製造打切後6年です。

譲渡、廃棄

本機を他人に譲るとき、廃棄のときの注意事項を説明します。

譲渡するには

チェック

本機には個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。情報を消去する方法については、PART7の「設定を初期化する」(p.172)をご覧ください。

譲渡するお客様へ

本機を第三者に譲渡(売却)する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること(本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください)。

※ 第三者に譲渡(売却)する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイページ(http://121ware.com/my/)の保有商品情報で削除いただくか、または Eメールアドレス webmaster@121ware.com宛にご連絡ください。

付録

譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。
http://121ware.com/my/　にアクセスしてください。

◆はじめて登録するかた

「新規取得」をクリックして登録

◆以前ハガキ、オンライン、FAXなどで登録されたかた

「インターネット以外の方法でご登録済みの方はこちら」をクリックして登録

◆すでにログインIDをお持ちのかた

「ログイン」をクリックして、ログイン後、保有商品情報の「新規･追加登録」で登録

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号
   （本体背面／底部または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）
2. 氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、中古購入された場合はそのご購入先、ご購入日
3. 121wareお客様登録番号
   （以前登録されてすでに「121wareお客様登録番号」をお持ちのかたは、記入をお願いします。）

宛先
〒143-8691 郵便事業株式会社　大森支店私書箱5号
　NEC121ware登録センター係

廃棄するには

本機を廃棄する際は、お客様が使用した設定情報などを消去するため、PART7の「設定を初期化する」(p.172)をご覧になり、初期状態に戻すことを推奨します。
本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品には該当致しません(PCリサイクルには対応しておりません)。本製品をご家庭から廃棄する際、お住まいの自治体によっては廃棄に関する費用をご負担いただく可能性があります。

バッテリパックのリサイクルについて

・リチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。不要になった二次電池は、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。
・二次電池をリサイクルとして排出するまでのご注意
  - 電池パックは分解しないでください。
  - 雨など水にぬれないように保管してください。
  - 炎天下に放置しないでください。
・不要となった二次電池は、持ち込み拠点へお持ちください。詳しくは、NEC環境ホームページ(http://www.nec.co.jp/eco/ja/business/recycle/battery/)をご覧ください。

付録

仕様一覧

型名			RN700/2C
型番			LU-RN7002C
表示機能	内蔵ディスプレイ		10.6型ワイド　TFTカラー液晶
		LCDドット抜けの割合※2	0.00028%以下
	表示色(解像度)	内蔵ディスプレイ	262,144色（1280×768ドット）
サウンド機能	スピーカ		内蔵モノラルスピーカ（0.4W）
通信機能	LAN		100BASE-TX/10BASE-T対応
	ワイヤレスLAN※3		本体内蔵（IEEE802.11b/g準拠）
入力装置	キーボード※4		本体一体型（キーピッチ17mm、キーストローク2.5mm）、JIS標準配列（85キー）、右コントロールキー付き
	ポインティングデバイス		スティック型ポインタ+2ボタン+スクロールボタン (スクロールボタン＋スティック傾けによる上下スクロール機能有り）
外部インターフェイス	USB		コネクタ4ピン×2[USB2.0] （最大供給電流500mA）
	LAN		RJ45コネクタ×1
	サウンド関連	マイク入力※5	ステレオミニジャック×1（マイク入力インピーダンス 15KΩ以上、入力レベル 100mVrms(バイアス電圧 2.5V)※5
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1（ヘッドフォン出力インピーダンス　16～100Ω「推奨32Ω」、出力電力　5mW/32Ω）
	カードスロット	SD	ＳＤメモリーカード※6
		CF	CF+（TypeⅡ）×1（3.3V専用）
外形寸法	本体（突起部除く）		258(W)×199(D)×15.8～23.9(H)mm※7
	バッテリ		約141.5(W)×26.6(D)×21.2(H)mm （突起含まず）
	ACアダプタ		約93.0(W)×42.0(D)×28.0(H)mm
質量	本体(バッテリパック含む)		約649g※8
	バッテリ		約115g
	ACアダプタ		約225g（ウォールマウントプラグと電源コードの質量を除く）
バッテリ駆動時間※9※10			最大約4.6時間

型名		RN700/2C
バッテリ充電時間(電源ON時／ OFF時)※9		約3.5時間／約3.5時間
電源※11		リチウムイオンバッテリ(DC7.2V、Typ.2600mAh※13)またはACアダプタ(AC100 ～ 240V±10%、50/60Hz)※12
消費電力	標準／最大	約5W ／約40W
電波障害対策		VCCI ClassB
温湿度条件		5 ～ 35℃、20 ～ 80%(ただし結露しないこと)
搭載ソフトウェア※1		Internet Explorer® (Windows CE版) ソリティア
主な添付品		ACアダプタ、ウォールマウントプラグ、マニュアル、CD-ROM、スティック型ポインタ用キャップ

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※ 1 :本機はMicrosoft® Windows® CE 5.0を搭載していますがお客様によるソフトウェアの追加はできません。

※ 2 :ISO13406-2の基準にしたがって、副画素(サブピクセル)単位で計算しています。

※ 3 :WEP(64/128bit)対応、WPA-PSK(TKIP/AES)対応。接続機器対象器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況によっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。

※ 4 :キーボードのキー横方向の間隔。キーの中心から隣のキーの中心までの長さ(一部キーピッチが短くなっている部分があります)。

※ 5 :パソコン用マイクとして市販されているコンデンサマイクやヘッドセットを推奨します。

※ 6 :「miniSD/microSDカード」をご利用の場合には、SDカード変換アダプタをご利用ください。「SDHCメモリーカード」、「マルチメディアカード(MMC)」はご利用できません。「SDIOカード」には対応しておりません。著作権保護機能には対応しておりません。

※ 7 :高さ(ゴム足などの突起部除く)に関しては、部分的凹凸があるため数値に幅があります。

※ 8 :CFカードスロット、SDメモリーカードスロットに何も装着していない状態。

※ 9 :バッテリ駆動時間や充電時間は、ご利用状況によって記載時間とは異なる場合がございます。

※10:バッテリ駆動時間は、無線LANでリモートスクリーン接続した状態の駆動時間です。詳しい測定条件は、インターネット(http://121ware.com/lui/)でご案内しています。

※11:PCリモーター本体のバッテリなどに使用する各種電池は消耗品です。

※12:標準添付されている電源コードはAC100V用(日本仕様)です。

※13:公称容量(実使用上でのバッテリパックの容量)を示します。

付録

キー操作一覧

キー操作	機能	説明
【Fn】+【Esc】	ハイブリッド リモートスクリーン/ ファイル転送 終了	ハイブリッドリモートスクリーン/ファイル転送を終了します。 詳しくは、PART4の「「リモートスクリーン」の終了」(p.128)、「「リモートデスクトップ」の終了」(p.132)、「「ファイル転送」を終了する」(p.136)をご覧ください。
【Fn】+【Q】※	画質優先	キーを押すごとにビットレートが向上し、PCリモーターサーバ接続中の画質を優先します。
【Fn】+【W】※	動き優先	キーを押すごとにビットレートが低下し、PCリモーターサーバ接続中の画面の動きを優先します。
【Fn】+【↑】	Page Up	【PgUp】の役割をします。
【Fn】+【↓】	Page Down	【PgDn】の役割をします。
【Fn】+【←】	Home	【Home】の役割をします。
【Fn】+【→】	End	【End】の役割をします。
【Fn】+【F1】	音声のオン/オフ	音声のオン/オフを切り換えます。
【Fn】+【F2】	無線LANの電源の オン/オフ	無線LANの電源のオン/オフを切り換えます。 無線LANの電源をオフにすると電波は出ません。
【Fn】+【F4】※	PCモード	表示をPCモードにします。
【Fn】+【F5】※	Movieモード	表示をMovieモードにします。
【Fn】+【F7】	輝度を下げる	キーを押すごとに、液晶ディスプレイが暗くなります。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる	キーを押すごとに、液晶ディスプレイが明るくなります。
【Fn】+【F9】	音量を下げる	キーを押すごとに、音が小さくなります。
【Fn】+【F10】	音量を上げる	キーを押すごとに、音が大きくなります。
【Fn】+【F11】	オンスクリーン表示	オンスクリーン表示を一定時間表示させます。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割をします。
【Fn】+【INS】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割をします。
【Fn】+【DEL】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割をします。
【Ctrl】+【Fn】+【Pause】	ブレイク	【Break】の役割をします。

※:リモートスクリーン接続中のみ使用できます。

索引

付録

英数字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

修理チェックシート

A欄・故障診断用

修理依頼日　20　　年　　月　　日

ご住所	〒　　－		
フリガナ		電話番号	ご自宅（　　　）　　－
お名前（貴社名）			ＦＡＸ（　　　）　　－
部署名/ご担当者名（法人の場合）		日中の連絡先（お勤め先・携帯電話等）	

（本体）製品型番/型名	LU-	製造番号	

症状について

[1] どのような症状ですか？（できるだけ詳しくご記入ください）

① 電源は入りますか？	□ はい	□ いいえ	□ 時々
② 本体ランプは点灯しますか？	□ はい（　　　色）	□ いいえ	
③「Lui」ロゴは表示されますか？	□ はい	□ いいえ	□ 時々
④ ホームメニューは立ち上がりますか？	□ はい	□ いいえ	□ 時々

[2] その症状はいつから発生していますか？　20　　年　　月　　日頃から

[3] その症状はどんな操作をしたときに起こりますか？

[4] 症状の発生頻度を教えてください

□ 常時　□ 一日に数回　□ 週に数回　□ 月に数回
□ 年に数回　□ 不定期的に　□ 過去に発生した

[5] お客様が増設した周辺機器があれば、製品名をご記入ください

[6] 電子メールに関する故障の場合は使用回線を教えてください

□ アナログ電話回線　□ ISDN　□ ADSL　□ 光回線　□ CATV　□ 社内LAN
□ その他〔　　　　　　　　〕

付録

B欄・修理申込用

1 お買い上げ日	20　　年　　月　　日
2 保証書の添付について	□ 無 □ 有〔保証書には販売店印または販売店の発行する領収書(購入日がわかるもの)が必要です〕
3 修理料金見積りについて	□ 見積不要(修理連絡なしに修理してもよい) □ 見積連絡不要　※見積連絡の必要がないので早く修理品を返却できます。 〔　　万　　千円以下(税込)であれば連絡なしに修理してもよい〕 □ 見積連絡必要
4 お預りする添付品について	□ 無 □ 有 (□ ACアダプタ □ 電源コード □ 保証書 □ その他(　　) □ バッテリパック □ CD媒体)
5 ※1 [重要]設定情報の初期化について	□ 同意する □ 同意しない (故障原因により、ご同意いただけないと修理を行うことができません。そのままお返しすることをご了承ください。)
6 ※1 起動時のパスワード	ユーザー名〔　　〕 パスワードの設定 (□ 設定していない(修理を出す前に解除した) □ 設定しているが「12345」(半角)に変更した □ パスワードを教える。〔パスワード　　〕)

注意事項

※1 修理に出される前に、必ずパスワードを解除するか「12345」(半角)に変更していただくようお願いいたします。

ご希望により当社でパスワードを解除(有料)する場合は、121コンタクトセンター(フリーコール　0120-977-121※)〈修理受付〉までお問い合わせください。認証解除等においては再セットアップが必要になる場合があります。

※ 携帯電話やPHS、IP電話など、上記電話番号をご利用いただけないお客様は次の電話番号へおかけください。
03-6670-6000(通話料お客様負担)

修理約款

NECパーソナル製品修理約款

第1条　（約款の適用）

本約款は、第2条に定める対象機器を購入された方（以下「お客さま」といいます。）が「121コンタクトセンター（フリーコール0120-977-121）」経由でNECサービスセンターに修理依頼される場合、「121ware.com」の「121故障診断サービス」（以下故障診断サイトといいます）より修理依頼される場合、NECパーソナルプロダクツ株式会社（以下「当社」といいます。）指定の修理拠点（以下「当社指定修理拠点」といいます。）に修理依頼をされた場合、または販売店を経由してNECサービスセンターもしくは当社指定修理拠点（以下総称して「NECサービスセンター等」といいます。）に修理を依頼される場合の基本条件を定めたものです。お客さまがNECサービスセンター等に修理をお申し込みされた場合には、本約款に同意されたものとさせていただきます。なお、お客さまが日本国外から修理の依頼をされている場合に本約款は適用されないものとします。

第2条　（定義）

本約款の対象となる機器（以下「対象機器」といいます。）とは、お客さまが日本国内仕様の日本電気株式会社製もしくは当社製のパーソナルコンピュータおよびその周辺機器とします。

2.修理とは、日本国内において故障した対象機器の機能・性能を修復または維持を目的とし、機能・性能が同等の新品部品または機能・性能が同等に品質保証された再利用部品と故障した部品の交換作業等をいいます。

第3条　（修理の手続き方法）

「121コンタクトセンター（フリーコール0120-977-121）」経由でNECサービスセンターに修理依頼される場合の修理の手続きについては、保証期間内外にかかわらず「121コンタクトセンター（フリーコール0120-977-121）」にお電話いただき、送料、梱包料無料の「引き取り修理（NECあんしんサービス便）」をご利用ください。
現象や使用状況等をお伺いのうえ当社にて故障診断させていただきます。
なお、故障診断サイトから修理依頼される場合の修理手続きについては、故障診断サイト上に表示された注意事項および約款をよくお読みになり、当該サイト上の表示に従って修理手続きを行ってください。
また、離島の一部地域および引き取り修理（NECあんしんサービス便）ができない一部の対象機器（大型ディスプレイ、プリンタ等）の場合、販売店への持ち込み修理または出張修理をご利用ください。なお、対象機器の添付品の修理をご希望される場合、対象機器の添付品のみの修理受付はお受けできませんので、必ず対象機器の本体および添付品の両方をお渡しください。

(1)　引き取り修理（NECあんしんサービス便）
当社指定の宅配業者がお客さまのご自宅から、
i)故障された対象機器本体、
ii)対象機器の添付品（電源コードやキーボード等。ただし、マニュアル等の添付書類を除く。）、
iii)修理チェックシート（故障診断サイトから修理依頼される場合を除く。なお、その場合には故障診断サイト上で必要事項を登録いただきます。）、
iv)保証書の原本（保証期間中の場合のみ）
を引き取り、修理完了後にお客さま宅にお届けします。なお、当該引き取りおよびお届けにかかる送料は、保証期間（保証書に定める保証期間をいい、以下同じとします。）の内外を問わず、無料となります。

(2)　持ち込み修理
販売店に故障した対象機器を持ち込み、NECサービスセンター等に修理を依頼いただいた場合、故障した対象機器をお預かりし、修理完了後に販売店に返却させていただきます。

(3)　出張修理
出張修理を希望される場合、「121コンタクトセンター（フリーコール0120-977-121）」にお電話いただき、出張修理の手続きを行ってください。当社が委託する協力会社の担当者がお客さま宅を訪問し、修理を行います。なお、出張料は、保証書等で無料と定められている一部の対象機器を除き、保証期間の内外を問わず、有料となります。また、離島の一部地域では、出張料とは別に出張に要する実費（フェリー代、宿泊代等）をお客さまにご負担いただく場合があります。

2.修理の必要がないとNECサービスセンター等が判断した場合、またはお客さまが申告された故障の現象が確認できず修理の必要がないとNECサービスセンター等が判断した場合、対象機器の修理をせずにお客さまに返却させていただきます。
なお、この場合、当社所定の診断作業にかかる診断料をお客さまが負担するものとします。

第4条 （保証期間内の修理）

取扱説明書、対象機器添付ラベル等の注意書きに基づくお客さまの正常なご使用状態のもとで保証期間内に故障した場合、対象機器に添付の保証書（以下「保証書」といいます。）記載の保証規定に従い、ハードウェアの無償修理を致します。（詳しくは、保証書に記載の保証規定をご覧ください。）

2.前項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても有償修理となります。この場合、第5条（保証期間外の修理）の規定に準じて修理を行うものとします。

（1） 保証書の提示がないまたは保証書が対象機器に添付されていない場合

（2） 保証書に保証期間、型番（型名）、製造番号および販売店名の記入のない場合、または字句を書き換えられた場合、その他事実と異なる記載がされていた場合

（3） お客さまによる輸送、移動時の落下、衝撃等、お客さまの取り扱いが適正でないために生じた故障、損傷の場合

（4） お客さまによる使用上の誤り、あるいは不当な改造、修理による故障および損傷

（5） 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損傷

（6） 本製品に接続している当社指定以外の機器および消耗品ならびにメディアの使用に起因する故障および損傷

（7） 有寿命部品または消耗部品が自然消耗、磨耗、劣化等により部品の交換が必要となった場合

3.第1項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても、無料保証の対象外作業となり、別途それぞれの料金が発生するものとし、お客さまはこれを負担するものとします。

（1） 第3条第1項第（3）号に基づき出張修理が発生した場合は、当該出張料

（2） ソフトウェアの再インストールで復旧する場合であって、お客さまが当該再インストールを希望された場合は、ソフトウェア再インストール料

（3） ウィルス駆除を必要とする場合であって、お客さまがウィルス駆除を希望された場合はウィルス駆除料

（4） お客さまが設定したパスワードの忘却やお客さまが施錠された鍵の紛失により、パスワード解除作業を行う場合、または、マザーボード、本体カバーその他の部品の交換が必要になった場合の修理料金

（5） その他当社が指定する有償作業を行う場合

第5条 （保証期間外の修理）

対象機器の保証期間終了後（以下「保証期間外」といいます。）の修理をお客さまが当社にご依頼した場合、当社は、有償にて修理を実施致します。

2.次の各号のいずれかに該当する場合は、修理料金の他にそれぞれの別途料金が発生するものとし、お客さまはこれを負担するものとします。

（1） 第3条第1項第（3）号に基づき出張料が発生した場合は、当該出張料

（2） ハードウェア部分に起因する故障ではなく、ソフトウェアの再インストールで復旧する場合で、お客さまが当該再インストールを希望された場合は、ソフトウェア再インストール料

3.対象機器お預かり後にお客さまが修理の依頼をキャンセルされた場合（第6条第2項および第3項に定める場合を含みます）は、診断料が発生するものとし、お客さまはこれを負担するものとします。ただし、お客さまによる修理ご了承後のキャンセルは一切お受けできません。

第6条 （修理料金の見積もり）

有償修理となる修理依頼時（故障診断サイトからの修理依頼を除く。）において、お客さまが修理料金の見積もりを当社に希望された場合、見積もり金額をお客さまに通知するものとし、当該見積もり金額による修理について、お客さまにご了承いただいたうえで、修理を実施致します。ただし、修理料金の上限金額をお客さまからご提示いただいた場合、修理料金が上限金額内にある場合はお客さまにご了承いただいたものとして見積もり提示なしに修理を実施致します。

2.前項において、お客さまに見積もり金額をお知らせした日から1か月を超えても、お客さまから当社に見積もりに対するご回答がなかった場合は、お客さまが修理のご依頼をキャンセルされたものとし、当社は、修理を実施せずに、お預かりした対象機器をお客さまに返却致します。

3.既にお客さまに通知済みの見積もり金額と修理の過程における修理金額に差異が生じた場合、当社は、再度お見積もり金額をお客さまに通知し、お客さまのご承諾を再度いただいたうえで、修理を実施させていただきます。なお、当該再見積もり後の金額での修理にご了承いただけなかった場合、お客さまによる修理のご依頼はキャンセルされたものとし、当社はお客さまが診断料を負担することを条件に対象機器をお客さまに返却します。

4.故障診断サイトからの修理依頼の場合、有償修理となる修理依頼時の修理料金の見積もり提示および出張修理はできません。有償修理となる修理依頼時の修理料金の見積もり提示および出張修理をご希望される場合には、「121コンタクトセンター（フリーコール0120-977-121）」経由でNECサービスセンターにご依頼してください。

第7条　(修理料金等の支払い方法)

第4条または第5条に基づき発生した修理料金等については、お預かりした対象機器の返却時に代金引き換えによる方法(代金引き換え手数料は当社で負担します。)にてお支払いいただきます。なお、引き取り修理(あんしんサービス便)の場合の領収書については、お客さまから代金を回収する宅配業者が発行する領収書が正規領収書(以下「正規領収書」といいます。)となります。なお、当社および宅配業者では、正規領収書以外の領収書の発行および正規領収書の再発行は一切承っておりませんのであらかじめご了承ください。また、引き取り修理(あんしんサービス便)の場合、一部地域(離島等で代金引き換えができない地域)では、お客さまの手数料負担による振り込みとなりますので、あしからずご了承ください。

第8条　(修理期間)

第3条第1項に定める引き取り修理(NECあんしんサービス便)の場合、当社は、対象機器のお預かりから修理完了後の対象機器の納品まで、原則として7日間で対応致します。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は7日間以上の日数を要する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

(1) お客さまから伺った故障の現象が確認できず、修理箇所の特定ができない場合

(2) 引き取り修理(NECあんしんサービス便)において、対象機器の引取先が一部地域(離島を含む)の場合、または大型の対象機器の場合

(3) 修理に使用する部品の在庫切れ等による場合

(4) 有償修理において、お客さまが修理料金の見積もりを希望された場合

(5) 販売店を経由して修理の申し込みをされた場合

(6) お客さまのご都合により、修理完了後の対象機器の返却日の日程変更等が生じた場合

(7) 天災地変、戦争、暴動、内乱、輸送機関の事故、労働争議その他不可抗力の事由が生じた場合

第9条　(修理品の保管期間)

第3条第1項に定める引き取り修理(NECあんしんサービス便)の場合であって、修理完了後にお客さまに修理の完了ならびに返却日をお知らせしているにもかかわらず修理後の対象機器をお客さまにてお受け取りいただけない場合、または対象機器お預かり後にお客さまが修理のご依頼をキャンセルされたにもかかわらず当該対象機器をお客さまにてお受取りいただけない場合、対象機器をお預かりした日から6か月間の保管期間の経過をもって、当社が当該対象機器を当社所定の方法にて処分できることにお客さまは承諾するものとします。この場合、お客さまは、当該保管期間に要した費用ならびに当該処分に要する費用(回収・リサイクル料金等含む)を負担するものとします。

第10条　(故障部品の取り扱い)

無償修理および有償修理の過程で当社が取り外した部品は、環境保護および長期にわたる修理部品提供のために、再調整後検査し、新品部品と同等に品質保証された部品として再利用する場合があります。また、当該部品の所有権は、当社に帰属するものとし、当該部品はご返却できません。

再利用する主な部品:筐体・メモリ・LCD(液晶ディスプレイ)・CRTディスプレイ・ハードディスク・マザーボード・CPU等

第11条　(修理ご依頼時の注意事項)

お客さまは、修理をご依頼されるにあたり、あらかじめ以下の事項についてご承諾いただくものとします。

(1) お客さまが保証期間内に修理をご依頼される場合は、必ず対象機器に同梱されている保証書を対象機器に添付いただくものとします。

(2) 修理の際、お客さまが修理をご依頼された対象機器の記憶装置(ハードディスク等)に記録されたデータ、プログラムならびに設定内容は、消去される場合があります。必ず修理をご依頼される前に、お客さまの責任においてあらかじめバックアップされるか、重要な内容は紙等に控えておいてください。記録されたデータ、プログラムならびに設定内容が変化・消失したことによる損失・損害の請求につきまして当社は一切の責任を負いかねます。

(3) 当社は、修理の際、取り外したハードディスクに記録されていた内容は、データ消去処理(ハードディスクの磁気記録面に特殊パターンを書き込む方法により復元不可能な状態にする処理)またはハードディスクの破壊処理を行い、データ消去致します。

(4) 修理の内容により、ハードディスクの初期化・データ消去が必要となる場合がありますので、ハードディスクの初期化・データ消去にお客さまはご同意いただいたうえで、修理をご依頼いただくものとします。これにご同意いただけない場合、修理をすることができず対象機器をお客さまに返却する場合があります。この場合、当社はお客さまが修理のご依頼をキャンセルされたものとします。

(5) 修理完了後のソフトウェアの再インストールおよびセットアップ等につきましては、お客さまご自身で実施いただくものとします。

(6) お客さまご自身で貼り付けられたシール等につきましては、取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。また、お客さまご自身で行われた塗装や刻印等につきましては、元の状態への復旧はできないものとします。

(7) 当社は、修理期間中の対象機器の代替機の貸し出しは行わないものとします。

(8) お客さまが対象機器にパスワードを設定されている場合は、当該設定を解除したうえで修理をご依頼いただくものとします。

(9) 対象機器の修理とは関係のないフロッピィディスクや光ディスク等(CD－ROM、DVD－ROM、MO等)の記録媒体、他の機器との接続ケーブル、ならびに添付品(当社が修理の際に要求した場合を除く)等につきましては、事前にお客さまが対象機器から取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。なお、万が一これらが対象機器に付加された状態で修理をご依頼いただいた場合、当社ではこれらの管理につき一切責任を負いません。

(10) 修理のご依頼時に、当該修理に添付されたフロッピィディスクや光ディスク等(CD－ROM、DVD－ROM、MO等)の記録媒体が必要である旨当社からお客さまにお知らせした場合は、お客さまは必ず対象機器に同梱されている当該記録媒体を故障した対象機器とあわせて送付いただくものとします。

(11) LCD(液晶ディスプレイ)は、画面の一部に画素の欠けや常時非点灯、常時点灯等が存在することがありますが、故障ではありません。この場合の修理および交換は致しかねます。

(12) 次の各事項のいずれかに該当するものは、修理または交換の対象から除かれるものとし、当社では修理しないものとします。

a. お客さまが対象機器出荷時の標準搭載以外の部品を使用されたことに起因する故障の修理
b. 装置製造番号が不明等により製品出荷情報が読み取れないものまたは製品出荷情報が加工されたと当社が判断したものの修理。
c. コンピュータウィルス(ワーム、スパイウェアなど含む)の除去
d. 液晶ディスプレイの一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在する場合の修理・交換
e. 対象機器の記憶装置(ハードディスク等)に記憶されたデータ、プログラムならびに設定内容のバックアップおよび復旧作業

(13) 修理作業の都合上、お預かりいたします機器のハードディスクにアクセスを行う場合があります。

(14) 対象機器は電磁気、温度、湿度、振動、通常の使用環境と異なる状況等により正常に動作しなくなる場合があります。使用環境の不良により対象機器に障害が発生したと考えられる場合には、修理の拒否ができるものとします。

(15) いかなる場合も、対象機器の修理作業の完了後に修理実施前の状態に戻す作業はお受けできません。

第12条 (補修用性能部品)

補修用性能部品とは、対象機器の機能・性能を維持するために必要な部品または機能・性能が同等に品質保証された再利用された部品をいいます。

2.当社における補修用性能部品の最低保有期間につきましては、対象機器に添付の保証書記載のとおりとなります。補修用性能部品の保有期間の終了をもって、当該対象機器の修理対応は終了となります。

第13条 (有寿命部品について)

対象機器には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日に約8時間、1ヵ月で25日のご使用で約5年です。
上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。
なお、24時間を超えるような長時間連続使用等、ご使用状態によっては早期に寿命となることがあります。

【対象品名】

液晶ディスプレイ(注1)、ハードディスクユニット、光ディスクドライブ(注2)、フロッピーディスクドライブ、タッチパッド、マウス(注3)、冷却用ファン、ディスプレイ開閉部(ヒンジ)(注4)、ACアダプタ(ノートPC)/電源ユニット(ディスクトップPC)

(注1) 工場出荷時から画面の明るさが半減するまでの期間。
(注2) それぞれ内蔵されているモデルが対象です。
(注3) 同梱されているモデルが対象です。
(注4) 液晶ディスプレイを開いたときに固定するための内部部品です。

社団法人 電子情報技術産業協会「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」参照

第14条 (機密保持)

お客さま、当社、および当社が業務委託する第三者は、本修理の履行に関連して知り得た相手方の業務上の秘密、個人情報、その他の秘密を他に開示しないものとします。

第15条 (個人情報の取り扱いについて)

当社は、個人情報(特定の個人を識別できるもの、以下も同様とします。)を取り扱う際に、個人情報の保護に関する法律をはじめ個人情報保護に関する諸法令、および主務大臣のガイドラインに定められた義務、ならびに当社の定める個人情報保護ポリシーを遵守します。

2.個人情報の利用目的は次のとおりとします。

(1) お預かりした機器の輸配送を含む修理サービス提供のため

(2) 製品および品質向上のための統計分析

(3) 修理に関するアフターケアコールサービス(電話による修理後の機器状況の確認)

(4) アンケート調査

3.修理業務で知り得たお客さまのプライバシー・個人情報に関して、利用目的、および開示・訂正・削除に関するお問い合わせは、「121コンタクトセンター」(フリーコール 0120-977-121)で承ります。

第16条　（責任の限定）

当社が実施した修理において、当該修理時の「診断・修理報告書」を添えてその旨お客さまより当社にご連絡いただいた場合でかつ同一箇所の再修理が必要と当社が認めた場合（ただし、前回修理時に症状が再現しなかった場合を除く）には、修理完了日より3ヶ月以内まで、当社は無償で修理を致します。

2.当社は、対象機器の修理作業において、当社の故意または重過失に起因する場合を除くいかなる場合においても、当社の責に帰すことのできない事由による損害、当社の予見の有無を問わず特別な事情から生じた損害、逸失利益、派生的損害、第三者からお客さまに対してなされた賠償責任に基づく損害、オペレーティングシステム、データその他のソフトウェアの破損、変更、または消滅については、責任を負わないものとします。

3.本修理作業の結果として、オペレーティングシステム、データその他のソフトウェアの再導入、再構築が必要になった場合、当社はその責任を負わないものとします。

第17条　（約款変更）

当社は、本約款の内容を変更する必要が生じた場合は、予告なく見直すことができるものとします。お客さまに対する通知は、121ware.comなど当社修理保守サービスの情報を提供するホームページでの表示により行われるものとします。

第18条　（専属的合意管轄裁判所）

本約款に基づく対象機器の修理に関する訴訟については、東京地方裁判所をもって第一審における合意上の専属的管轄裁判所とします。

第19条　（協議）

本約款に定めのない事項、本サービスにつき疑義の生じた事項については、お客さまと当社の間にて別途協議のうえこれを決定するものとします。

付則　本規約は、2006年11月1日より適用します。

以上

付録

オープンソースソフトウェアに関するお知らせ

このたびは、弊社製品をお求めいただき、まことにありがとうございます。お客様が購入されたこの製品には、以下のオープンソースソフトウェアを使用しております。これらのソフトウェアは弊社が各著作権者とのライセンス契約に基づき使用しており、各著作権者の要求で弊社には下記内容をお客様に通知する義務があります。下記内容をご一読いただけますよう、お願いいたします。

OpenSSL License

– –

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project
for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project
for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

– –

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2.1, February 1999

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the “Lesser” General Public License because it does Less to protect the user’s freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users’ freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a “work based on the library” and a “work that uses the library”. The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called “this License”). Each licensee is addressed as “you”.

A “library” means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The “Library”, below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A “work based on the Library” means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term “modification”.)

“Source code” for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a

tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a “work that uses the Library”. Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer’s own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable “work that uses the Library”, as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library 'Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

ユーザーズマニュアル

初版 **2009年1月**
NEC
853-811001-001-A
Printed in Japan

LUI RN
ユーザーズマニュアル

NECパーソナルプロダクツ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11-1（ゲートシティ大崎 ウエストタワー）

このマニュアルは、再生紙を使用しています。